建築と社會

第八輯　第八号



日本建築協會

大正十四年八月一日

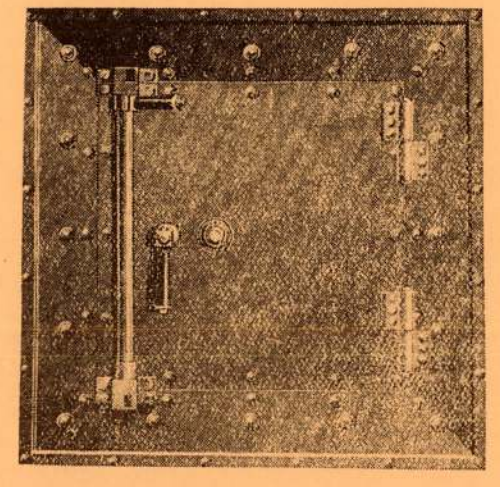
大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
大正十四年八月一日發行（毎月一回一日發行）
（第八輯第八號）

大谷製
舶來形金庫扉

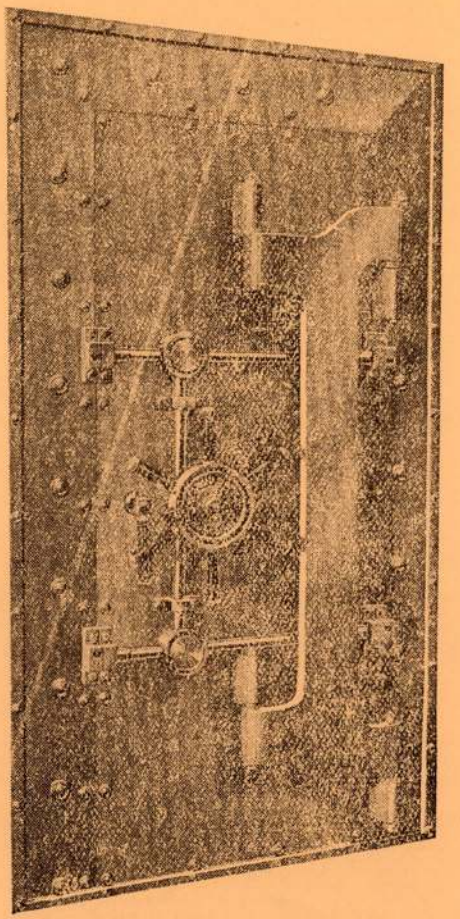


大谷金庫店技師

獨逸工學士
アルハレツトシユハルト



正金銀行大阪支店納



製作品目

一金庫
一金庫室扉
一保管金庫
一御眞影デポジツトボックス奉安庫

東京市京橋區岡崎町二丁目二十五番地
大谷金庫店
電話銀座三一二四番

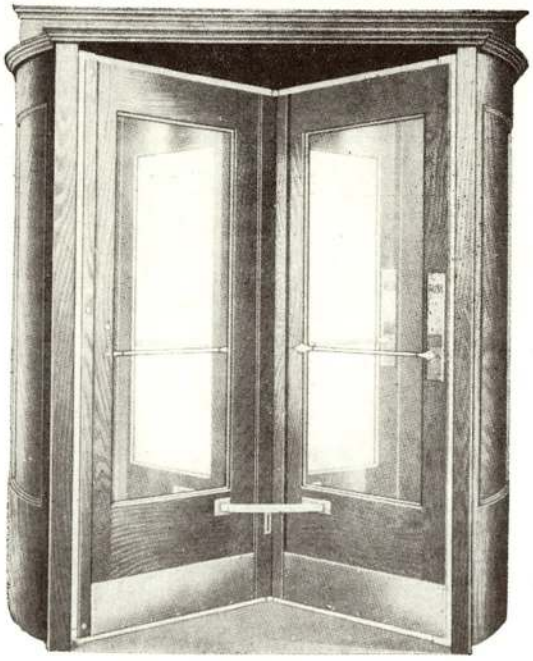
大阪市淀屋橋筋道修町四丁目
大谷金庫店
電話本局三九三四番

京都市松原通東洞院東入
大谷金庫店
電話下五三二番

神戸市楠町六丁目
大谷金庫店
電話本局四八〇七番

回轉扉

米國ヴアンカンネル
レボルビングドアー
コムパニー製造



特徴

1. 煖房燃料ノ節約
2. 塵芥ノ防禦
3. 雜音ノ遮斷
4. 出入ノ整然
5. 換氣ノ良好
6. 耐久ノ堅牢
7. 體裁優美

其他一般建築ニ關スル

確實 次ノ附帶工事 嶄新

- **▲昇降機** A. B. See式 客及荷用昇降機、其他リフト竝コンベーヤー一般
- **▲煖房換氣** 自動ガススチームラヂエーター、煖房裝置一般、キヤリアー式溫濕度調整裝置
- **▲氣動輸送** ラムソン式高壓及眞空氣動輸裝置、テムソン式ウアイアリングセージシステム
- **▲電氣工事** ガーランドチユーブ、ブライアントスキツチ、其他電氣配線工事一般
- **▲金庫扉** 米國最古ノ歷史ヲ有セル、ハリングホールマルビン金庫及金庫扉

内田商事株式會社 大阪市北濱四丁目三

紐育 東京 神戸



―口繪―

(I)・大阪市立産業奬勵館内部
(II)・同上外觀
(III)・同上平面圖
(IV)・同上
(V)・同上
附、建築概要

■「笑ひ」……（一）

■夏木立……（二）

▲地震と大阪市……松山基範…（三）

▲都市計畫施行都市と其區域問題……加藤善吉…（三）

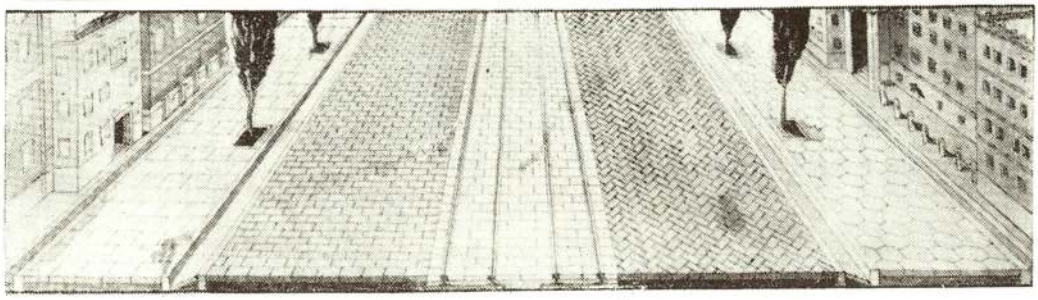
▲『吾人に家無し安そ祖國あらむ』……白井和夫…（一七）

▲街路樹に就いての研究……方米治郎…（二〇）



八輯第八號目次

▲舞臺の變遷と其の週期……池田谷久吉…(二七)
▲西班牙の室内裝飾家具……山崎萬壽夫…(三〇)
▲埃及古墳の顏料……細木松之助…(三六)
▲古建築としての『淨土寺』……菅田登美雄…(三九)
▲病院建築は斯うあり度い……小幡龜壽…(五〇)
▲紀行 蓮と暑……齋藤溪舟…(六九)
{創作} 食卓を超へた人生……草舍主人…(九五)
■俳壇……溪舟選…(六八)
◉主要建築材料値段……(七〇)
◉日本建築協會々報……



鋪裝界の權威

ロックアスファルトブロック

「ロック、アスファルト」（原名ピチューミナス、ライムストン）ハ舗裝材トシテ世界的ニ「オーソライズ」サレヲル事ヲ記憶セラレヨ。

大自然ノ偉力ニヨリ有史以前石灰石（ライムストーン）ニ瀝青（ピチューミン）ノ神秘的ニ浸透セラレタルモノナリ。

從テ普通「アスファルト」ニ人工的努力ヲ施スル模倣絶對不可能ナリ。

歐米先進國施工法ハ「ブロック」及「タンピング」ノ二種ノ內主トシテ「タンピング」施工ナレドモ本邦ニ於テハ風土ノ關係上「ブロック」施工ヲ適當トス

「ロック、アスファルトブロック」製造法ハ原鑛ヲ細粉シ適切ノ溫度ニ加熱シタルモノニシテ高壓ヲ加ヘ一定ノ型ニ造リタルモノナリ

「ロック、アスファルトブロック」實地施工法ハ「コンクリート」三寸乃至五寸ヲ基礎トシ「モルタール」ニテ無目地ニ競合スルモノナリ

「ロック、アスファルトブロック」ニテ各所施工シタル道路面及校庭ハ至極好成績ニシテ當事者ノ好評ヲ博セリ

主要用途

道路面鋪裝、學校運動場、「プラットホーム」倉庫、工場、劇場、其ノ他一般建築ノ床面廊下等ノ鋪裝

特ニ鐵筋「コンクリート」建築物ノ屋上露面、防水、鋪裝ニ頗ル妙ナリ

特長

耐久力甚大、美觀、無音響、滑辷絶無、熱及光線ノ反射些少、絶體防水

施工法簡易ニシテ、價格比較的廉ナリ

（御紹會次第型錄及見本持參說明）

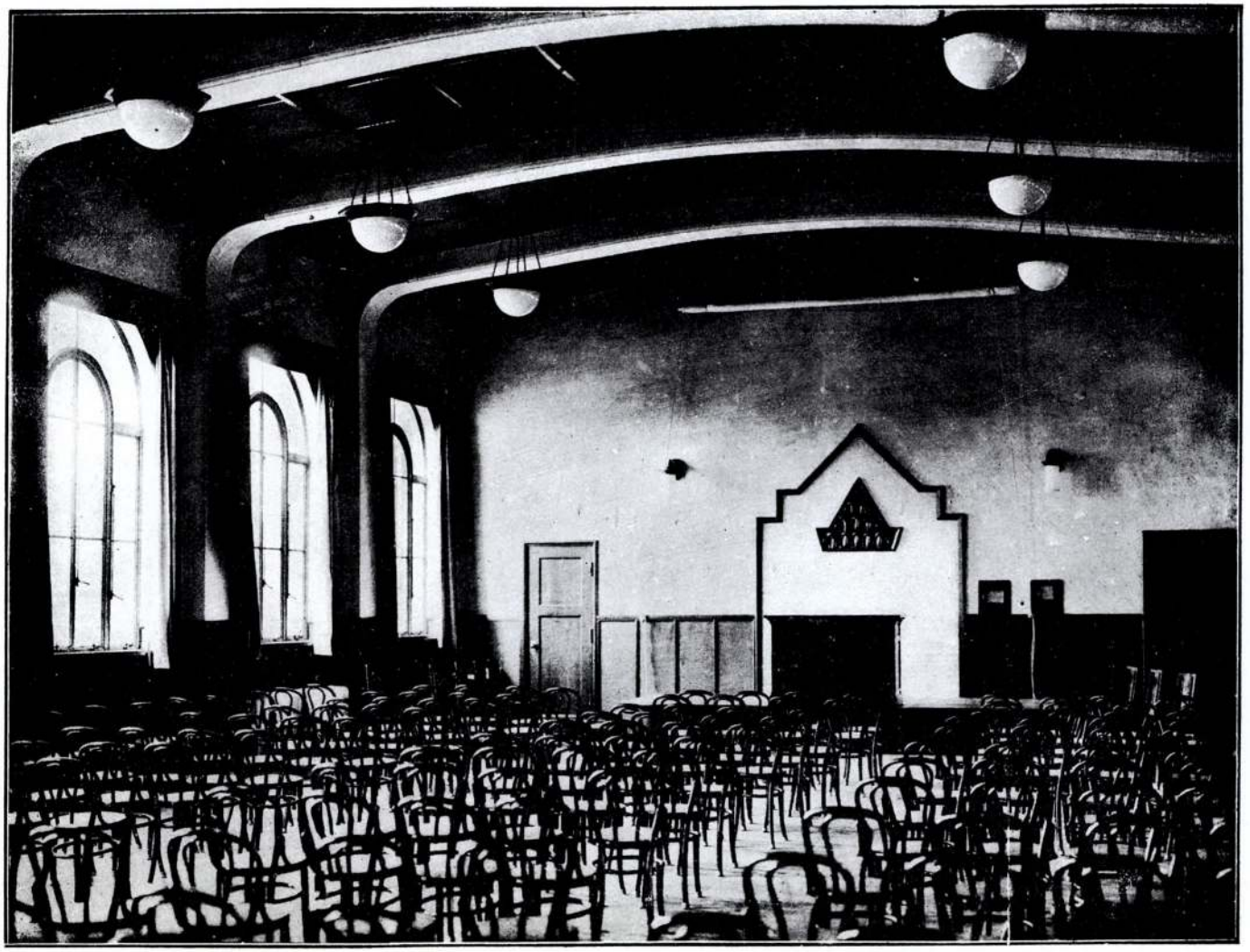
ロック、アスファルト工業株式會社

本社　大阪市西區立賣堀南通四丁目一番地

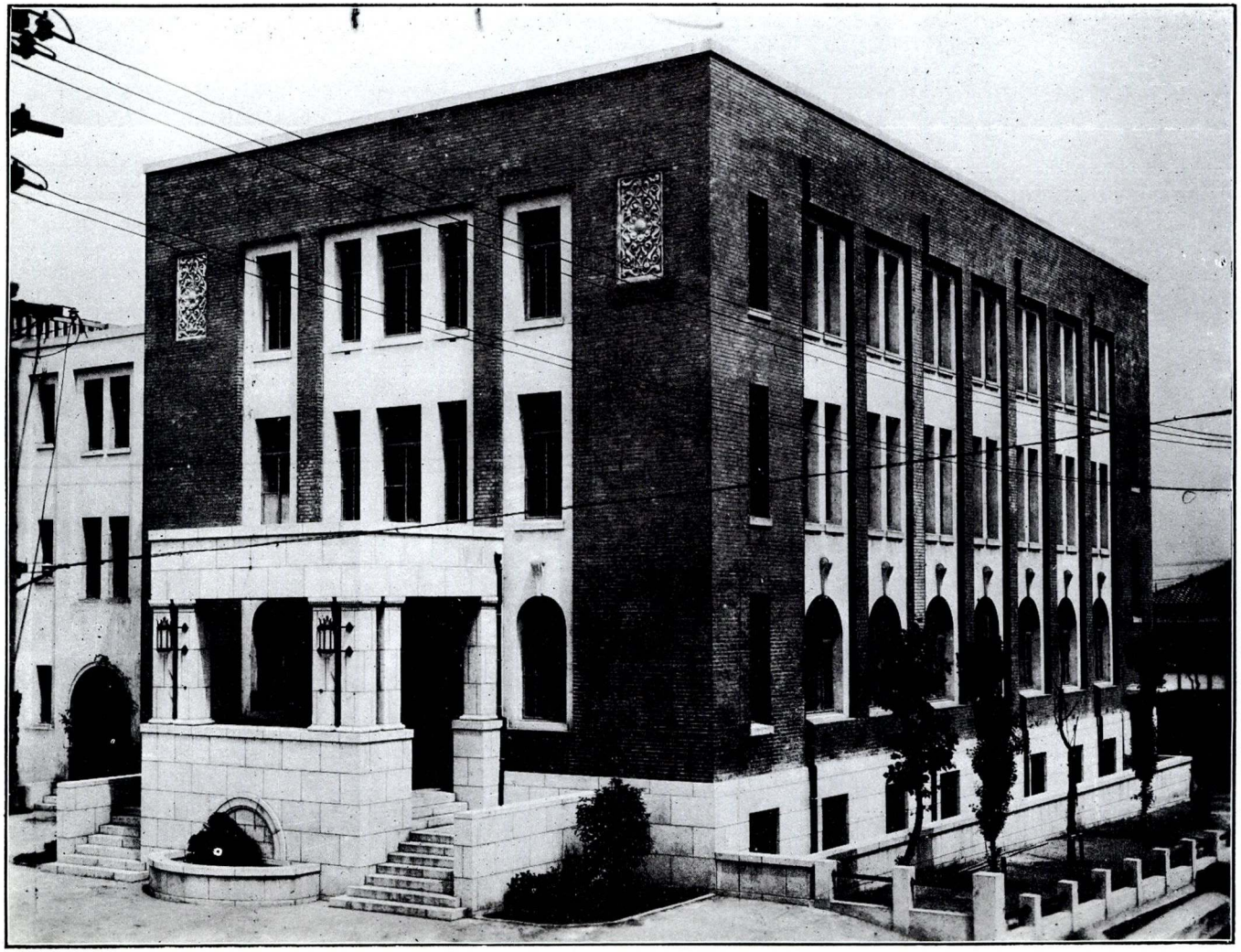
電話新町（長）一七七番 一七八番 一七九番

工場　大阪市西區新炭屋町三十一番地

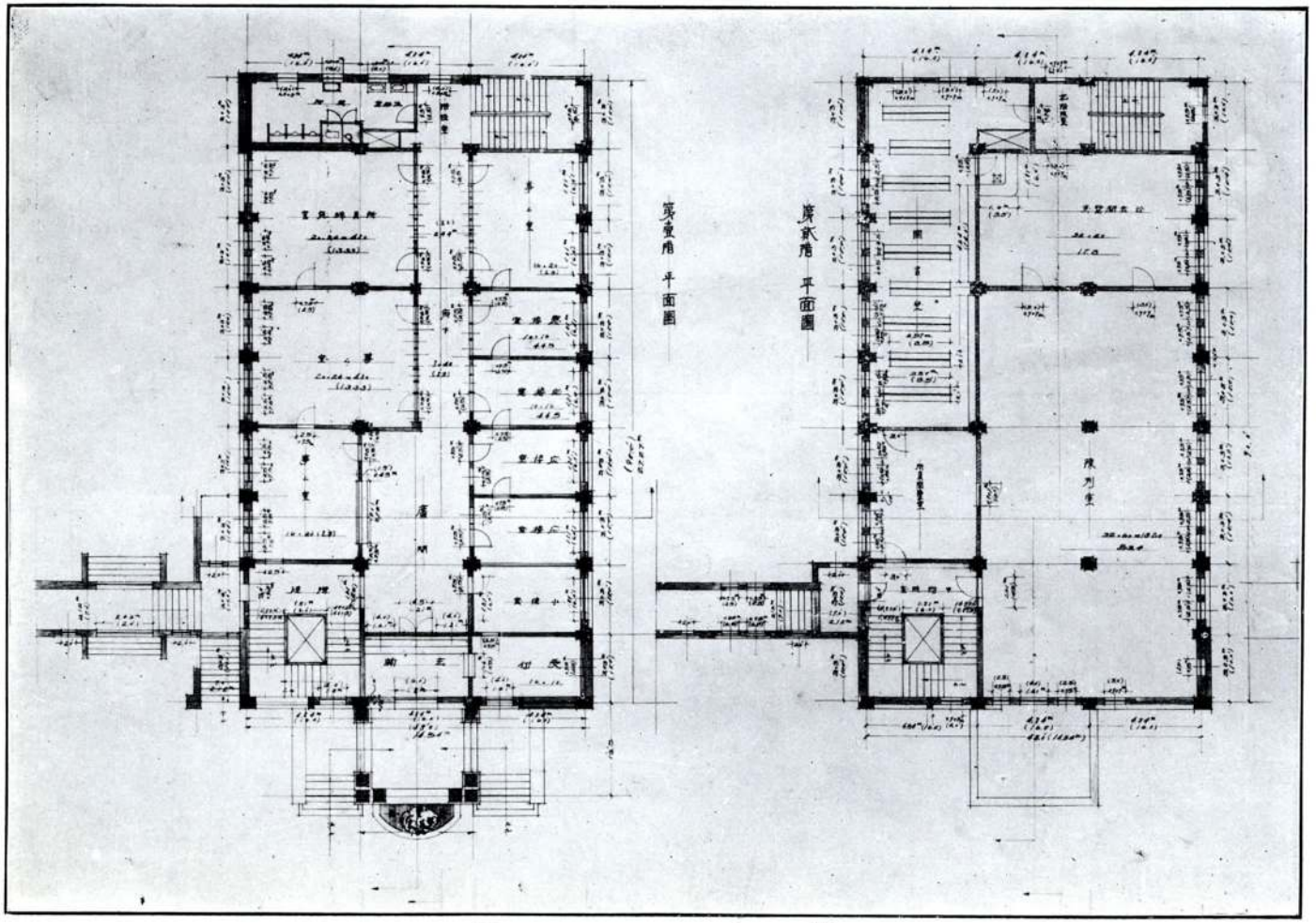
電話櫻川六一五番



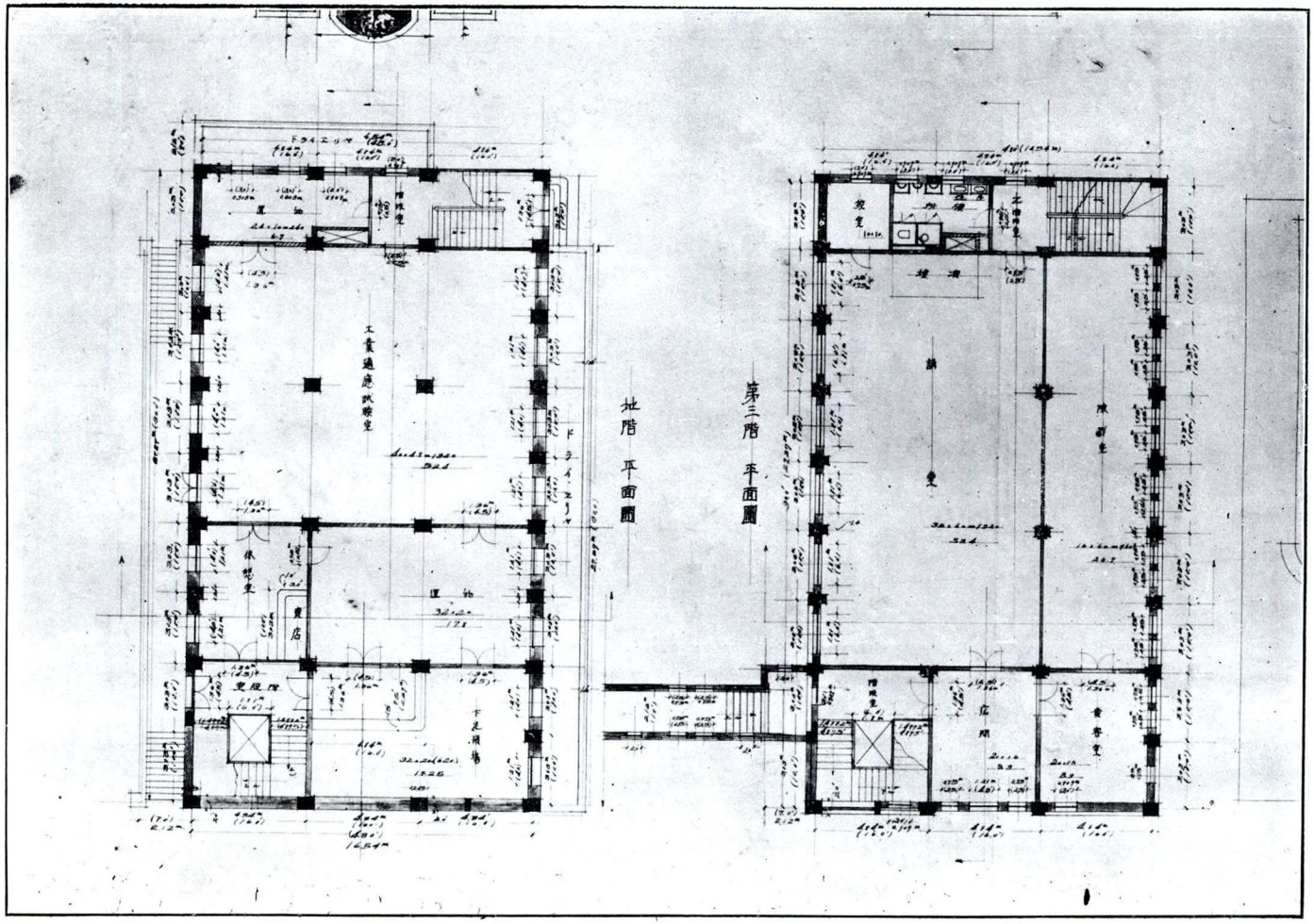
皇太子殿下御成婚紀念　産業奬勵館講堂（大阪市北區黒崎町）



其二——外觀



其三



四　其

皇太子殿下
御成婚記念

産業奬勵館新築概要

一、位置　大阪市北區北扇町　市立工業研究所東隣同所構内

二、坪數（敷地面積二千二百坪）

建坪　一二〇、〇〇〇
別に車寄　六、〇〇〇
渡廊下　六、四二〇

延坪　四八四、四四〇
別に車寄　六、〇〇〇
渡廊下　一九、四五一

内譯

地階　一二〇、〇〇〇
一階　一二〇、〇〇〇
二階　一二〇、〇〇〇
三階　一二〇、〇〇〇
屋上階段室　四、四四〇

三、様式　近世式

四、本館は市立工業研究所別館なるを以て各階渡廊下にて工業研究所と連絡す。
本館は地階共四階建とす。
便所、廊下、階段室の他次の各室を配置す。

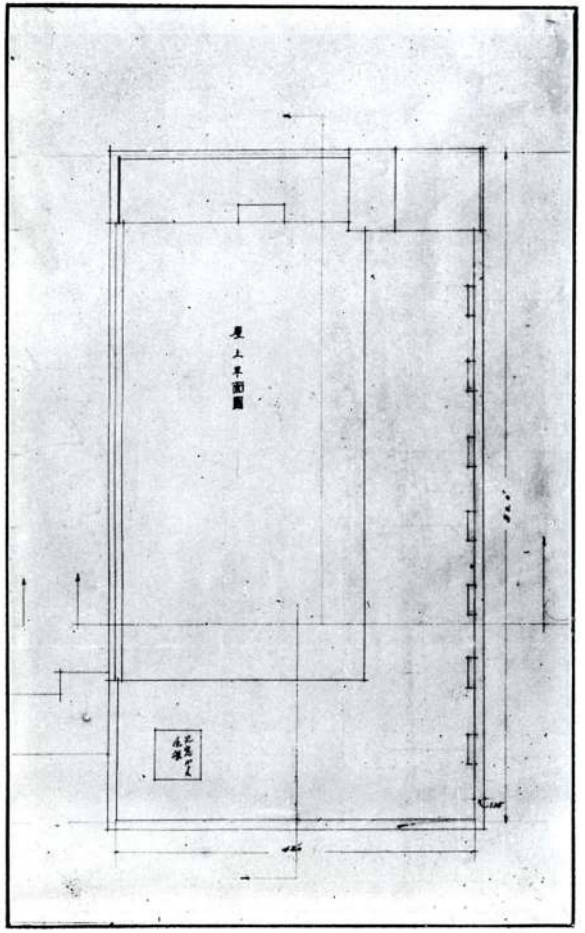
三階	二階	一階	地階
貴賓室	圖書庫	事務室 三	工業通際試驗室
講堂	公衆閲覧室	所員研究室	物置
陳列室	陳列室	應接室 四	下足預所
廣間	所員閲覧室	小使室	賣店
		受付	
		廣間	
		玄關	

五、工期　大正十三年十一月設計
大正十四年一月起工
大正十四年五月竣工

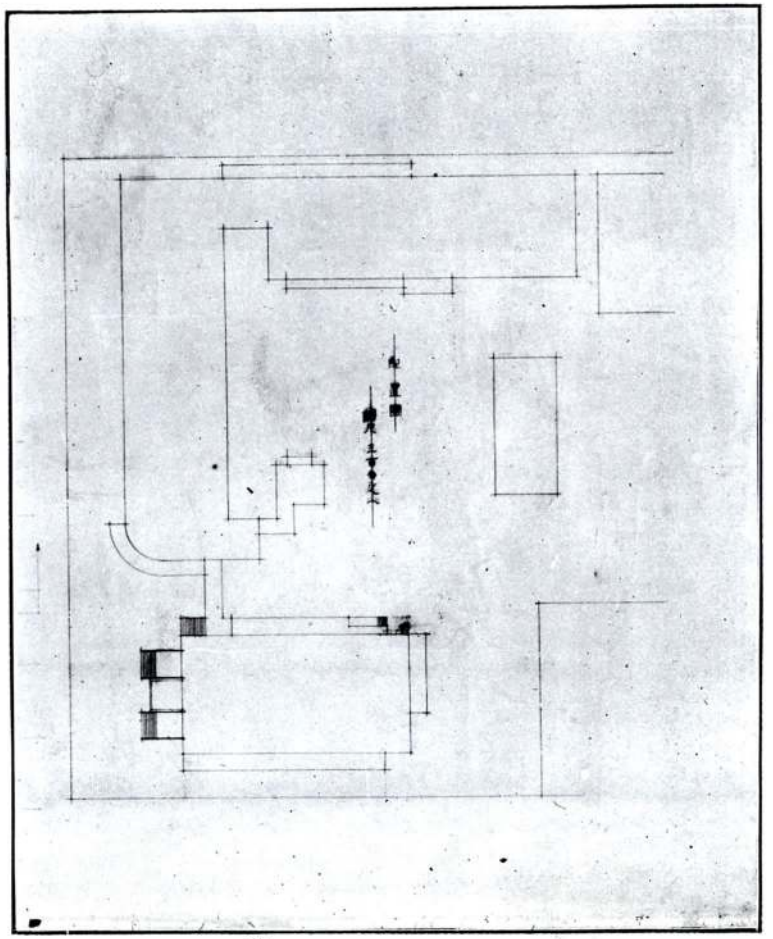
六、設計監督　大阪市營繕課

七、工事請負
建築工事　株式會社　錢高組
プロペラファン及電氣配線工事　沖尚商店
煖房工事　合資會社　東亞鐵工所
汚水淨化裝置工事　城口汚水處理研究所
消火及給水工事　須賀商會
電話及電燈器具取付工事　みよし組
土管埋設工事　上浦勘平
暗渠及排水工事　中村龜太郎
石張庫　西浦岩松

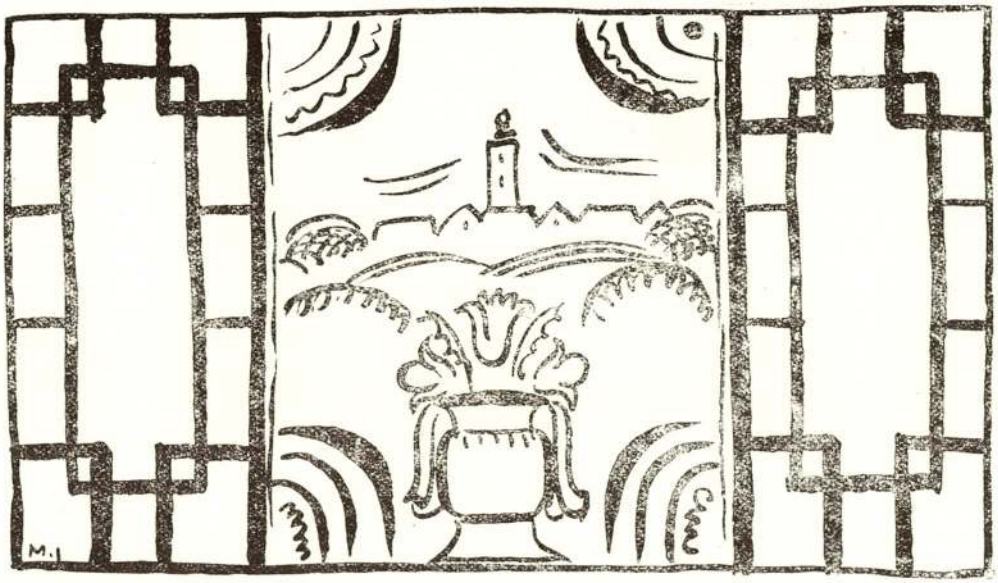
以上



五



其



ひ笑

『社會そのものによつて作られ、社會は分業の上に築かれてゐるから、社會にとつて必要な有り合せの型がある。それは、職業、官職、職務等を意味するのである。すべての專門的職業はその中に入つてゐる者即ち內輪同志を類似させることになり、また他と異つたものとする或る精神的習慣や性格的特性を支へる。かくして小社會が大社會の中に構成される。疑ひもなくそれは社會全般の組織そのものから出て來るのである。しかしながら若しあまり孤立に過ぎると、社會性を破ることになる危險がある。然るに笑はたしかに凡ゆる分裂的傾向を抑制することを任務としてゐる。その役目は凝固を匡正して柔軟にすることであり、個人を公衆に適合させ、尙ほ隨所で主角を丸くすることである。だから、われらは此處で一種の滑稽を獲ることになる。われは改てそれを職業上の滑稽と叫ぶ。』

——(ベルグンの「笑の哲學」——郊邨

夏木立ち

全國の新聞より

◎十時間で建てた家

如何にして家屋を極く短き時間に建てるかといふ一問題が近頃ホルト・トーマスといふ人によつて見事に解決せられたと云ふのは注目すべき事件である。彼は英吉利バッキンガムシヤイアのハイ・ウイコムブのベルフィールド材木工場に於いて同じ日の午前六時半に仕事を始め午後四時四十五分に立派に一棟の家屋を建て上げてしまつた。但し此時間は食事時間を含めずに正に十時間廿分である。こんな短時間で立派な一棟が竣功するとは誠に奇蹟ともいふべきである。彼は四人の熟練工と二人の勞働者とを使用し、仕事は彼れ自身親しく管理した。その時間表は次ぎの様である。午前六時半著手、六時五十分床を据ゆ七時半外部の壁塗り始まる、八時半内外の壁塗り終る、十一時切まを終る、天井張り、棟など出來上る、正午椳など全部嵌まる午後二時晝食を加へて屋根葺き終え、三時半瓦が載せ始められた、四時四十五分瓦の最後の載せ終る。斯うして出來上つた家はまるで繪の様に美しい、居室一つ、寢室二つ、浴室一つ、及び洗場等も小さく間切りして出來て居る。この家屋の建築費はデーリー・メールにホルト・トーマスの報告する所によれば、約三百磅で、この中には基礎としてのコンクリート又は煉瓦をも含み、相當の維持法さへ講じたら百年ぐらゐは大丈夫もつといふ。彼は曰く家屋材料として木材は煉瓦につぐ適當なもので、木材家屋の著るしい長命の國に於ける澤山の例證を有つ。そして又ロンドンの議會へ建築家が木材家屋の建設を提議してもよいと考へると。

◎府市共同の公園

大阪市を中心とした郊外大公園の計はかれて大阪府都市計畫課で計畫立案中であつたがその後大阪市城郡部に擴張されたに伴つて從來郡部に屬した公園候補地で自然市城にはいるものも生じてきたので、今後は府市共同で「商工農」の調査研究しかつ實施にあたるのが妥當であるとして目下府市當局共同で計畫立案をなし、地價の低廉な郊地から買收する方針でこれを物色してゐる、そして公園設置に對する府市の大體の分擔は、府は大公園の開設、市は主として市内小公園の經營にあたるはずで、これから府市と機關ともなつて知らず識らずの内に園藝其他一般農事趣味及びその知識を普及することの出來るといふ公園を兼ねた「市民農園」の設立である。これは新市方面の適當な場所で土地一萬坪許りを借り入れてその農園をつくらうと云ふのだがその農園が普通の農事試驗場などと異つて公園を兼ねさせるといふ所に新しさがある、即ち園内にはさまざまの樹木を植ゑつけ池を掘りくなつて置いて夏はあけ放し、冬は散歩道を設けて公園設備を整へるが現在の公園のやうに人工を加へる事はなるだけ避ける、そして普通の樹木の間には蜜柑、梨、柿、桃などつたやうな果樹を多く植ゑつける外温室を設けて蔬菜も栽培し花壇を設けて園藝方面にも力を入れる、出來る事ならば家禽類も飼育する、市民はそこへ自由に遊びに出かけて好きなものがあつたら實費で買つて歸る、育て方等について研究する、市農民は自由に出入りして研究することが出來る、當事者はまた實地に就て指導する……ことの出來るやうに設備をするとの云ふのである。

◎大大阪に『市民農園』

大阪市はこの春「市」の面積を擴げた結果として田畑五千六百二十町歩、農家七千二百戸を持つ事となりその田畑から取れるお米が一年に八萬石、お麥が八千石でその他の農產物を合はせると一箇年の農產額は六百萬圓をくだらず「商工の都」は遂に「商工農」の都となつたわけでそのため市には此の春新に「市農會」といふものも設立された、ところがこの市農會が「農の都」に恥ないやうにと今度大阪市と公園設置に對する府市の大體の分擔は、府は大公園の開設、市は主として市内小公園の經營にあたるはずで、これから府市と機關ともなつて知らず識らずの内に園藝其他一般農事趣味及びその知識を普及することの出來るといふ公園を兼ねた「市民農園」の設立である。これは新市方面の適當な場所で土地一萬坪許りを借り入れてその農園をつくらうと云ふのだがその農園が普通の農事試驗場などと異つて公園を兼ねさせるといふ所に新しさがある、即ち園内にはさまざまの樹木を植ゑつけ池を掘りくなつて置いて夏はあけ放し、冬は散歩道を設けて公園設備を整へるが現在の公園のやうに人工を加へる事はなるだけ避ける、そして普通の樹木の間には蜜柑、梨、柿、桃などつたやうな果樹を多く植ゑつける外温室を設けて園藝方面にも力を入れる、出來る事ならば家禽類も飼育する、市民はそこへ自由に遊びに出かけて好きなものがあつたら實費で買つて歸る、育て方等について研究する、市農民は自由に出入りして研究することが出來る、當事者はまた實地に就て指導する……ことの出來るやうに設備をするとの云ふのである。

◎夏を涼しい家

日本では家を涼しくして夏の生活をらくにすることが未だかつてない、殊に大阪のやうな大都市では一番必要であるのにその考へが殆どない、大阪測候所の溫度より二度位涼しい家を建てる位は何でもない、大阪では測候所の發表する溫度を見るとそんなに人が弱る筈がないのにどんく弱る、それは家の中が非常に暑いからである。家を涼しくするには風の方面を考へて窓をとり、自由通風が出來るやうに仕組めばよい一番いゝのは南北に窓をとればその知識を普及することの出來るといふ公園を兼ねた「市民農園」の設立である。これは新市方面の適當な場所で土地一萬坪許りを借り入れてその農園をつくらうと云ふのだがその農園が普通の農事試驗場などと異つて公園を兼ねさせるといふ所に新しさがある、即ち園内にはさまざまの樹木を植ゑつけ池を掘りくなつて置いて夏はあけ放し、冬は散歩道を設けて公園設備を整へるが現在の公園のやうに人工を加へる事はなるだけ避ける、そして普通の樹木の間には蜜柑、梨、柿、桃などつたやうな果樹を多く植ゑつける外温室を設けて園藝方面にも力を入れる、出來る事ならば家禽類も飼育する、市民はそこへ自由に遊びに出かけて好きなものがあつたら實費で買つて歸る、育て方等について研究する、市農民は自由に出入りして研究することが出來る、當事者はまた實地に就て指導する……ことの出來るやうに設備をするとの云ふのである。

◎夏を涼しい家

日本では家を涼しくして夏の生活をらくにすることが未だかつてない、殊に大阪のやうな大都市では一番必要であるのにその考へが殆どない、大阪測候所の溫度より二度位涼しい家を建てる位は何でもない、大阪では測候所の發表する溫度を見るとそんなに人が弱る筈がないのにどんく弱る、それは家の中が非常に暑いからである。家を涼しくするには風の方面を考へて窓をとり、自由通風が出來るやうに仕組めばよい



地震と大阪市

松山基範

氏は、理博にして京大の教授でゐられることは讀者も既知のことゝ思はれるが、本編は、曩に、大阪中央公會堂に於ける氏の講演に依りたるものなるが故に、文章上の責任は編輯者の負ふ處である。

一

都市の保護を圖ることが必要であると云ふ宣傳に伴つて、其都市に災害を加へる一つの適切なる出來事である所の地震が大阪にどう云ふ關係を及ぼして居るかと云ふことを掻摘んで述べて見やうと思ふ。

一昨々年關東に大地震が起ると、直ちに、此次は大阪である、大阪を警戒しなければ可けないと云ふ聲が到る處に起つた。東京の地震で日本の經濟的な方面に於ても非常な大打撃を蒙つたが、それと同時に政治的な出來事としても、少くとも一時は非常なる混亂に陷つた形であつた。次に若し此日本の眞に經濟的中心である所の大阪市が地震の爲に破壞されるやうな出來事が起つたならば、それこそ日本は再び起つことの出來ない程な痛手を蒙むるかも知れないのであつて、關東の地震の後に直に大阪を警戒する聲の起つたのは其意味に於て無理ではなかつた。唯其警戒の聲に脅されて、若し遁げ路を考へ、或は荷物を片付けるやうなことまでなさつた方があつたならば、實際手廻しの好かつた方であると言はなければならぬのであるが、幸にして今日までまだ大阪市其ものは地震に破壞されるに至らない、唯和歌山地方には近來頻々として地震が起つて居り、但馬にも城崎、豊岡を全滅させた地震があり、米子にも稍々強い地震が起つた、昨晩は又明日はどう云ふことを申上げやうかと思ふて、寢ながら考へつゝ、漸

くうと〳〵とした時に、其眠りを醒され、再び何事が起つたのではないかと驚いた次第である。

今後大阪の周圍にどう云ふ風に地震が起つて來るであらうかと云ふことを想像する材料があつたならば、極めて興味のあることゝ云はなければならぬ、併し總て我々の調査し、考へることを述べるに就いては何等かの據所があつて初て述べ得るのであるから、若し何等の據所をも捉へる事の出來ない場合には、甚だ汗顏の至りであるが、存じませぬ、と言ふより外に致方がない、然らば大阪と地震の關係に就いて私は今こゝにどれだけの材料を列べ立てることが出來やうか——關東震災後大阪を警戒することが必要であると唱へられて居つた間に、笑止な事には遷都論が起り、關東或は東京が今度のやうな混亂に陷ると、日本の帝都を此地に置くのは甚だ不安であるから、帝都を遷すべしと云ふことを唱へ出した、者があつた、中にも、京都は昔からの都であつて、因緣はあるが餘りに狹過ぎて、到底今日の日本の帝都とすることは、出來ない、仍ち都を遷すならば、大阪の近郊を新に選定して、其處に都を遷すべしと云ふ事を述べた者がある、種々なる理由に依て此遷都論は間もなく靜つて、誰も再び口にする者は無くなつたのであるが、其當時のことを回想して見ると、一面には大阪は此次の地震の爲に破壞されるかも知れないと云ふ心配をして居り、其半面には東京は危險であるから、帝都を遷して、之を大阪に持て行くべしと云ふ聲が出たのである、あの混亂の際に斯の如き重大事件に就いても一般の所論が必ずしも統一された考に向かなかつたと云ふ事は、寧ろ混亂の時期に起る一つの社會相であつて、今日から考へれば、直に其間の矛盾に氣付くのであつて、甚だ笑止なことであるが、其當時此考へを有つた人は極めて眞面目に唱へて居たのである。

II

偖て此大阪に地震が如何なる影響を及ぼすであらうかと云ふ事を、色々な方面から考へるに就いて、先づ第一に今日までの歷史が此關係をどう云ふ風に敎へて居るかと云ふ事を簡單に摘んで述べて見たいと思ふ、最も古い記錄としては、今日から云へば、千二百四十一年の昔、天武天皇十二年十月十四日に土佐國に大地震が起り、其影響で伊豫の溫泉が損んだと云ふことであるが、其時には大阪に關した記事は少くとも私の見た所で遺つて居ない、唯私が之を劈頭に持出した譯は、此土佐方面を侵した地震が其の後時々あつて、さう云ふ時は、何時も大阪が其飛沫を蒙つて居る、從て此時は大阪或は攝津國に關する記事は遺つて居らないが、當時は記錄の不完全な時代であつた爲に遺つて居ないのか、或は大阪と云ふものが今日とは全然異つた社會的事情にあつて、其重要さを缺いで居たが爲に其記事が遺らなかつたのであつて、恐らく後年起つた地震と同じやうに其影響があつたものではないかと考へる、而して若し影響があつたものとすれば、それは海嘯に浸されたものであらうと想像する、此天武天皇十二年の地震の後屢々攝津國に地震があつたと云ふことが書いてあるけれども、是は記事が極めて簡單で、果してどれだけの影響があつたか、又どの邊に起つたのであるか、能く分らない。

少しく後、今日から千三十八年の昔、仁和三年七月三十日

600

に、此近畿地方に非常に大きな地震があり、當時海嘯が起つて、攝津國は最も著しい損害を被り、京都に於ても多くの役所や民家が破壞され、死人も生じたと云ふのであるが、それ以上の細かい模樣は能く分らない、兎も角是が今日の大阪地方が海嘯に浸されたことの明に現はれた恐らく初のものであらうと思ふ。

次には今から五百六十四年前、南北朝時代の正平十六年に又近畿地方に大地震があつて、攝津、大和、河內、山城、四國の阿波などの諸國が最も甚しく、其後海嘯が起り、殊に攝津、阿波の二國が著しく其災害を受け、大阪では地震の爲に天王寺の金堂が潰れたことになつて居る、當時の記錄には色々面白いことが書いてあつて、稍々詳しく地震のことが記錄に遺り始めた時であるが、其話の一つに、地震の起つた時、浪華沖を眺めて居ると、俄に大暴風雨が起り、波の中から大きな龍が二匹飛出し、天王寺の金堂を差して飛んで來て、其中に入つて、暫くすると、金堂の中で大騷ぎが起つて、喧嘩でもして居るやうであつたが、間もなく龍が再び飛出して、海の方へ逃げて行くと同時に、金堂が引繰返つてしまつた、是は聖德太子の御建立になつた天王寺の金堂の中に佛舍利が祀つてあつて、之を守つて居た四天王が龍の爲に舍利を奪はれることを防いで、斯の如く爭つたのであつて、兎に角金堂は潰れたけれども、舍利は奪はれずに無事遺つた、斯う云ふことが書いてある、恐らく海嘯に關して起つた一つの話であらうと思ふ、若し斯くの如き地震の際に沖を眺めて龍の飛んで來るのを認め、金堂の潰れるのを見て居る事が出來れば、餘程餘裕のある人で、大に敬服に値するが、然らざれば、地震の爲に心が混亂して、ありもしない妄想を書き留めたのでないかと思ふ、斯くの如き話も書いてあるが、多少參考になる事は、地震が起つた後約一刻(今日の約二時間)程經つと、浪華の沖の潮がズッと退いて、濱がスッカリ洗はれてしまひ海岸に居つた漁師は之を眺めると、魚が澤山干瀉に殘つて居た、是れ幸ひと籠などを抱へ出し、魚を拾つて、大に得意になつて居る所へ、沖の方から大波が寄せて來て、スッカリ漁師が浚つて行かれた、と云ふ記事がある、之を述べたのは、地震が起つた後、凡そどの位經つて、海嘯が寄せて來るかと云ふことを述べたい爲であるが、關東大地震の際には、房州方面に於て海岸が遠く乾瀉になつた、海岸の人達は屢々海嘯に襲はれた經驗がある所から、又海嘯が來ることゝ非常に心配して、皆山の上に避難した、總かに屈强なる青年達が代る〳〵山から下りて海岸の樣子を見に來ると云ふやうなことで山の上で夜を明し、どうやら海嘯も來さうにないと云ふので漸く山から下りて來たと云ふことであるが、海嘯の寄せて來る際には、一晝夜とか二晝夜とか云ふやうに長い時間を經過した後に來ると云ふやうなことは殆ど無いのであつて、此記事に現はれて居るやうに、遲くとも一時間の中には來る、若し一二時間の中に來ないやうであつたならば、もう少くとも其地震の爲には海嘯は寄せて來ないものと思ふて、安心して居つて可い。

III

更に他の地震に移ると、今日から四百十四年の昔、永正七年の八月八日に地震が起つた、此時は主に攝津、河內の二國

だけのもので、大阪では四天王寺の石の鳥居が倒れ、河内國では觀音樣で有名な藤井寺が潰れて居るが、海嘯が來た模樣はないのであつて、前述の地震とは少しく質が異ふやうに見做る、尤も或書物には、「浦々高潮充滿」と云ふだけの文句があるが、他の記錄には何れも海嘯の記事はないから、恐らく此海嘯が寄せたと云ふことは餘り確でないと考へた方が可からうと思ふ。

次いでは三百二十九年前慶長元年、閏七月十二日の夜中に伏見城を破壞した大地震が京都附近に起つた、是は所謂地震加藤で誰でもお馴染の地震であるが、此地震の影響を受けて大阪では多數の死傷者を出し、堺、兵庫附近も亦其影響を被つた。

それより六十六年を經て、今日から二百六十三年前寛文二年五月一日に又京都附近に地震が起つた、是は前述の慶長の地震とは少しく趣を異にし、最も激しく震害を被つたのは、比良岳の西杤木谷らしいのであるが　其震域は可なり廣かつたのであつて、當時大阪も其影響を被り、大阪城も餘程の破損を生じ、天王寺及び住吉神社の石の鳥居が又搖り落され、大阪の市民は慌てゝ海岸や河緣などの平地に逃げ出した、此時はさう云ふ逃げ方をしても無事であつたが、大阪附近の侵される地震の場合は前述の通り屢々海嘯を伴ふのであるからそれでは甚だ危險であつて、うつかり船などに逃げ出す譯に行かない。

其後今日より二百十八年の昔寛永四年十月四日に關西地方に非常に廣範圍に亘つての地震が起つた、是は恐らく日本に於て記錄に遺つて居る地震の中最も大きな地震であつたのではないかと思ふ、東は關東の相摸國から西は殆ど九州の日向に至るまでの間が總て地震を感じ、破損を生じた範圍も極めて廣いのであるが、此地震の後に又海嘯が起つた、其最も著しく害を及ぼしたのは　紀州の外海と土佐の外海であるが、其影響が更に遠く延びて、一は紀伊水道から大阪灣に入り、接大阪を侵し、一は西の方豐後水道から入つて、長門國及び直伊豫の一部分などが侵された、當時の詳細な記錄が遺つて居るが、大阪市は地震の爲に非常な影響を受け、家の破壞されたものが一萬四千十五戸となる、次いで海嘯が寄せて來て安治川、木津川、道頓堀川等に入り込み、港にあつた大小の船舶を川の奥の方まで押上げ、其爲に一萬五十二百六十人の死人が出來、橋梁が多數破壞された。

其後は、或は長命した方は微に記憶されて居るかも知れない、今日から九十五年前天保元年七月二日に京都附近に地震があつた、是が前の慶長或は寛文の地震のやうに矢張り大阪に影響を及ぼした、併しそれは大阪市に於ては家屋を破壞するまでには至らなかつたので、唯石燈籠などの極めて不安定なものが倒れたやうな程度であつた。

次に安政元年の六月十五日に先づ伊賀の上野を中心とした地震があつて、此時も大阪に於ては石燈籠が倒れ、家屋が破壞する程度の被害があつた、當時の振動の程度から云ふと、今日の堺筋より東の方は多少動搖の程度が輕く、それより以西がひどかつた、是は大阪の土地の構造から考へて、然るべきことであらうと思ふ。

最後に申上げたいのは、同じ安政元年の十一月五日に關西に於て殆ど寶永四年の地震に匹敵する程の大地震が起つた、

是は前の六月の上野の地震とは異り、太平洋岸に起つたものであつて、此地震の爲には大阪は著しく損められては居ないが、其後に起つた海嘯の爲に非常な損害を加へられた、地震の起つたのは、夕方の七刻半頃で、私の記憶が間違つて居らなければ、今日云ふ午後の五時頃である、それから暫くして夜の五刻（即ち午後八時頃）になると、市民は恰度遠方に雷が鳴るやうな音を聽いた、間もなく川楼の邊に非常に騷々しい音を立て、高浪が寄せて來て、多くの船舶が川下から川上に押上けられ、恰度寶永の時と同じやうに、道頓堀川、木津川安治川等の川筋の橋は其爲に總て破壞され、沿岸の人家が浸されて、非常な慘害を被つた。

過去に於て大阪が地震の影響を受けて、記錄に遺つて居るものは先づ以上のやうな質のものゝ如く見ゐる、其他最近になつて、例へば濃尾の地震の影響或は姉川地震の影響のやうなものは、まだ大多數の人の記憶に存して居る所であつて、さう大した慘害は起らなかつた、或は明治三十五年の紀伊から大和の邊が侵された地震の際には、大阪の砲兵工廠の煙突が損んだと云ふやうな程度で、今日は昔の生活にはなかつた構造物にして、耐震力の弱いやうなものが澤山出來て居る、さう云ふもので新に被害を生じたのがあつた。

IV

以上述べた如き歷史の示す所を繰つて考へて見ると、第一に我々が注意いたしたいことは、一體大阪市の直ぐ近所に地震が起るか、どうか、と云ふ問題である、何れ又後に述べる積りであるが、淀川地震帶と云ふ名があつて、是が爲に關東震災後屢々我々の心を寒からしめた、實は私自身も大阪に籍を有つて居るものであるから、こゝに我々と言ふことを容して貰ひたい、然るに歷史の示す所に依ると、大阪に地震が起つたと云ふ記錄は殆ど無い、唯ズツと以前千七十六年の昔嘉祥（？）二年の冬に大阪に度々地震があつたと云ふ僅か一行ばかりの記錄が發見されて居るだけであつて、其他に大阪に地震が起つたと云ふ記事らしいものは全く見えぬやうである、故に大阪の地震に關聯して述べて置きたいことは、第一に、大阪は屢々地震の爲に苦められて居るが、大阪の直ぐ近所に少くとも著しい地震が起つたことは、曾て無いやうに見えると云ふことである、第二には、大阪が他の地方に起つた地震の爲に侵された程度、或は其震害の模樣はどうかと考へると前に述べたやうに、寶永四年の地震は澤山の潰れ家などを生じて可なり激いものであつたらしい、又正平十六年の地震も天王寺の金堂が潰れた程度のものであり、寛文十二年の地震には大阪城が大破損を生じたやうな被害はあつた、併ながら大阪市中に於ては、先年の東京に起つたやうな慘害、或は桑港に起つたやうな慘害を受けたやうな記事はどこにも見えない樣であつて、どうも地震の直接の影響は少い、元來大阪の土地柄から云ふと、非常に地質の弱い所であつて、日本の中でも大阪の土地は最も地震に弱い所と言はなければならぬ、卽ち大阪の土地は地質年代から云へば、第四期層、或は近世代と云つて、最も新しく出來た土地である、總に東の方大阪城のある邊りから南に至つて居る一帶の小高い部分が其近世期の中の初期積層と云ふ年代に出來たものであつて、稍々丈夫であるが、それより以西の低い部分は、總て沖積層と云つ

て、今日獨は出來つゝあると云ふやうな新しい土地である、況や築港方面は我々と同じく史上の古い地層は未だ曾て經驗したことのないやうな若い土地である、斯う云ふやうな土地であるから、非常に地震の被害が多かつたのではないかと想像されるけれども　事實は比較的輕いやうである、其原因は何處にあるか、色々に考へられるが、少くとも、最も明瞭に述べることの出來るのは、從來の地震は比較的大阪より遠い地所で起つたと云ふことでなければならぬと思ふ、斯くの如く震の被害は比較的少いのであるが、海嘯の被害は可なり大きい、而も一度び海嘯が襲ふて來れば、是はどうにも防ぎやうがない、地震に就いては、今日は耐震構造も餘程進歩して所謂鐵筋コンクリート構造を、若し請負師が手を抜かず本當に建築家が註文した通りに建てゝ呉れゝば、從來世界に於て經驗した程度の地震に對して、先づ安全なる建築が出來ると稱せられて居る、故に震害の方は、都市計畫や建築上に注意をすれば、之を避けることも出來るのであるが、海嘯の方に關しては、今日まだ之を如何にして防いだら可いか、どうしてその被害を輕くすべきか、と云ふことが研究されて居ない、而も此大阪に於ては屢々其海嘯に侵された歷史があるのであつて、何とか之に就いて注意を拂ふべきであるが、今日は如何ともすることの出來ない寔に困つた事柄なのである。

V

そこで是だけ述べると、恐らく私にお尋があらうと思ふ、然らば今後も大阪にさう云ふ地震が起るか、どうか——然るに此お尋に對しては生憎私はハツキリしたことを答へ兼ねる、さう云ふ事に關する研究は、今日漸く斯う云ふ風にしたならば、調べられるのでなからうかと云ふことを地震に關係した者が考へて、各々其考へた所に依て研究に着手し掛けたと云ふ程度であるから、今直にそれに對するお答の出來ない事は姑く御勘辨を願ひたい、唯前後の歷史を考へて、多少それに關する材料を得ることは出來ないかと云ふのであるが、先づ最も近い所で、安政元年の十一月五日に關西を侵した地震に就いて其前後の關係を考へて見ると、其前年嘉永六年の二月二日には小田原方面が地震の爲に侵されて、小田原城が潰れ城下も非常に損んだ、一昨年の關東大地震に性質の似たものであるが、嘉永六年の翌年、即ち安政元年になると、六月十五日に伊賀の上野に地震があつた、即ち關東に地震があつて翌年關西に地震があつたと思ふと、又同年十一月の四日には朝方に關東の房州の沖に可なり激い地震があつて、色々の點で一昨年の關東大地震と能く性質の似たものであつたが、其翌日十一月五日の夕方に關西の土佐沖或は紀伊水道の出口に大地震が起つて、大阪が海嘯に襲はれた——斯う云ふことになつて居る、又其前の寶永四年十月四日の地震に就いては、是も安政の地震と同じ樣に、紀伊水道の出口の方面に震源があつたと思はれるが、それより四年前元祿十六年十一月二十三日には矢張り房州沖に大地震があつて、最も日本に於ける最も大きな地震の一つと考へられて居る、斯う云ふ例を考へて見ると、關東に地震が起れば、必ず關西にも起るのではないか、一昨年關東に起つたから、或は近い中に大阪或は關西方面に地震が起りはしないか——斯う尋ねられると、私も寔に返事に困る次第である、併ながら他の例を調べると、明應

七年の八月二十五日に關東に大地震があつたのであるが、其後十二年を經て、關西に於て攝津河内が地震に侵され、天王寺の石の鳥居が倒れ、龍井寺が潰れた、斯う云ふ例があるかと思ふと、正平十六年の例の天王寺の金堂が潰れて、大阪灣から龍が飛出したと云ふ地震のあつた前には、關東には別に大きな地震はない、漸く七十年位前に於て多少の地震があつたやうに思ねる、所が仁和三年の七月に近畿地方に地震があつて、大阪に海嘯を起したと云ふことを述べたが、其地震の九年程前に相模武藏寺が侵された地震があつた——私が今斯う云ふことを述べるのは、唯歷史上の事實を拾ひ出して、お話するだけで、それを列べ立てゝ、關東の大地震の後には必ず大阪地方にも地震があると云つて、諸君を威かさうと考へて居るのでも、何でもない、併ながら地震を起す地方が互に相關聯して居ると云ふことは、今更述べるまでもなく、近來は能く承知されて居ることであつて、之を大きく考へても、近年は日本のみならず、數年前から、南米の智利、或は北米合衆國の「サンフトバーバル」、其他方々に地震が起つて居る、即ち地震と云ふものは多く互に相關聯して居て、地震帶の或場所が振動し、活動し始めると、他の方面も活動を起すと云ふ場合が多いのであるから、茲に事新しく述べるまでもなく或大きい地震が起つた際には他の方面にも來るかも知れないと云ふ用心はして然るべきものであるけれども、それでは何時來るか、必ず來るか、斯う云ふことになると、お恥しい次第であるが、今日の地震學では、何年經てば來るとか、或は何處に來るとか、若くは必ず來て、來ないことはないと云ふやうな、それ程確なことを斷言するまでにはなつて居ない、それは唯自分の顏を好さゝうにする爲に、好い加減なことを述べやうとならば、何とでも今直ぐお返事が出來るけれども本當に責任を以て述べると云ふことになると、悲しいことには、事實今日の地震學がまだ其處まで進んで居ない。

VI

それでは、唯今のは他の地方との關係であるが、さう云ふ大事變の起る場合には或一定の年限を以て起つて來るかと云ふことを調べて見ると、關西に起つた地震に就いては、前に述べた所に依ても、安政の地震と、其前の寶永の地震との間は百四十七年であるが、もう一つ前の永正七年の地震までは百九十七年、更に此永正の地震から其前の正平の地震までは百四十九年、又正平から前の仁和の地震までは四百七十四年を隔てゝ居る、斯う云ふ風であるから、年數をハツキリ定つて居ることは、一寸斷言し兼ねる、併ながら又同じやうな地震が同じ地方に起る場合には、時とすると、ハツキリと或一定の年限を以て繰返して居る事がある、關東地方に於ける地震に就いても、私共は一昨年の地震を簡單な外側地震帶の活動と見ない、是は日本の中部を横斷して、北西から南東に走り富士山の脇から東南をズツと相模灣の方に通つて居る所の一つの弱點の活動と見るのであるが、さう云ふ意味で關東に起つた地震を調べて見ると、凡そ七十二年を周期として、數回少くとも五回程繰返して居る、是などは餘程規則正しく起つた例である、或は櫻島の爆發の如き百三十五年を期限として三回繰返して居るし、又島原半島に起つた地震は百三十年程を周期として四回繰返して居る、斯くの如く規則正しく或年

限を隔てゝ繰返された地震もあるけれども不幸にして大阪附近を侵す地震に就いてはそれ程規則立つた年限をまだ見出す事は出來ない、是が即ち私の關東に地震があつても、大阪にも起るかも知れないが、併し其起ると云ふことは、さう確でないと云ふやうな、甚だ曖昧な、而して私として極めて苦しいお返事をしなければならぬ理由なのである。

そこで淀川地震帶と云ふものが屢々唱へられ、又大阪市に取つては是が非常な脅威になり、淀川地震帶の活動と云ふことを聞く度毎に私共も常に脅されて居るのであるが、併し飜て一體淀川地震帶と云ふ言葉は何處から起つて來たかと云ふことを調べて見るのに、私にはまだ何故に淀川地震帶と云ふことを稱へるのか其理由が解らない　前來述べた例に依ても成程淀川は其流域が北東から南西に亘る長い低地を形づくつて居つて、若し地震が此地方に起つたならば、最も著しき慘害を被らなければならぬ土地には相違ない、けれども、幸にして今まで淀川の直ぐ沿岸に相當な地震の起つた例は餘り無い、先年大阪に可なり接近して起つた地震はあるが、極めて弱いもので、先づアノ程度のものしか從來我々は知つて居ない、其他、或は慶長四年の伏見の方に起つた地震、或は寛文四年の比良岳の西松木谷に起つた地震、或は天保元年の京都の地震の如き、淀川の線を伸して行けば、恰度其邊に當る所に可なりな地震は起つて居るのであるが、此伏見の地震、或は松木谷の地震、又天保の京郡の地震と云ふものが、果して今日騷がれて居る所の淀川地震帶と看做して然るべきものなりや否やと云ふことは餘程疑はしい、其震害の程度から見ても、是が淀川と云ふものに聯絡したものとは見えないのである。

私は地質構造のことに就いては專門家ではないが、私の方の大學の其道の專門家である所の中川敎授が先年大阪の市民博物館の御依囑に依り、大學の學生も多數出して大阪の近郊の土地の狀況を調べられたが、此中川敎授も淀川流域を以て直に斷層であると云ふやうな、地質構造上の意義を有つたものとして可いかどうかと云ふことは、まだ疑しいものであるとされて居る、其意味で私は地震其ものが大阪附近に必ず起るとも言ひ得ないが、併し今まで例がなかつたやうなものが新に起るかも知れない例へば最近の但馬豐岡地方の地震に就いては、今まで誰もあゝ云ふ所に地震が起らうとは思ふて居なかつた、纔に四百年の昔但馬國氣比山に地震があつて、凡そ九十間ばかり地が割れたと云ふ二三行の記錄が遺つて居るだけであつて、其他には日本の地震史上但馬が地震に侵されたと云ふことは一回も無い、それにあの地震が起つたので、日本の歷史に地震の起つた記錄が無いからと云つて、其土地に決して地震は起らないと云ふことは、少くとも今度の但馬の地震に依て、斷言することを躊躇するやうになつたのであるけれども、從來の歷史に依ると、淀川其ものが直に地震の災源となると云ふことも私は考へられない、唯大阪地方は地質の弱い所であるから、近邊に大きな地震が起れば、直に其影響を受けると云ふことは覺悟して居らなければ可けない、斯う云ふことは言ひ得ると思ふ。

VII

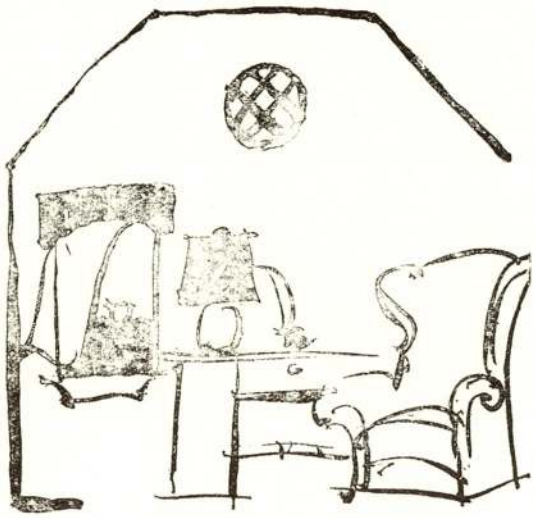
それでは大阪に對して如何なる點を注意すべきかと云ふこ

とになれば、是は我々の最も得意とする所のものではないのであつて、此後に於て大阪府市のそれ〴〵の専門家のお話がある譯であるが、少くとも此大阪の地震に對して弱い所が從前は比較的遠方の地震であつた爲に、著しい災害も起らずに濟んで居つたけれども、今日になると、新に築港方面の弱い土地が出來、或は構造物としても、煙突のやうな非常に高い構造物が多く出來たし、家屋の建築にしても、隨分手を拔いた速成の粗雜な家が澤山出來たから、今日昔と同じ程度の地震が起つたならば、今日の大阪市が昔と同程度の被害で止まるか、どうかと云ふことに就いて私は非常に疑を有つのである、私は從來大阪市の震害が比較的少かつた一つの理由としては、大阪の住民が比較的に經濟上富有であつて、且注意深く、家屋の構造などでも、市中の相當な家は、皆餘程注意をして、立派なものが出來て居つた爲であらうと思ふ、私自身は多く大阪に暮して居ないので、細かい點までは判らないけれども、恐らく從前はさうであつたらうと思ふ、併し今日は餘程事情が異つて來て、非常に高い建築物が出來、非常に壞れ易いものが出來て居ると云ふ點に於て、地震があれば、可なりの被害が無いと云ふとは斷言が出來ない、斯う云ふ點に就いては今後建築家或は設計者、或は市なり府なり監督官廳の當局者が餘程注意せらるべきである事は云ふまでもない。

元來　初にお斷りして置いたやうに、私共は唯自分が好い顏をしたい、物識顏をしたいと云ふ爲に、好い加減な其場當りのことを云ふことは出來ない、一言でも述べれば、それに對して相當な根據のあることを述べたいと思ふのであるが、不幸にして私の述べ得ることは以上述べた程度に止つて居るのである、私自身も地震に關係を有つて居り、又大阪市にも直接關係を有つて居ると云ふことから考へて、もつと〳〵細かく述べたいのであるが、之に就いて、然らば如何なる事が必要であるかと云ふと、色々の點を擧げることが出來る、例へば、大阪の如く非常に古い立派な家が澤山殘つて居る所では大抵古くから傳つて居る日記であるとか、其他色々地方的な其家の記錄と云ふものが隨分多く存して居るであらうと思ふ、さう云ふもので、今日まで世間に現はれて居ない記錄の地震などに關係したものを御所藏になつて居る方があるならば、何かの形を以て、何處かで誰かゞ調べることの出來るやうな機會をお造り下さることを先づ希望しなければならぬ、又土地の强弱を調べることが非常に大切である、之に關しては、直接土地に關係のある地質學をやつて居るやうな人が調べることは無論必要であるが、府なり市なりの土木課等に於て、電鐵の敷設であるとか、其他色々な大きい工事をするやうな場合に、土地を深く掘下げて、「ボーリング」をやると云ふやうな機會もあらうから、さう云ふ機會を利用することが又必要である、先年戎橋の北詰で以て地下室の工事をして居つて、土地を約十尺ばかり掘下げた所から、何だか譯の分らぬ骨が出て來たと云ふので、段々調べて見ると、古く棲んで居た鯨の骨であつた、そこで其鯨の棲んで居た時代には少くとも其邊までが海岸であつて、沖まで續いて居たのが、其後今日までにあの邊の土地が約十尺ばかり高くなつたものであることが判つたのであるが、斯う云ふ材料が矢張り土地の構造を調べる上に非常に必要である、或は大きな建築工事をなさるやうな場合、地下を掘下げて、さう云ふ古い生物の骨で

あるとか、其他色々なものが出るやうな機會があると、それが土地の強弱を判斷するに餘程大切な材料になる、又土地は我々の體に感ずるやうな地震がある時以外でも、絶えず微動を續けて居る、殊に天氣の變るやうな際にはそれが著しい、我々は寒いと思ふた時、或は物に脅えた時にはブル〳〵慄へるが、さう云ふ神經衰弱的な振動ではない、土地だけに裕りして居て、一回の振動が約四秒かゝる、一秒と云ふと、皆さんは何でもないやうにお考へになるかも知れないが、寫眞などを撮る人はそれを推定することに慣れて居る、一秒の時間中には早く數へて、一二三四と四つ數へることが出來る、四秒と云へば、それを四回繰返すことが出來る譯であつて、其間に僅に一回振れるのであるから、餘程緩りした振動であるが、兎に角土地は始終搖れて居る、是が土地の硬い所と、弱い所では搖れ方が非常に異ふ、一例を云ふと、大阪の測候所は測候所として最も完備した方であるが、彼處の地震計で調べたあの土地の微動と、私の關係して居る京都の上加茂の山にある地震計で調べた其土地の微動を比較すると、同じ原因に依て起つたものでも、京都のものより、大阪の方が約百倍近くも微動をする、斯う云ふ風に土地に依て振動の程度が異ふのであるから、大阪の市中の所々にさう云ふ設備をして、調べると、市内の土地々々に依て地震に對する強弱の程度も能く判つて來る、土地の強弱の程度が判ると、或は弱いと認定された土地の値段が下るから、さう云ふ認定をされては困ると云ふ人があるかも知れないが、弱いと云ふことは其土地に對する致命傷ではないので、弱いと判れば、それに相當の設備をすれば、安全なるものとすることも出來るのであるから、先づ以て土地の強弱を調べて、それに相應した設備をすると云ふやうなことが出來れば、大層結構でないかと思ふ、既に一昨年から昨年の春に掛けて、高等商業の附近で其關係を調べ、大阪測候所と比べたりしたのであるが、昨年の夏私は歐羅巴に行く用事があつて出掛けた爲に、經費其他の都合もあつて、其仕事は續けて居ないが、非常に參考になることゝ思ふ、其他土地の構造を調べるに就いては色々な方法があつて、今後も努めてさう云ふことを調べたいと考へて居る。

尙ほ地震の原因として地辷りの話が能く出るが、地表に起る僅な地辷りなどが大地震を起す原因となることは決してない、地表に一寸地辷りが起つたと云ふやうなことは、纔に人間の體に蚤が付たと云ふやうなもので、地震には餘り關係はない、もつと深い所の土地の釣合と云ふものが大切である、此釣合を壞すものに色々あるが、大きいことを云ふと、大法螺になるから、手近な所で云へば、長年の間には山の高い所から、低い海の方に土砂を持て行く、そこで土砂の洗はれた方は土地の上の力が減つて、土砂の埋積した方は上の方が強くなり、土地の中の力が弱ると云ふことは誰でも合點の行くことである、併ながらそれがどの程度までになるかと云ふと是は更に研究をしなければならぬ、此點が過般の關東の地震に就いても或は將來に於ける關西の地震を研究するに就いても大切なことであると思ふので、目下私自身の仕事として手を着けやうと思ふて居る、即ち淀川が年々どれだけの土砂を大阪灣に流し込んで來るか、隅田川がどれだけ東京灣に土砂を流すかと云ふやうなことであるが、斯う云ふことに就いては各關係地方の府なり市なり其他の有力者の援助を得なければ到底出來上らない仕事である。



都市計畫施行都市と其區域問題

加藤善吉

大正八年四月都市計畫法が制定せられてから茲に六年になるが勅令に依つて本法を適用する都市として指定せられたる市は今や全國四十七都市に及むで居る。即ち大正九年一月一日施行の東京、横濱、京都、大阪　神戸、名古屋の六大都市を始めとして大正十二年七月一日施行の札幌、小樽、函館、堺、尼崎、長崎、新潟、豊橋、靜岡、濱松、岐阜、仙臺、金澤、岡山、廣島、吳、下關、福岡、門司、小倉、若松（福岡縣）、大牟田、八幡、熊本、鹿兒島の二十五都市、大正十三年六月一日施行の富山、其他本年四月一日施行の佐世保、長岡、津、岡崎、一宮、清水、大垣、長野、松本、高岡、和歌山、高松、丸龜、高知、大分の十五都市之れである。而して尙內務省に於ては都市計畫の理解あり且つその施行を要望する都市に向つては事情の許す限り指定せむとするの方針であるといふから漸次他の中小都市にも及ぼさるべきは明かである。元來我が都市計畫は都市計畫法第一條に依つて明かなる如く指定せられたる市を中心として其の區域內に於て或は區域外に亘つて施行せらるべきものであつて所謂法は現に存在する都市にのみ適用せられ全然新らたなる都市の建設に對しては規定がない、即ち未開の原野に於て從來存せざるところに新らたに都市を開設せんとするものに於ては法の適用を受けられないのである、然れども主たる市を中心として其の近郊に斷地的に新たなる街衢を構成し之れを同一系統の下に主

たる都市に連絡せしむる所謂衛生都市の如きは之れをなすに難くはない。素より斯くの如きは兩々何れも極めて稀有の事であるが要するに現行都市計畫法は既成都市の改造即ち誤謬の訂正と其の近郊の一體として發展すべき區域を包攬して都市計畫を行ひ健全にして秩序ある都市の發展を企畫せむとするの方針に出發して居ることは明かである。故に其の發展膨脹の顯著なる都市は勿論其の他の都市と雖も豫め區域を設定して計畫の方針を定めることが最も必要なことである。即ち本法を適用する都市として指定せられた場合に於ては先づ第一に決定せらるべきは都市計畫區域であつて之れが決定に對しては種々なる調査を必要とするのであるが、其の具體的要件としては交通の設備、人口の密度、土地の狀態、行政區域の關係等の調査を行ひ之れに加へて次でなすべき地域指定に關する考察と其他過去及現在に於ける諸般の事態を考究し更に都市發展の歸趨を洞察し將來社會上經濟上一體として發展すべき可能性ある範圍をその區域として之れを定め、又人口增加の趨勢に對し合理的なる面積を求め、都市生活者の公共的安寧を維持し福利を增進すべき策を立て而して又一面都市生活者をしてその活動に便なるべき範圍たるを要する事は茲に述べるまでもないことである。即ち市民生活の活動に便なるべき範圍は要するに市中心部よりの距離に關する問題であるが是れ素より交通機關の施設如何に依りその速度に因つて自ら伸縮せらるべきは明かである。之れを要するに都市計畫區域なるものは各都市の種々なる情勢に應じ或はその發展膨脹の緩急如何に依り自ら異なるべきは當然なる歸結である。之れを各都市の實際に徵するに六大都市の如きは既に其の決定數年前に屬しそれぞれ必要なる施設計畫も今や着々として進みつゝあるがその他の指定都市に於ても必要なる調査研究の結果既に都市計畫區域の決定認可を經たるもの十四都市を數ゐ幾都市と雖も夫々調査審議を重ねつゝあるのである。今之等指定都市に於ける區域決定後の狀態を見るに何れもその特色を有し形狀廣袤種々であつて東京の如きは其の市の中心より十哩半徑、京都の如きは同樣八哩半徑の區域を包攬し福岡は公會堂前を中心として半徑五哩半、廣島、鹿兒島の如きは半徑四哩圈內を、又下關の如きは半徑五哩一部分七哩に及むである、又神戶の如き形狀海に面し細長き都市もあるが要するに夫々都市の現狀と發展の趨勢に支配せられて區域面積を異にすることは前述の如くである。左に指定各都市に於ける都市計畫面積を擧げ而して市の行政區域面積との比を見るも興味あることゝ考へこれを揭記して參考に資せむ。

都市名	市面積（坪）	都市計畫區域面積（坪）	市面積ト都市計畫區域面積トノ比較	計畫區域決定認可年月日
東京	二四、一〇七、六三二	一九、三二八、五一八	六、六倍	大正十一年四月廿四日
橫濱	一一、四三五、〇〇〇（方里ヨリ換算ス）	四八、二九四、〇〇〇（方里ヨリ換算ス）	四、二倍	大正十一年四月廿四日
京都	一八、一三五、二〇〇	七二、一五九、九〇〇	四、〇倍	大正十一年八月一日
大阪	一七、七二一、六二四（合前併）	六八、〇八四、七六八	三、八倍	大正十一年四月廿四日
神戶	一八、九三七、七七七	四〇、五三八、八八三	二、一倍	大正十一年四月廿四日
名古屋	一二、三一二、五一六（併合前）	四九、一〇六、四二〇	四、〇倍	大正十一年七月五日
堺	一、一八九、六七五	六、四五一、七三七	五、四倍	大正十四年二月十二日
尼崎	二、二一八、二七五	一四、〇〇九、八五〇	六、三倍	大正十四年二月四日
新潟	六、一七二、〇〇〇	二八、〇二八、六〇〇	四、五倍	大正十四年三月二十日

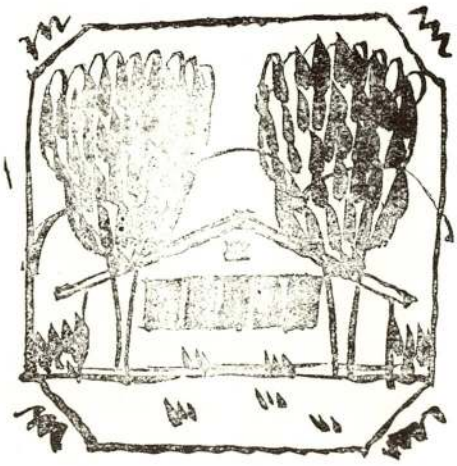
豊橋	六、五〇一、七八五	三五、六六八六、七一	三、九倍	大正十四年一月八日	
岐阜	三、〇三四、六九一	一三、五八五、二九七	四、五倍	大正十三年十二月四日	
仙臺	五、三二八、五三七	一五、九九五、二九二	三、〇倍	大正十四年三月十一日	
金澤	二、九八五、九八四	一四、〇一三、一八八	四、七倍	大正十四年五月廿九日	
岡山	二、八四六、〇〇〇	一四、八四一、〇〇〇	五、二倍	大正十四年十二月六日	
廣島	八、二五八、一一二	一七、五一七、八一六	二、一倍	大正十四年一月十六日	
吳	六、七七六、〇〇〇	二三、三七四、〇〇〇	三、四倍	大正十四年三月三日	
下關	四、七三六、九三六	二七、二一六、二〇六	五、七倍	大正十四年二月二日	
福岡	四、八六七、四二八（四ケ町村合併）	二九、四三三、九三九	六倍	大正十四年四月廿二日	
門司	七、三四八、五一一（一ケ町合併）	一一、六三三、四五四	一、六倍	豫定	
小倉	六八二、七四二	一六、七〇九、八五八	——	豫定	
若松（鞄開發）	四、一九八、九八八	九、三一九、六五八	二、二倍	豫定	
大牟田	二、四七五、三六〇	二二、〇〇九、三五五	八、九倍	大正十四年四月廿二日	
八幡	七、六二五、四〇四	二二、六六七、五九二	三、〇倍	豫定	
鹿兒島	五、〇六一、九一四	一八、七一四、三四三	四、〇倍	——	
靜岡	一、八九一、〇〇〇	一五、二一八、〇〇〇	八、〇倍	豫定	
濱松	四、三九三、〇〇〇	二二、四二二、〇〇〇	五、一倍	豫定	

前記の如く各都市に於ける面積比を見るに區々にして大牟田の如きは現市域の約九倍に及び東京の如きは約七倍の面積を包擁して居る。中には門司市の如き僅かに一倍六、神戸、廣島の如き二倍の範圍に限られたる都市もあつて各々其の趣を異にして居る。蓋し都市計畫區域とは其の施行せらるゝ土地の範圍であつて行政區域とは全然其の性質を異にし市と關連して同一なる系統の下に計畫を行ふを便利とするための區域であるから自治體の行政區域より大なるも統制の上に敢て支障を來すべきものではないのである。之れに反して行政區域は都市生活に必要なる凡ゆる事業施設をなすべき區域であるから餘りに尨大に過ぐるに於ては自治の目的を達成するに幾分弊害を釀成するは明かである。又都市の經費の點に於ても膨脹を來すものとされてある。之等に關し先に英國に於て調査したる都市人口と經費の問題に就いて見るに地方公共團體の經費が一人當りの金額は人口增加に伴つて益々增加を來して居り從來考へられたる如く人口增加に伴ひ之れと正比例して市政に要する費用が減少する事は云ふまでもない。之れを實際の調査に依るに、種々の經費が人口九萬より十萬の程度のところが最も少額にて足ると云ふ現象を示して居ると英國の統計學者が發表して居る。我が國情果して斯くの如くなるや否やは疑問なるも以上種々な點より考察して都市集中を避けるために都市分配論などが提論せられて居るのである。故に都市計畫區域は大なるを良しとするも市の行政區域は統制上適當なる大さを保有せしむることが必要であると云ふことになる。然れども飜つて一面之れを考察するに都市計畫區域なるものも都市經營上凡ゆる事業施設を爲す上に於て市の行政區域と一致すれば頗る便利とするものであることは想像し得る。殊に現在の都市計畫區域に就いて見るに將來都市の發展に伴ひ接續町村の漸次編入せられて遂に市の行政區域と一致するに至る運命を有するものと見られない事もない。現時一二の都市の狀態を見るも漸進的に市域の擴張を行ひ都市計畫區域と一致せしめむとするの傾向が見ゆるのである。假へば大阪市の如き必然の結果とは云へ今や西成、東成兩郡の大地域の市域編入を行ひ餘すところ三島、豐能、北河內、中

河内の小部に過ぎざるに至つた。之等と雖も都市計畫事業の實行に伴ひ漸次都市化するに於て餘りに永き將來でなくも早晩編入さるべき時期の到來するものではないかと思はれる。又名古屋市の如きは都市計畫區域案の内務大臣に内申中に市域擴張の議起り大正十年八月接續町村十六を併合して新名古屋市を現出せしめ行政區域が都市計畫區域と殆ど一致して居るの狀態である。果して然りとすれば都市計畫區域の決定に於て將來之れが行政區域と一致するものとの豫想の下に統制上不都合を來さざるや或は都市集中に基く凡ゆる交通保安上の弊害を受けて都市としての完全を期し難きの苦境に陷るなきや等に付き、尚一段の愼重なる考慮を費やすの必要があるやうに思はれる。只都市計畫區域は行政區域と其の性質異なるが故に可及的廣きを要すると云ふが如き漠然たる考の下に區域を決定するに於ては將來思はざるの苦境に陷るものなしとせざるに至るのである。殊に都市計畫法は市街地建築物法と離れざる關係を以て居るので都市計畫區域内には必ずや市街地建築物法の適用を受くるものなる事は豫想せねばならぬ事項である。何れの都市も同じく都市計畫區域決定に際してはその區域に編入するや否やに就いて可なり議論が沸騰するのであるが之が區域に編入するとせざるに於て如何なる差違ありやと云へば即ち都市計畫區域内に存する河岸地にして公共の用に供せざるものは都市計畫事業施行に要する費用を負擔する公共團體に下附される。又地域の指定に關しては都市計畫の施設としてやるので原則としては内務大臣の指定する地域を區域内に於ては都市計畫委員會の議を經て内務大臣之れを決定し内閣の認可を受けることになつて居る。尚土地區劃整理の問題も何れも都市計畫區域内に於てのみ出來るものであるが要するに之等の差異に止まるのである。而してもしも都市計畫事業が都市計畫區域内に非れば出來ないものとすれば之れに加へて土地收用に關し特別の便宜が與へられ、二には特別の財源即ち都市計畫特別稅、受益者負擔の制が與へられることであるが一部論者の如く都市計畫事業が同區域外に於ても出來得るものとすれば編入すると否とに於て何等の差異あるものではない。然れども都市計畫に於て都市計畫區域なるものがある以上は原則として同事業は區域内に限らるゝものと見るを妥當とする。以上二項の差異は區域に編入したる場合に生ずるものと見られるのである。之れを要するに、都市計畫區域の決定は周到なる調査の下に愼重審議決定さるべき性質のもので、法に於ても都市計畫區域編入に就いては豫め各町村の公共團體に向つて内務大臣より意見を徵するの規定になつて居る（其の裁決は勿論内務大臣の權限にある）が之れが十分なる調査の結果合理的なりとして區域案を見るに至つた場合は一町一村の利害は第二として進んで編入さるべきであらうと思ふ。

以上述べ來つた如く區域決定に關して當局者は十分なる考慮を拂ひ都市の健全にして秩序ある發展の畫策に努力せられむことを希望する次第である。

（一四、七、三稿）



「吾人に家無し安ぐ祖國あらむ」

―都市計畫に就いて―

白井和夫

本誌第八輯第六號誌上に於て伊東君は都市計畫の市民の理解を強要して居るが、自分は更に其の聲を高めんが爲に、只々市民に之を強聲するに止らず、市政當局者側に於ける注意を叩發するものである。

都市計畫法、市街地建築物法の歳を閲する事既に七歳、今春又地域制の制定を見るにあたつて、吾人はバーナップの所謂「都市計畫は技師の仕事ではない」を強聲するの必要を感じて居る。現今、「都市計畫」なる語を「安全第一」「輸入超過」等の如き流行語と共に入學試驗問題の語彙として新らしがる教授あり、「十字の謎」と共に新來の語として使用する名士があるではないか。

眞に法の意味する都市計畫を徹底させなければならない。都市計畫は現今智識階級一般に其の概念を抱かれて居る樣な「美觀都市の現出事業」ではない。――斯う言つた叫聲は今回内務省の發行した「都市計畫の話」となつて大方に配布された筈である。吾國の爲政者の態度につき片岡博士は「官僚的態度が一つの重大なる禍根」として都市計畫の不振を來して居ると既に喝破せられ、今又、伊東學士の孔子の言の引用（伊東氏は孔子の政治論を誤解して居られるので、語自身批難の餘地はあるが）となつて居る。然し私の考としては、これを一概に爲政者の態度に歸し、又は市民の無智に歸するも孰れも少々「オメデタイ」話ではなからうか。眞の鬼は彼方で手を拍いて笑つて居る。

都市計畫についての出版物は過去十數年來吾々は何十種見せられて居るであらう。然るにそれが一向、この計畫事業の利害關係者たる市民に通じて居らない。此處にマウソンの所謂「學者にあらざる都市計畫者」が復活せなければならないのである。

(一)今迄の都市計畫は學者の論じ、學者の研究にのみ委されたる計畫に過ぎなかつたのである。

カンサス市の公園系統を何れの書籍にも引用し、ソシント ン市の街路系統を事新らしく複寫し、各國の鋪裝道路面積を比較して頁數を充したる書籍が幾何程多く出版せられた所で現時流行の「十字の謎」程人々の頭には徹する事はあるまい。勿論基本として之等に根據を置くを責むるものではないが、市民が果して斯うした煩はしい論文を、學者程重要視するや否やは疑はしい。否、却つて歐米心酔的說法は却つて利害關係者の反感さへ誘起する事になるのである。斯うした感は「都市計畫」やら「土地計畫」やらすらも判然と知らない大阪市民の間に在つて特に強いのである。

(二)自分は本文に於て外國より引用はなるべく避けるが、バーナップの言ふ如く「都市計畫は其の都市の住民の環境、生活程度、氣風に依つて各々異る施設とならなければならない」事は毛唐に今更教へて貰はなくとも分つて居る。

然し、大都市に適應せる市街地建築物法を其儘二流、三流の都市にも適用せんとする矛盾せる都市計畫者は或はノレンを神と尊び、リュイズを師と敬つた結果其の說を死守せんとするかも知れないが、其結果は金を懸けて作製した金看板を覆ふ柳の並樹となり、電話線に混線を起さしむるプラタナスの列となる事は、强ち空論ではないのである。日蔭樹としてプラタナス、リンデンの如きが最も效を致すのは、吾國の街路の如き場所ではない。商取引上妨害となる街路樹を折取つて棄てゝ了ふ亂暴な市民も良くはないが、圖面上スケールのみに依つて割り出された並木の位置は或は商店の自轉車置場として甚だ都合良い事もあらう、或は枝を二階の窓に差延べて來る事もあらう。過去數百年の樹齡を保つ古木の並木が數月にして枯死し、今や其の半數を減じて、封建時代の偉人の功業に朱註を加へ、吾々祖先の信仰を蹂躙するものは都市計畫であると市民に印象を與ふるに至つた罪は何處にか在る。ハンブルヒさへカールスルーへの樂に盲從しはせない。況や米國の案を我國に直ちに適用するの否である。長安の計畫が我が舊都に用ひられたのとは其趣が違ふ。

(三)「公園に行つてもよいが、何も面白い事がない。三越へ行つて新潟美人の踊を見て歸らう」とは大阪市民の性格を遺憾なく現はしたキャッチワードである。

三越は商人である。市政者よりは餘程人の心の奥を捉えるに妙を得て居る。漠然たる小公園數ヶ所、而も乞食と、小僧の根據地である小公園が何になる。下水道、屠場等の計畫が如何程市民の腦裡に都市計畫事業なりとして刻まれて居る？私は都市計畫といふものは市民の興味を喚起して一瀉千里式に行はれた事を望むのである。

總ての莫大なる費用を豫想的震災避難所の構成に打込むのを非難する譯ではないが、市民が之を以て何を與へられたと考へて居るであらう。

私は徒に爲政者の超然的態度を責むる者でもなく、市民の不理解を否とするものでもない。又都市計畫事業の爲に上下一般の無智を喋々する力もない。一般に參考とする所の米國すら一九〇九年の都市計畫者會議以來既に十數年を經たるも未だ「都市計畫とは新しき事業計畫にあらずして、吾人の祖先の行ひたる事業の復活である」等と事改まつて說く學者が

あるではないか。米國の市民は公民的性質を充分に發揮して居ると言ふ人があれば私は伺ひ度い、「世界中の大國にして公園の花卉の最もよく紛失する國は何處？」と。

之を要するに現今の都市計畫は其の方法と目標とを誤つて居る。徒に威張つて事を行ふ理事者達はより以上の自覺を以て進まなければならない。都市の美觀の爲に、或は舊市の軒切の爲に汲々として居る者が、如何程現下の交通問題、住宅問題の解決に意を注いで居るであらうか。「吾人に家なし、妾ぞ祖國あらむ」を絶叫しつゝ國を滅亡せしめし國民あるを知るものは更に之を憂ふ。（十四、七、一）

空地のすくない大阪

震火災の時が思ひやられる

都市における空地の多少はその都市民の保安及び保健上に大なる影響あるは論を俟たない、即ち空地の少いと言ふ町はどうしても建物が密集して全市を蔽ふて居ると言ふ事になるから過酷生活が行はれ易く樹木の植はる土地、子供の遊ぶ廣場氣分を更新する

公園

交通を自由にする通路、日照通風をよくして空氣を新鮮にする建物周圍の庭園等が少いくめに都市の衞生狀態は必ず惡くなり又一朝震火災に際して身をもつて逃れる事が出來ない、かくの如き結果を來すものであるから空地の大小特に自由空地の適當なる分量及び配置は都市計劃上重大な問題である、大阪府都市計劃部では先頃より舊市内の空地調査に著手してゐたが二十四日ようやく完成した其に依ると空地を二つの

範圍

を異にした題目の下に市内の建築物でおわれてゐない土地の面積を調査して

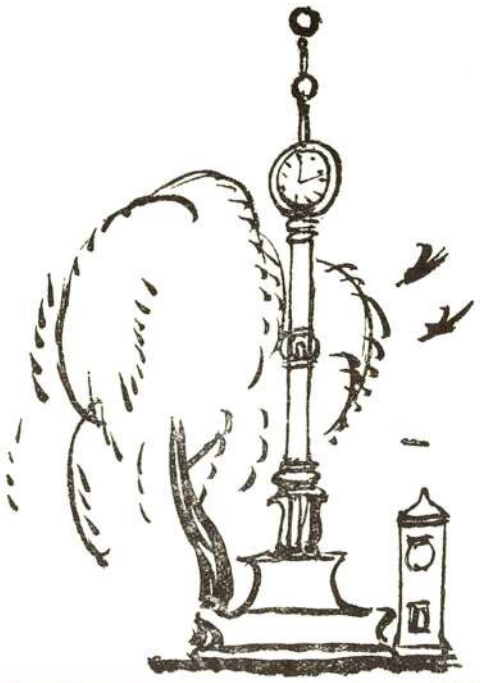
一、廣い建物の建つてゐない市の表面（舊市）

（イ）寺院空地一九九、八六五坪、全面積の一、一五パーセント、（ロ）寺社境内の空地三四、二四〇坪、〇、二パーセント、（ハ）學校運動場一七六、四一七坪、一、パーセント、（ニ）幼稚園運動場五、七一〇坪〇、〇三パーセント（ホ）宅地庭園等空地三三八四、七二四坪、一九、一パーセント（ヘ）鐵道線路敷地三八七、三〇〇坪、二、一八八パーセント（ト）電車軌道六二、〇一〇坪、〇、三五パーセント、（チ）公園一一六、二一三坪、〇、六六パーセント（リ）墓地二九、六二八坪、〇、一六パーセント（ヌ）道路堤防一五一〇、四四〇坪、八、五パーセント、（ル）河川一六六五、一七〇坪九、五パーセント（ヲ）池沼一〇九、五六〇坪、〇、六二パーセント、（ワ）山林一一、四〇〇坪、〇〇六パーセント、（カ）原野一六六三、五三〇坪、九、四パーセント、（ヨ）田八四四、一一〇坪、四、七七パーセント、（タ）雜地八五、七七〇坪、〇、四九パーセント、計一〇二八六、〇八七坪、全面積の五八パーセント即建坪は一七六八二、六二四坪、四二パーセント永久にのこると思はれる寺院、運動場、公園、宅地、庭園等は三九四六、七九七坪、二二、三二パーセントしかない

府都計部公園課長大屋靈城氏はこれについて語る何しろ大阪市は

世界

に名にしおう人家密集地で第一がパリー、第二がベルリン、第三が大阪となつて居るのでその上地震の多い日本でありまた火災も世界有數でその損害の點に至つては世界一とも言はれ一人あたりの損害は三圓五十錢に相當してゐる、何彼につけて、都會と空地は平行しなければ理想的に行くものではない。理想的と言へば建坪と空地とが半々であれば恰度よいのであるが、我大阪は前記の如き有樣で一人あたり僅に十一坪最もひどいのは南區で一人あたり六坪しかない、どうしても一人あたり三十坪の空地が必要である。



街路樹に就いての研究

方米治郎

市街を綠の美しい綿で點綴する並木が、美觀と實用との兩方面に齎らす効果は今更贅言を要せぬことで、近代都市の計畫に於てもこの方面の仕事が漸く重要視されて來たことは洵に欣ばしい次第であります。爰に譯載する原文は R. H. Mattocks 氏が「タウン、プランニングレビュウ」誌上で發表されたもので、都市經營上の參考にもと概要を記すことゝしましたが、譯文の拙い點は何卒御寬怒を願ひます。（詳しいことは "The Jown Planning Revien" Vol. X. No. 4 に出て居ます）

緒言

人類が都市の內外の裝景の爲に綠の並木を使用し始めたのは何時頃で何處であるかを明言することは困難であるが、ハーワード、カーター氏の推定によるとエジプト人が紀元前二〇〇〇年頃既に山地から樹木を矩形の大きな廣場へ移植し、或は街路に並木の長い線や國王の塑像を列べて飾り立てたことが想像されるさうである。ヘロドタス王はルバスチスの彼の記錄の中に、彼の都市經營の理想としては日蔭樹や並木線で都市を圍繞すべき希望を述べてゐる。ナイル河からの二つの人工水路が寺院の兩側に一つ宛建物を繞つて築かれた。何れも中が一〇〇呎あつて樹木が兩側に密植されてあつた。寺院は市街の中央に位し四周からは一頭地を抜いてゐるので遠くから眺められ、低い土塀が構內の周圍を圍繞してゐてその內側には綠の美しい高い樹木の叢圍が植込まれてあつた。市場を横切つて寺院の門前迄約六町の間は、石材で立派に鋪裝された巾四〇〇呎の道路が築かれ、この兩側には特によく伸

長繁茂した並木が栽植されてあつた。

又過去に作られた特異な例としてはブバスチスの如きがそれで、之は比較的近世であるが道路並木の理想として一般的應用の範例を示したものであらう。十六世紀の終末から十七世紀の初期にかけて所謂並木愛護運動とも云ふべき濫觴が認められたが、これがやがて文藝復興に伴ふ大規模の造園復活の導火線で又並木美宣傳の一つとも見ることが出來やう。今十七世紀の中葉に於て著しい進歩を示した事實に就て、一二の例をエベリン氏の日記から抄記してみやう。一六四一年八月の一項に彼は記して曰ふ『和蘭陀の凡ての町は街路が一樣に正しい直線で何等の變化がないが、各戸の前には日蔭樹としてライムツリーが一列に美しく植えられてゐて一段と光彩を添えてゐるのである……』。尚同年のその後の項で彼は白耳義の港アントワープに就ても記してゐるがそれには『……此都市には別に旅客を恍惚せしむる何物をも持たないが、只歐州の一歡樂地としてこの町を防護する意味に於ても、街路を飾る美麗な並木が實に最たるもので他の追從を許さぬ點である……』とある。この頃から街路並木は大した批難の聲もなく概して役立つものとして一般人士から愛護の念を以て迎へられて來た。特に今迄は車道や歩道を破損する爲に並木の根部を厄介視して不平を漏らす側の人々であつた都市の土木技術者から聞く不平の聲も少くなり、反つて實驗上日蔭の爲に路面の濕氣も相當保たれて欣ばれるやうになつた。往々反對論者は今日も只道路の表面の改善と人爲的構造の如何が、道路改善の歸結點であるかの如く誤解してゐるが、吾人をして云はしむれば改良に就てのこの所論は正しいものとは肯定出來ぬ。街路樹の植栽を除外して他の仕事をやる丈では決して改造としての使命を全うしたものではないと思ふ。それで世間がモット並木愛護の念を抱いて呉れるなれば街路樹の將來はより幸福に向ふであらう。即ち熟練した技能を以て樹木の爲の利益を計り、樹に對して凡ての障害を除いてやることに努めるならば、立派に改善の途が講ぜられ樹木愛護の實蹟が上るのである。

凡そ植樹に就て第一に希望すべきことは個々の樹木の個性的狀況を考慮せねばならないことである。先づ並木道路の實測から植樹すべき位置を決定し、次で如何なる種類を撰ぶべきかをも定めねばならない。この豫備操作に左の各項が含まれてゐる。

イ、建築物の高さとその用途別
ロ、建物の斷續分離具合
ハ、街路の副員と區分關係
ニ、風向と工場地區との關係
ホ、作業の種類
ヘ、路面の高低（地下水の高低）
ト、土質の鑑定（表土及心土の種別）
チ、街路の方向等々

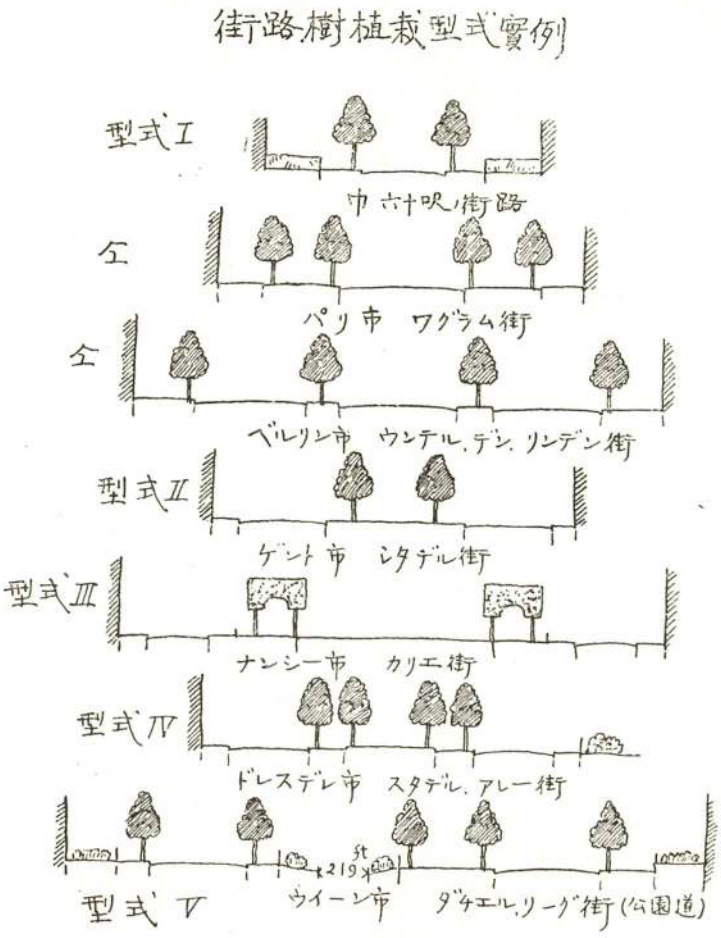
街路樹の植栽で普通に失敗する主な原因を調べると、剪定を怠つて餘り高く樹冠を繁茂させた場合とか、成育の遲い樹種を選ぶとか、成育に不適當な街路へ植栽した爲に病虫害に浸され易い場合等々である。元來不健全なものは勿論のこと過度の剪定によつて整型されたものも弱いことが多い。吾人は常も街路樹の生存にはそこに幾多の困難が存在することを

想倒せねばならない。街路樹が生存に成功して行くことは洵に一つの驚異であつて、克く成育を續けて呉るならば大成功であるが普通は滿足には行かないものである。それは前述の如く街路の狀況が並木を美しく丈夫に生育せしむるに凡て不利な條件にあるからである。即ち詳しく說明すると生存上必要な肥料の供給は束縛され、樹木は各方面から不斷の攻撃を受け、殊に根部の如きは心なき職工や瓦斯漏洩の爲終始刺激を受けて危險狀態にある。又樹皮の如きも馬や行人の杖さては昆蟲、菌類の害に痛まされ、枝梢は不注意な園丁や、暴風降雪、架線、病蟲害から、又葉はその氣孔を煤煙や各有害瓦斯類に浸され、かく種々の迫害があるのみで野外植物の如く天然に害蟲を驅除して呉る鳥類の援助の如きは全く缺けてゐるのである。そこで是非共街路樹の栽植は何時如何にして行ふべきか、又たそれを如何に管理すべきかを知つてゐる專門家の手を俟たねばならないのである。從來屢々門外の人々の手で行はれたことは科學的でも合理的でもない取扱を受けることが多く、それこそ冒險な仕事と一言に評さねばならない

樹木は元來呼吸作用に伴つて有害な二酸化炭素を分解して吾人に必要な酸素を空氣中に還元して呉るから絶大な効果のあることは各位が周知のことであるが、更に街路樹の及ぼす効果を數へあげると、樹木は夏期に建物の壁や舖道面からの反對光線で視力を害ふことを救ふ効果がある、又好晴時に太陽の直射から保護して苦熱を軟らげ同時に葉面からの蒸發作用で路面の氣溫を調節することが出來る。尙都市美を飾る上の使命は言ふまでもないことである。かくも大切な街路樹に對し吾人は往々街路の狀況如何を考慮せずして樹種の選定を誤り、その鑑識力の不足から樹木の全價値を失ふやうなことのあるのは遺憾な次第である。例へば狹い副員の街路に成育の旺盛なプラタナスやトチーキを植えたのを見ることがあるが、あれは寧ろ失敗であらう。かゝる場所には繁茂の遲い白樺やニレノキを植えた方が好結果を收め得ると思ふ。或は又吾人は副員の廣い丸石で舖裝された箇所に白樺を植えたのを見るが、之は軟弱な葉片が粗野に見えて不調和で、此種の場所には葉の巾の廣い丈夫な木即ちプラタナスかメープル（かへで）の類が適はしい。樹木は常も殆ど立地外になる側步道敷とか、中央步道敷とかゝある廣い道路では兎に角、商業街に於ては第一の本質としては徒步する者にも乘物に乘る者にも、何れにとつても交通の障害にならぬ事であつて、更に商店の併ぶ小路には日蔭を供し得るものが好ましいのである。少くとも側步道が特別に廣くてフランセのコントリーアレー式の取扱の出來るものか、或は中央植樹帶の廣いものには公館街や射光の充分な通りと共に大木と植栽してもよい。街路の副員が普通であれば並木は建物から二〇呎離れて栽植すべきもので、この場合には合理的容積によつて樹姿は序列を保つことが出來る。貨物の出入の頻繁な倉庫や繁雜な商業地區では街路樹を植栽することが既に根本的に誤謬である。それで商業街でも特種な大都市の中心地區では、一層間隔を大きくせねばならない。車馬道や郊外に連接する並木大路や公園道路の開始點では、更にそれ以上であるべきである。然し最も並木の必要價値の多い住宅街に於ては、特に栽植を奬勵すべくこゝでは概して成育狀況は良好である。街路樹が現在は勿論將來に於ても都市の自然美向上に、如何に多大の力ある

かは住宅街に於て一入認識されるであらう。小さい住宅街の道路では樹木は容易く保護され、成育中の苗でも場合によつては植出して差支へぬこともある。こゝには特にニセアカシヤとかプルース（梅の類）とか刺のあるものも用ふることが出來る。之等は公道の生籬として或は半公道の歩道やクルスドサックに用ひられるが、只不安心なことは開花結實が誘因となつて反つて害せられる恐れのある點である。更に大きな道路では普通の街路樹が植栽される、そして元則としては一街路に一種類を限つて植出すべきで、非常に長い路線では特に街路の繼目を選んで適宜に二種に分つこともある。本來餘りに長い路線を同一種類で列植することは單調で外觀美を缺くのみならず、萬一病蟲の被害のある場合にも傳播を早める憂があるから異つた樹種を選ぶことも得策である。

路面鋪裝等の爲に自由立木が不可能な際には、桶植又は鉢植の樹木を以て僅かに褐色の都市の中へ綠の天然氣分の接觸を計ることがあるが、この場合には特に晩秋から翌春まで苗圃で之等の鉢物を保護せねばならない。かくてこそ之等の樹木も新根を下し新梢を伸ばして生育を續け得るのである。リバープールではこの方法で貧しい街路の夏の飾りに成功してゐる。



街路樹の型式

街路樹の整姿型式としては普通容易に分別し得る次の六つの型式がある（挿圖參照）

一、ノーマルタイプ
二、センターロータイプ
三、プルン、フオマルタイプ
四、センターバーキングタイプ
五、ラージバークウエータイプ
六、イレギユラーバークドタイプ

（一）の型式は普通のもので各道路の側歩道沿に一列若しくはそれ以上の樹木を列植したもので、住宅街や第二流の商業街の歩道巾の廣い樹木の成育に充分の餘地ある街路に於て好

適してゐる。樹木は芝生のある特設芝生地帶では十分に伸長するから巾が十呎以上を必要とするが、少くとも四呎六吋はなければならない。芝生帶が餘り狹いのは行人が横斷し易いから寧ろ設けない方がよい。

英國風の此型式の變型としてフランス、コントリーアレーにあるものゝ如きはその一例で、又アスファルト道、砂利道から分かれた歩道の一例としてはワーゴンアベニユやチヤンムエレシスの如きものもある。更に中央の交通道を數部に分つたものにはベルリンのウンタルリンデン街がある。要するに特設の芝生帶に植樹するのと歩車道の境界線に植樹するのとは、夫々長短があるが次の如く概評することが出來る。若しも特設の芝生帶に植栽するならば街燈の照明を妨げる憂はなく、床地は勿論良好であり、街路も幅が廣々として見え、樹木が開花するものであつても自ら保護されることになる。反對に歩車道の境界線や道路の兩側に植栽するとすれば、街路は前よりも樹蔭で覆はれることは多いが下枝が街燈の照明を妨げる恐がある。凡て樹木線は塵埃に對して防禦幕の役目を果たすもので二つの樹木線をより近づける程効果は多いことになる。狹小な建築物を兩側に有つた廣い街路では並木は建物に接近してもよいが、高層建築の多い狹い街路では特に植樹線を設ける必要がある。

(二)の型式はシタデル廣路の實例がこの種のもので、道路の中心に於ける樹木帶は一列又は二列を有し、道路の美しい見透線としては推賞出來ぬが建物が餘りに高く樹木の成育に良くない場合には、道路の副員が許せばこの式が好適である。この式は樹木にとつては空氣と光線との最大量を得て成育には申分なしであるが、往々乘馬や自働車に枝梢を折損せられることがある。

(三)の型式は特別なものに限つて採用すべきもので、ナンシー、カレーバレースに於ける並木線が好例である。この整姿になれば樹冠は繁茂して日蔭量は多く得られるが、樹の幹部を丈夫に育てるには面白くない。

(四)の型式は前の二に似てゐて中央植樹地帶に花卉や小灌木を植えるか或はその代りに樓木の中心列を造るので、實例を擧げるとドレスデンのストウベル、アレーの如きは之である。

(五)の型式は一から四までのものを綜合したものであるがこの種のもので更に廣い幅員を有つものでは休憩設備さへ造られ所謂公園道路と稱すべきものが出來る。比較的狹い中央植樹帶よりも變化のある趣が添へられ、トチの如き發育旺盛なものも自由に栽植が出來るから大公園路の型式として好適であらう。

(六)の型式は之も種々な長所があるから一つの型として推擧して置く。この型の特徴は樹木の美しい群團を作る點であつて、或は又主景に變化を與へて住宅地域に快感を生ぜしめ氣分を改善する爲にも好ましい。

街路樹の具備すべき性質

街路樹として採用すべき樹木の種類は數多いが、細密に比較して吟味すると優良なものは案外に少ない。ワシントン市では一八七二年以來三十餘種で試驗をしてゐるが、今日では十種乃至十二種に陶汰されてゐる。又パリに於ける幾多の街

路樹に就ても代表的なものは僅かに十餘種に過ぎない。そこで先づ丈夫なことが何よりも大切で、苛刻な條件のもとに生育せねばならぬ街路樹として、この迫害に抵抗し生存する爲には、若くて根の發育のよい強壯な樹でなければならない。かく精選された資格を有つものこそ實際に適當な街路樹であるが、それが又種類の少ない理由であらう。理想的な街路樹として具備すべき性質は次の各項の總てである。

イ、強壯（ハーディネス）

善良な街路樹は移植に克く耐え栽培が容易で、凡ての必要な剪定整姿にも影響を受けず、熱にも旱拔にも煤煙や塵埃の害にも抵抗し得るものでなければならない。殊に暴風雨に對して樹體を支持し保護する爲には鬚根の多いことが必要で、勿論人爲的にも枝透しで雪や强風の被害を避けることを考慮すべきである。

ロ、直線狀と對照型（ストライトネス、シンメトリー）

街路樹の幹は美しい直線狀であつて、傷害を容易に被らぬやうに丈夫な樹皮で被はれたものが好ましい。そして丈夫な主枝や其他の枝梢の配列が外觀形狀に於て對照的であつて、剪定に多大の勞力を要せずに高さも、擴がりも都合よく整姿され得ることが大切な條件である。

ハ、蟲害の耐抗力（イミユニチー、フロム、インセクト、アッタック）

多くの樹木は何れも害敵の一つとして昆蟲をもつてゐるがその數の少いもの程望ましい。理想としては之等の侵害に對する免疫性のものを作り出したいものである。

二、陰量の豐富（アバウンダンス、オブ、シエード）

街路樹の主目的は陰影を得ることであるから夏の鮮綠、秋の黃紅と色彩の變化の完全に現はれるやうに秋未まで葉群を保持出來るものでなければならない。樹冠は過密なものよりも粗に過ぐる位のもの丶方がよく、角張つたものは美觀も少なければ陰量も豐富でない。然し又餘りに陰量を欲して繁茂さすことは日光の直射を妨げ通風を阻み、微雨の際に水分を受け入れず豪雨には濕ふが乾燥せない弊もあるから常に剪定は施さねばならない。

ホ、根部（ルート）

根は樹木生存の第一要部であるから十分に伸長し得るもので、側步道の舖裝の爲に侵害されないものが肝要である。

ヘ、清淨（クリーアリチス）

清淨であるべきことは街路樹の本然の性質であつて、樹皮小枝、花、種實、落葉等々が道路面を汚すやうなものは思はしくない。又落下した種實が步行者を誤つて滑らすやうな憂のあるものも避けねばならない。花や實が人目を引いて樹木を折損せしむることも往々あるから、かゝるものも推賞出來ない。落葉性のものは常綠性のものよりも一時に葉が更新するから街路樹に適はしいのみならず、煙の多い冬季間は落葉期間で都合よく、且つ春の新芽にも秋の紅葉にも一入美觀を呈する長所がある。

ト、樹齡の長短（ロングブイテー）

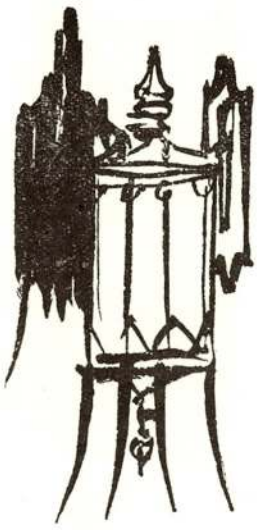
街路樹としては單に樹齡の長いことよりも、理想的には强壯で且つ成長が旺盛でさへあれば、或る年限の經過後は寧ろ更新によつて取替へる方が得策である。往々急速な結果のみを期待して徒に迅速な成長を希ふの餘り、かゝる樹種のもの

を選ぶのは反つて時間と金錢との浪費に終る事が多いのである。此種のものは當然樹齡は短く樹幹も軟弱で容易に傷害を蒙り、暴風雨の翌朝にその慘害を見せられることが少くない

へ、適合の度（スタビリチー）

要するに樹木は土地の土質と地方的氣候とに適合せねばならないから樹種の選擇には最も考慮を要するのである。或種のものは重粘土を好み或ものは又輕鬆土を好むものがあり、特に又海岸によきもの大陸地に適するものもある。勿論樹木は夫々氣候風土による分布上の適地があるから甲乙必ずしも全般的でない。例へばポプラーの或種は乾燥に耐え克く迅速に成長するが僅かにセントラル、シーフイルド地方に於てのみ好成績を示してゐる實例がある。されば樹種の選定と云ふことが重要なことを忘れてはならない。（未完）

高島の
かちの
の原の
夏草は
人のたけにも
たちおよべびけり



舞臺（ステーヂ）の變遷と其の周期

池田谷久吉

劇場建築を論ずるに際しての一大問題は何といつても舞臺と觀客席との位置の關係である。

歌舞伎劇場に於ける花道は舞臺の延長として揚幕に至る迄觀客席を包含して舞臺化せしむる感がある。

然し西洋劇場に於てはプロセニアムを限つて額縁の中の繪畫といつた様でステージと觀覽席とは確然と區劃されてゐて前者とはよほどの相違がある。

ところが近頃の外國劇場の新しく出來たものを見るにステーヂがプロセニアムの中から抜け出て觀客席の中に這入つて來た。

こゝに期せずして歌舞伎劇場と其の軌を一にするものである。この事は偶然の一致の様であるが極めて當然な結果であると思はれる。

オットー、コーニー博士が外國の劇場に於てステーヂと觀客席との關係が漸次變化した道程を簡單な方法でダイヤグラムを示してゐる（別圖參照）、即ち古代ギリシヤのステーヂから最近ウキンナに於て開かれた萬國博覽會に於ける國民藝術座に至る迄を如實に示したものである。

國民藝術座のダイヤグラムに就て考へるに觀客席の中にステーヂを取り入れたもので俳優が觀客席の中央へ出て演伎を行ふ譯である、故に藝裏をも共に觀客に見せることになつてゐる。

斯様なプランは過去に於ける各時代の凡てを連鎖した結果と見る事が出來る。

ギリシヤの劇場は大なる馬蹄形であつてステーヂの大部分は觀客席の中にあつて合唱（コーラス）と主演とは觀客席の中央で演じられた。

そして多分ステーヂが二重になつてゐて内部の方が一段高くなつてゐたものである。

伊太利のヴイセンザに於ける伊太利復興式オリンペア劇場に於てはギリシヤ劇場の合唱部及主演のステーヂ、觀客席を合して屋根を作つて之を蓋つてゐる。

セクスピア劇場は觀客席がステーヂへ喰入つて來て只正方形のエプロンを區切つてステーヂが後方へ退き觀客席が擴大されて來た。

近世に於ける普通一般のステーヂはプロセニアムを以つてステーヂと觀客席とを區別し終に觀客席から嚴重に區劃される様になつた。

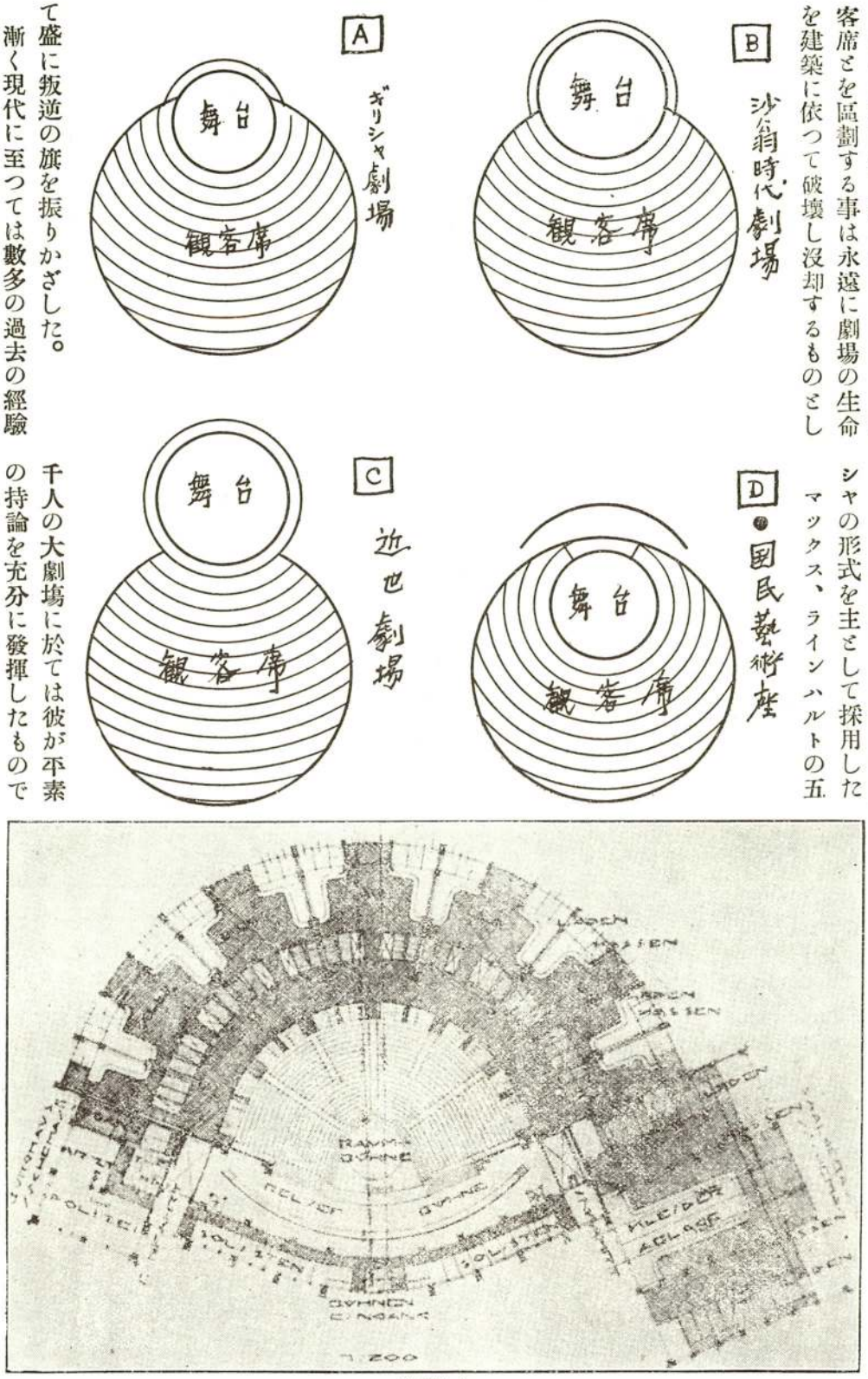
道頓堀の松竹座　が此の例の典型的（ピチャル）なものである。

然しこうした事は戯曲の内容によつて上演上の効果から論ずるときに全然最善のものであるとは信ずる事が出來ない。

尤も歌舞伎劇などには最も考慮すべき幾多の點があると思はれる。此處に於て

同時代の理論家は斯の如くステーヂと觀客席とを區劃する事は永遠に劇場の生命を建築に依つて破壊し沒却するものとして盛に叛逆の旗を振りかざした。

漸く現代に至つては數多の過去の經驗に依つて大劇場を建設するに際してはステーヂと觀客席との關係に就て古代ギリシャの形式を主として採用したマックス、ラインハルトの五千人の大劇場に於ては彼が平素の持論を充分に發揮したもので彼がステーヂを觀客席の中に突出せしめてゐる、然し之は全部プロセニアムを廢した意味でなく、プロセニアムは依然と



して存在し、決してステーヂが全く觀客席に出て仕舞つたのではない。

グッデスは劇場を設計するに當り彼のステーヂを觀客席の中央に配置した、之はローマ時代に於けるコロシユウムに似たものでありて現今の曲馬團（サーカス）などに使用されてゐるものと同一である。

またウキンナに於てストランドの設計したリング劇場は觀客席の周圍をステーヂが循環してゐるもので全く未曾有のものである。

日本の歌舞伎劇場に於て花道が劇場内全般を劇的アトモスフアーに同化せしむるものと同一のものであると思ふ。

最近ウキンナに於ける國民藝術座の設計は全く前舞臺（フオアステーヂ）は正圓を描き宛然ギリシヤの前舞臺と同樣のものである。

後舞臺（バックステーヂ）は現代のプロセニアムに似てゐるがよほど趣を異にしたものでしかも之等を巧妙に連絡したものである。

ステーヂと觀客席との關係は完全に或る一つの周期のあるものであると思ふ、これは以上大略述べたところの變遷が物語つてゐる。（挿圖參照）

挿圖說明

A

ギリシヤ劇場

ステーヂの四分の三は觀客席の中央にある。

B

セクスピア劇場

エプロンステーヂは觀客席から段々後方に退きかけて來た。

近世舞臺（ステーヂ）

ステーヂは觀客席から愈々後退して全くプロセニアムの後に陰れて終つた。

C

國民藝術座

圓形のフオアステーヂがギリシヤ劇場よりも甚しく觀客席の中に突出した。

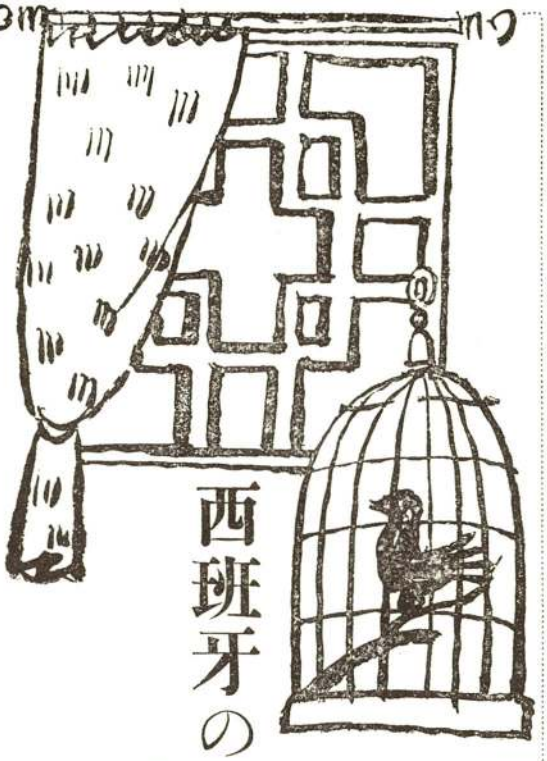
E

同上平面

建築家ニユーデル、ロウイスッチ、シールの作である。その形大馬蹄形にしてステーヂが觀客席に取り卷かれてゐる、座席の勾配は後方に段々に昇る樣に出來てゐる、バックステーヂは大なるプロセニアムの背後にあつて最も後部には圓形のホリゾンが設けられてゐる。

フオアステーヂとバックステーヂとは階段によつて連絡しフオアステーヂとバックステーヂとはプロセニアムに依つて仕切られバックステーヂの書割（セッチング）等は極めて抽象的のものを用ひ暗示的な風景畫などが描かれてゐる。

此の設計は矢張りマックス、ラインハルトの五千人大劇場の影響を著しく受けてゐる。（一九二五、六、二八）



西班牙の室内裝飾と家具

山崎萬壽夫 抄譯

西班牙の室内裝飾に就ては、西班牙自らに於ても、又其他の國々に於ても左樣であるやうに、本來の裝飾になる純正の古い室内が早やなくなつてゐる、と云ふ觀察が眞實である。過ぐる日に勢力あつた大なる門閥が、日々のイーヴルに倒され、典型的なる古西班牙の室内に依ると、幾何かの外國の影響の力を含むでゐることが明示されてゐる。そして、其等古往に於ての數多い家具の配置は、較近目覺めて來た Native Art の面白味に來り投じたのである。西班牙の聚集家、竝に世界を通じて各々の聚集家は、何れも其目的を拒まれない家々に押しかけやうとした。まもなく、外國人に依つて餘りに多く其等のものが持ち去られるので、彼等は言つてゐる。「吾國の美術の仕事を保存する唯一つの方法は、提供される凡てを購ふことにある」。洵に、此言葉は感嘆すべき愛國心を指示してゐる。併し、それは西班牙の傳統であり、靜かな廣々とした室内に終らなかつた。故に、樣々の美くしい家々から初期西班牙室内の再生に天啓となるべき、充分に簡單な室の數々を選擇するは至難な仕事である。

美くしい客間が、佛蘭西或は伊太利の影響を反映してゐるに拘はらず、尙ほ西班牙の雰圍氣に匂ふはその宮殿自らが十六世紀にあつて、相應はしいものであつたが故であり、而も其うへに家具は——特にマジョルカ島のバルマに於て左樣であるやうに、各々地方

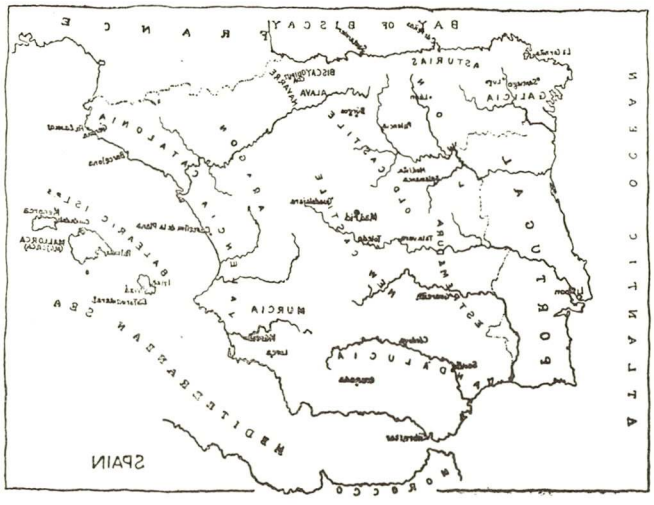
室内裝飾の種々なる形式

片々を再聚集したのであつた。Escorial 王用の其等の一揃は、一般に十六世紀室内裝飾の模範とみられてゐるけれども、それも無疵な純正のものではない。

れて、彼等の宮殿に棄て去られ破壞された害惡の歷史が、それを證してゐると云へよう。けれども、彼等の家具に就ては非常に良いものが多く個々に保存されてゐた上、より遲れて以上に繁榮した彼等の子孫が、尙ほその毀された室内の個々

的に作られたから當然である。此島には家具製作に轉職した或るカタロニア人の彫刻師があつて、著るしく美くしいエムバイア期の仕事を作り出したのである。而も、其仕事は同時代の佛蘭西人に誤まられないほどに出來た。彼の名はアドリアン・フェラン(Adrian Ferran)と云ひ、西班牙家具の記錄の少ない保持者のうちの一人である。併し、疑もなく他の人々も、彼が常に人々の目を惹くに充分な健全さで仕事をしたと同じやうに、才能があつたのである。

放棄されたまゝの、或は複原されたる宮殿の外に、趣味ある住家の部類が、往時の何不自由のない家族達の腰掛——遠慮勝ちに見ゆる田舍の腰掛から類別される。彼等はヴエニーアしたる、或は青銅の飾りある佛蘭西ものゝ流入には、決して關係しないで村の家具屋へ注文しに行くのであつた。その彼の意匠の本——若し彼が曾て有つてゐたとして、それは今日迄齎らせなかつた。彼等は古い傳統に固執したのである。例せばサンタンダー地方の村々を通り抜けると、過ぐる十六世紀後期か、其以後のものであるかと見ゐる家々に、明らかに1780或は大約その年頃を記してゐる。バスク地方アンダリユシア、及びバレアリック諸島を含むカタロニアの、斯かる家の各々は鮮かなる型を示してゐるが故に、此地方の各々の型に就て其の内部外部を取扱ふ研究は、自らに價値がある。目下の出版に於てはカタロニアのアルジユントナとマジョルカのサリエは最も良い田舍の實例を供給してゐる。



其取扱ひの四つの類別は——貴族然たる十六世紀の室内、佛蘭西風の流行後に於ける十八世紀の室内、美くしい古代の個々を聚集してなる美くしい近世の宮殿それから、近代の田舍家である。第一と最後は十八世紀が棄却するべく試みたところの、彼等を支配する音調が正確であるが故に、最も眞實に愛國的である。それはミユデジア又はムーリツシユ・クリスチヤンと稱する。

ミユデジアの構造上の特色

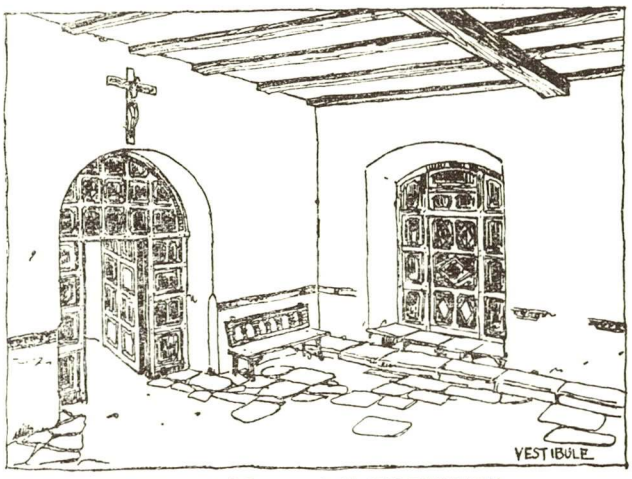
外國の影響の樣々なる波紋——十六世紀のフランダース及び伊太利、より遲れて佛蘭西の影響の裡にあつても、一つの内的なる半東洋的影響が、其の効果をあらはすべく決して歇まなかつた。千六百年以後の程なき間、非常に多數な西班牙の工匠はマウル人であつた。彼等のアラビア美術から、西班牙は基督敎徒の見地にあつて、その凡てを受け入れた。此の融合がミユデジアとして知られてゐるのである。マウル人放逐の際にあつても、彼等の訓は充分に植えつけられて、彼等の後繼者達によつて保全せられたのであ

る。自然的に、此等の異國的なる室内はマホメダンが其の基礎を永く置いてゐた南方西班牙に最も多く存してゐる。然し又、東洋的音調は公爵フリアスの城のあるビユルゴに、十五世紀に建てられ、最後のカーリストの戰に一部分破壞されたメヂナ・デル・ポマーに、遠く離れた地方にも見出すことが出來る。それらは、ミユデジアの取扱ひの華かな展開であつたペナランダ・デル・デユエロに就てもそれは同じく眞實である。洵に、アンダリユシアに於ては、概して特殊の、又は田舍めきたる地方では——カタロニアとマジヨルカを除いて——尙ほミユデジアの原則が支配してゐる。

斯かる家の取扱ひ方が、構造上の裝飾に關する限りで、何を含むであやうか？一般的な答へ方は、最初に、多色なタイル型の釉藥陶器の自由なる使用　彫刻したる、又は彩色したる木製天井、及びそれと同じなる大工職による内部締戸、扉最後に彫刻を施した漆喰の小壁、凡ての開口を回る同じ帶狀彫刻を含むであると云ふ。斯のやうな漆喰工事は、或人が、西班牙に殘存してゐる僅かなマウル人の記念碑が、盛に彩色されたるを見たやうに、基督敎徒の家の内に、料り知られぬ價値をもつて、白く殘されてゐるのを見る。

中央の内庭を回ぐつて建てられるにより、西班牙の室は内庭の各側面は長く狹くなり、各隅にては四角であることを餘儀なくされてゐる。意匠に就ては、彼等は全く無邪氣であつた。實用的の配置それは凡ての爲に、個々は殆ど均等であつた。併し、唯一の例外は、屢々客間に施され、非常に稀に媛嬪を有つてゐる、或は、時々彩色あるタイルで取扱はれるか、又は木製の戸棚を入れるために、飾らずに殘された入り込み（Recces）を有つてゐる食堂に於てである。本質的に、楣式建築であり、角な開口が勢力を得てゐたのである。天井は他の方法より、より屢々平面であつた。三平面天井（Three plane ceiling）の場合にあつては、堅固な横架小屋梁が、室に直角なることを附與して靜止し、扉は室の二つの終端にあり、内庭に向つて開くものは異常に大きく、一つの部室と他とを連絡するものは非常に小さく目につかない位である。街に面して露はれた窓は、大いさを小さくし、門庭に面した窓は、より大きくする裝飾ある額緣の缺けた裸形の窓は、常に奥深い方立を立てて、そして、外部に趣味深い鐵製の格子を取付け、その裝飾的要求を充分に滿たしてゐる。

品位ある僅かな個々の家具、少しばかりの、長い釣鎖で支へられてゐる金屬製ラムブ、幾枚かの、絹或は綴織の壁掛を以て、斯のやうに純然たる四角形の部屋の單純さが、非常に華美なものに變化せ

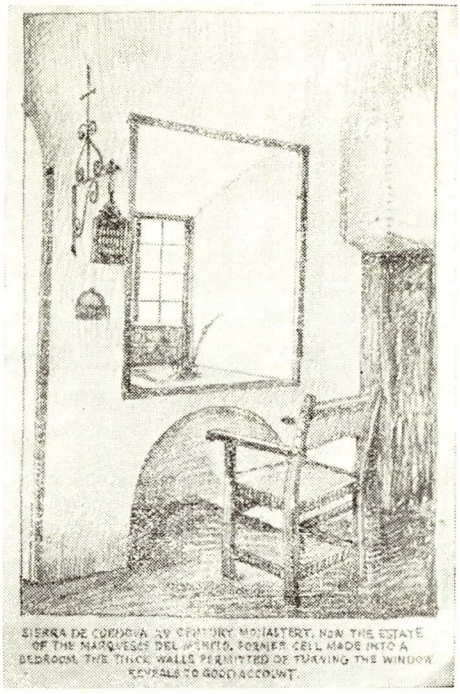


SALAMANCA. CONVENT OF LAS DUEÑAS. VESTIBULE SHOWING TRADITIONAL SEVERITY OF THE XVI CENTURY.

られるは、洵に驚くべきことである。斯かる事實と、近代聚集家の輝く創造の間に、大概の、バロック期祭壇屏、及び他の宗教上の飾りを作り上げたのであるがそこには渺茫たる懸隔がある。マウル風天井（アルツソナド）即ち裝飾された松材の天井、彩色されたタイル（アヅルジョ）漆喰工事（ユセリア）それらの凡てが合體した趣の外に、一層遙かなるマウルの繼承が無制限に、天蓋、椅褥、刺繍、細紐、房、革紐及び扶紐、家具又は扉の鍍鐵製或は鍍金したる釘頭、それより、各卓子の上に置く小さな象嵌した箱の使用に顯著である。

豊かなる彩色タイル張

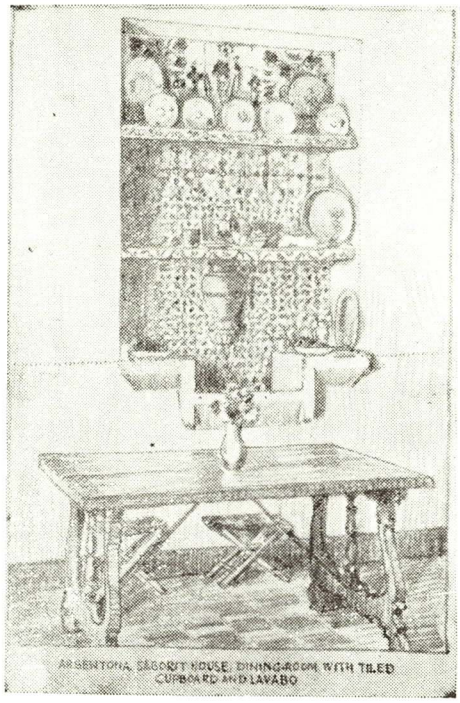
是等の融合せる趣を別々に檢べてみるに、吾等は、直ちに銘する西班牙で云ふアヅルジョ即ち彩色されたタイルを室内で見出すのである。暑熱に虫害の多い此國にあつては、釉藥を施されたる、或は釉藥の施されないタイルが、理想的な建築材であつて、尚ほそれが彩色された時は、華麗な大理石の代用品として、光澤あり經濟的なものであつた。併し、異國人の眼は、忽ち、其多彩に耐えないで害はれ、正確なる制限をそのうへに要求する。基督敎徒がアンダリユシアを征服して造營し始めたとき、彼等はマウルの先人がしてゐたアヅルジョの過多を少なくした。矛盾裡に、或人は、セヴィルのカサ・ド・ピラトの羽目裝飾を切り離した壁に、東方の絹絨氈を偲ばしめる、青銅色の光ある貴重な、イスパノ・モレスクの光澤あるタイルを、早やく引用して見たいと思つたのである。が然し、それは是れほど華麗な、少ない腰羽目である。



アンダルシアの住家では、一階の床上及びより少ない範圍でカタロニア人は、虫と暑さとに對抗する二つの動機をもつて、タイルを床に、腰羽目に、或は巾木窓腰掛、食堂の手洗鉢、尚ほ棚を支へる持送りにまで、木の代用として用ひてゐる。家の階下には、夏中家族達が住み、冬には凡て階上へ移つてゆくが故に、何づれも重要な室々のタイルには、其の骨折りが明瞭に見えてゐる。カステルの宮殿では、一階は厩養と勤行に充てられ、階上（ピソ・ブランシパル）は彩色タイルの、愼み深い取扱ひを享けてゐる。此の國土の北と南の兩部には、尚ほ一つの觀察が適用される。それは、腰羽目が多色であるときは、床は自然の燒粘土色に、唯時々、華かな象嵌を入れがちなことである。張り方に就て、彼等が選むだ手法は籠編み（Basket weave）であつた。そして、その小さく四角な間隙は、小さい城と獅子で埋めてゐる。十三世紀のカスチルとレオンの聯合の時から、此等の記章が、タイル及び織物、木工、金工等の裝飾に用ひられたのである。

最初の製陶術――即ちマウルの爲に、マウルが作つた陶器は、マホメダンに許された幾何學的意匠であつた。專門的にそれ等は眞のモザイックであつた。人手によつて切拔かれた、無數の小片を作つて各々を合はしたのである。モロッコで今日作られるやうな同じものは美しいけれど、それは面倒で不經濟である。モウルの西班牙は、幾世紀かの後、このモザイックタイルを斥けて、二つの他の方法を用ひた。第一の方法では、濕めつてゐるタイル（Wet tile）に、脂（Grease）とマンガンをもつて模樣を描き、それに依つて出來る乾いた線（キユエルダ・スカ）が、彩色が一緒になつて流れるのを防ぐのである。第二は、濕つてゐるタイルへ鑄型を押しつけて、其れによつて浮き出した線が、彩色の間の境界として作られるやうに案出された物である。此方法は、キユエンカ或は凹面型法と稱されてゐたが、それに依ると、浮出された線と色が幾分か低下する爲に、反つてキユエルダ・スカによる方を可とした。意匠は尙ほ幾何學的であつたが、獸と花の形が加へられた。

十六世紀の初、ピサから一人の僧がセヴイルへ來て、タイルの上へ自由に彩色描畫する方法を紹介した。是れが容易なピサノ手法で、それは他の凡ての方法を押し退けてしまつた。そして、ピサノは尙ほタラベラ、トリアナ等の多數によつて產出された。意匠には、黃色の地に藍の支配する調子が傳統となつた。十七世紀、或はバロックの世紀に於て、此の型のアヅルジョの純粹に裝飾的なるものゝ



かはりに、畫家の畫の拙な模寫が現はれた。併し、一樣なタイル繪は、適當に平面な壁面で飾る時は、非常な効果を生ずることが出來る。トレド市廳にある戰爭畫の腰羽目と、タラベラ及びニユエストラ・スノーラ・デル・プラドの聖書の插話は素晴らしいタイル裝飾の片々である。今日アヅルジョはアンダリユシアに於てタイル敷きの庭の附屬品に魅せられ、何程かの制限が家の中で行はれてゐたことを、恐らく思はせられるであらうセヴイル博覽會場の、訪問者の中に再生した。

タイルによる、家の內部の最善なる特色は、それ自身を西班牙の外氣に推奬した。それは階段である。廣いより美くしい階段は、復興期によつて齎らされて、大理石或は美くしい石の彫刻は、宏大な宮殿の爲めであつた。併し、閉ざされたマウル風のタイル階段は、屢々、錦を打つてあるけれど、尙ほ常に繪のやうであり、殆ど凡ての些かな家庭の動作に役立つてゐる。誰でもが。直ちにその踏面と蹴上の造り方に目を惹きつけられるやうに、オーク、或は他の堅木の三吋か四吋の木切れが、踏面鼻を形ちづけ、その外側の角は僅かに丸めるだけで、決して刳

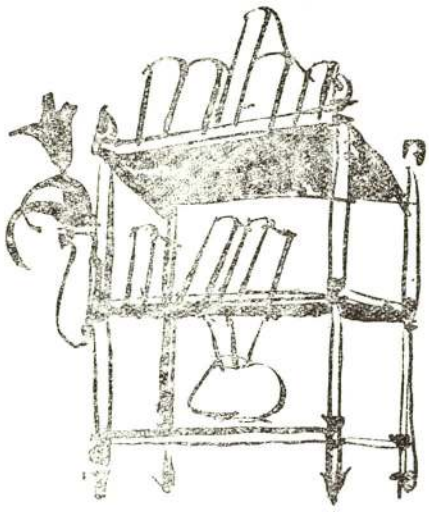
形しないである。そして踏面の殘りの部分は、無地のタイルで埋められ、蹴上は稍狹まい使用部分を多色タイルで張りあげられる。此の點に對して、一般のモーチフは、セヴイルのアルタミラ宮殿に見られる如く、習俗に從はしめられた松材或はより多くムーリッシユ、クリネレエションの（松の一種であつた。木の踏面鼻は決して油を塗らなかつたが、船の甲板のやうに砂で摩り磨いたのである。階段の降るに添つて、そして、その摩り磨くのに對して壁を護るために、彩色タイルの低い腰羽目があり、手摺りの代りに、太い絹紐又は、各の端に天鵞絨の房を付けた革紐が、壁の鐵製の環に通してある壁は無地の白であるけれど、階段の開口は漆喰飾りで工夫を凝らされてゐる。

此階段と同型で、併し非常に大きい大いさで、最も美くしい幾つかのセヴイルの宮殿に　充分な廣さ、精巧な彫刻ある手摺、或は欄干を有ち、その上に木造の圓屋根を置く復興式階段に代つて造られた。同樣にセヴイルにある、カサ・ド・ラ・デュエナとアルタミラ宮殿は、初期マウルの傳統が如何に强かつたかを示してゐる。

（未完）

杉山のわか葉の溪の雨を繁み

はるかなかもその瀧の音



埃及古墳の顔料

細木松之介

人類文化の最も古き者は埃及か支那かと云はれて居る所の其埃及の第一世王が建設したる古都メンフイス其時代の高官であつたペルチプと云ふ人の墓があつたそして此墓の壁には多くの像が彫刻してあつて之に彩色が施してあつた此ペルチプの墓は紀元前二千六百五十年に出來たのであるから今より約四千五百年前の者である斯の如く太古の事であるから此處に使用してある色彩は寧ろ單純であつて赤黄青綠鼠及び黑位に止まつたのである就中埃及の青は最も著名な者であるが簡單な者から記して見れば左の如し

赤は多くの人は赤色黄土であると云へ共誤つて居る黄土は黄色であつて赤色でない併し之を燒けば變じて赤色になるが今は最早黄土ではない併し普通の黄土には幾分酸化鐵を含んで居るから其多い者は赤味が強くなるが太古の赤色は赤鐵鑛であつたのだ

黄色は黄土であつて水酸化鐵と多少の粘土の混合した者である

帶綠青色は藍銅鑛即ち含水炭酸銅である

綠色は孔雀石卽ち炭酸銅である

黑は炭素即ち樹又は骨を燒いて造つた者である

鼠色は石灰石に黑を混和した者である

青色は前にも云へる如く最も著名なる者であるが惜い哉其製法が第二世紀に失はれて以來世界の何れの文化も再び之を發見する事能はざりし者である然るに近年の研究によりて再び此秘法が發見せられたる處によると此青色顔料は銅鑛と砂と曹達と石灰とを混合して之を熱するのであつて曹達と石灰は埃及の天産曹達石灰を用ひ銅鑛は恐く埃及とシリアの間の銅山より取れる者なるべく而して此等の混合物を攝氏八百度に熱すれば綠色の硝子を生ずるので其溫度を少しく下げて七百

五十より八百度までの間に於て二十四時間保つて置けば此綠色硝子の中より徐々に銅と石灰の復珪酸鹽が結晶して出るのであるが斯る銅と石灰との復珪酸塩は天然にはない者で上に記したる製法によりてのみ結晶するのである又此復珪酸鹽の結晶は復屈折性を有して居るから偏光によりて容易に之を檢出する事が出來るのであつて之を他の混交物より分離するには製品を紛碎したる後洗淨するのである而して其出來方は頗る面白い者であつて初め混和原料を熱したる八百度では熔融しないけれ共此復塩の結晶を生ずるのであるが最初は可熔性の曹達硝子を生じ之れが銅の媒傳體となりて働き銅と石灰との復鹽を結晶するに從ひて可熔幷の曹達硝子を更に銅を溶解して銅と石灰との復鹽を生ずるのである而して之を生ずる要點は五十度以内の溫度の差を以て二十四時間保持して置く事であつて近代の科學者は電氣高溫計などを使用して溫度を測定し其變化を制限して始めて之を製するを得たる者であるが太古の埃及人は完全なる設備を有せずして之を製し得たのである又近年に至りて古代使用したる爐や皿が發見せられたが此顏料を使用したる古き實例は紀元二千六百年であつて其後羅馬帝國にも永年之を使用したのであるから其製造は可なり盛んに埃及で行はれて居つた者である

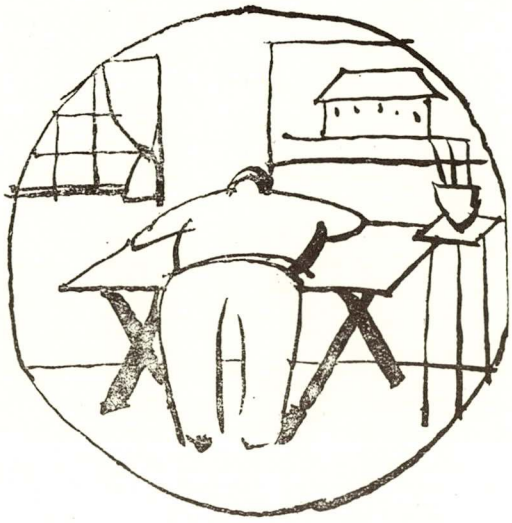
青色と共に古代埃及の繪畵に使用せられたる面白き顏料は綠色であつて之は青色と同一の原料を以て稍高き溫度に於て造るのである即ち青色を造る時に於て七百五十乃至八百度の溫度が少し超過すると青色を生ぜずして綠色を生ずるのであるが全體埃及人が如何にして此青色顏料を製造する法を發明したか又埃及以外に之を製造する事能はざりしは如何なる理由によるか等は研究するに面白き問題であるが製陶家なるバートン氏は下の如く之を解釋して居る即ち其說によれば埃及には一種の砂岩が産出するので古代より之を細工して玉其他の裝飾品を造つたのであつて其外面には銅鑛と曹達石灰の混合物を釉藥として塗布した者である併し此釉藥は塗布した丈で燒いて熔融せなかつた者である斯の知くに燒かなかつた者であるから若しも之を燒いたならば如何なる者を生ずるやとの疑問は古代埃及の化學者間に自然に起るべき問題であるから之を實地に試みて始めて青色の結晶を製出した者である即ち之が其製法の始まりであつたが之れが第七世紀頃より全く絶へてしまつたのである恰も此時代は回敎徒が亂入して來た時であるから回敎徒の爲めに顏料工人が殺害せられて其製法も共に絶へたのである然れ共顏料其者は絶對に不變色の逸品であつたが今は只歷史的興味を存するのみの者となつたのである次の青色顏料はビザンチンの遺物にある者でラピスラズリと稱する礦物より取る者である最初は此フピスラズリよりアルトラマリーン即ち群青を分離する事が頗る不完全であつたが第十二世紀に至つて始めて完全に分別する事が出來る樣になつた即ち其法によればラピスラズリの礦石を極細末に粉碎して之に油と樹脂とを混じて溫飩粉や麵包粉を捏ねたる如くにして之を數日間空氣中に放置するのである次に之を水中又は少しく酸を加へたる水に入れて捏ねるのである然る時は群青は分離して礦石中にありし他の物質は悉く器底に沈停する者である然るに此分離法は近年鑛石精煉法の一として盛んに行はれたるフロテーションと同一であつて此フロテーションには幾多の特許が與へられて居るが實は近代の發明でもなん

でもない紀元十二世紀頃から既に公知公用の方法である而して此方法は支那に於て發明せられた者であるとの說があれ共支那の古代の繪畵には群青を使用して居らぬ所より推して恐くは支那でなくして中亞細亞國のオクサス谷の奥にある鑛山より採れるラピスラズリを以て其製法を歐洲にて發明したる者であるちしい又完全なる群青を使用したる最も古き文書は第十二世紀に於てエルサレムの女王エリノールの爲に造りたる者であつて此群青が最良の物で同時代にビザンチウムにて使用せられたる者は頗る劣等の品である其後伊佛兩國に知られて漸く一般に其製法が知れ亘るに至つたのである此時代に於ては東方諸國は大ひに亂れ就中回敎徒の侵入などもありしに拘らず其製法は依然として續いて來たのである併し此群青の如きは埃及の顏料に比して新らしき者ではあるが顏料としては古い者であるから序ながら記したのである

古代の繪畵が今に至るまで尙其色を變化せざるは一に古名工が礦物性の顏料を使用したからであれ共其中には面白き繪具を使つた者もあつてビザンチンの作品にはミユーレックスなる貝の一種より採れる紫色即ちチリア紫と稱して非常な高價な繪具を用ひたのもある此紫繪具は人工的に造る事も出來るが眞物を貝から採集するので一個の貝から針の頭程しか採れぬのであるから相當に之を集めんとせば非常に多數の貝を捕獲せねばならぬのであるから大變な高價になる譯であるのです。

見てあれば見てあるほどにうろこ雲

なかれ速みて冴ゆる月かげ



古建築としての淨土寺

——兵庫縣下の古建築に就いて——

菅田登美雄

第二　淨土寺本堂

（藥師堂とも云ふ）

構造形式　方五間單層屋根寶形造本瓦葺

建立時代　鎌倉時代

指定年月　明治三十四年三月二十七日

歴史的研究の所で云つた樣に、本堂の建立は應永十四年の再建になるものらしいで坂谷先生も云つて居られた樣に淨土堂の方が幾分古く善い樣な氣がする

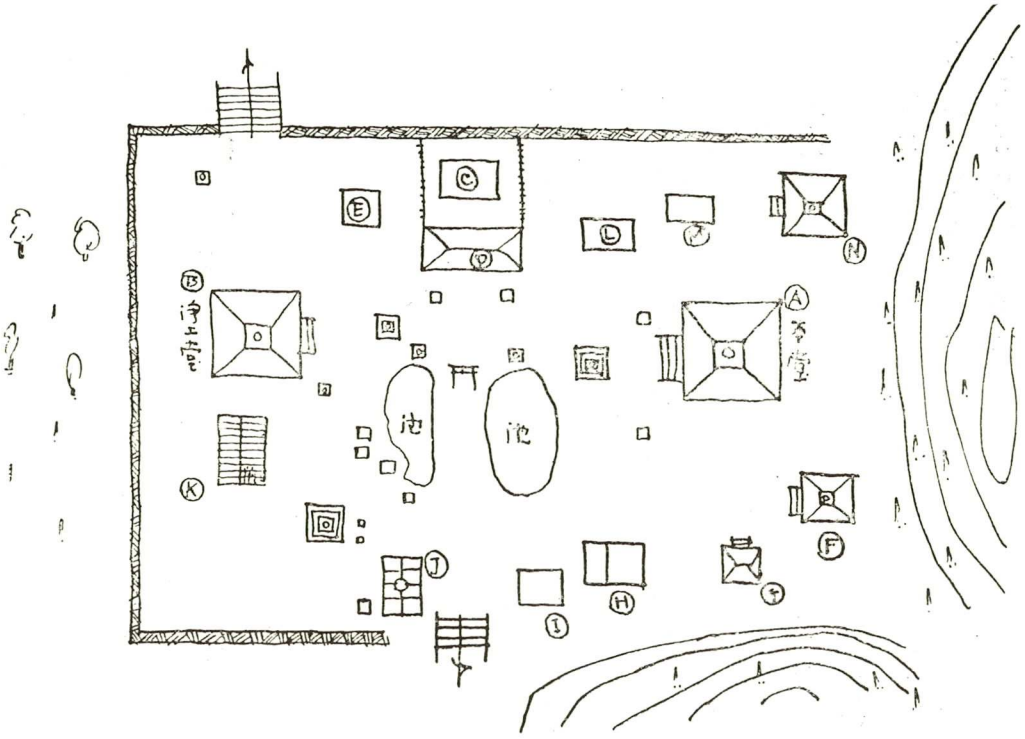
プラン——第十一圖に示す樣に五間五面で前面各間に小羽目を作り、棧唐戸を立て左右兩脇間の二間は同じく棧唐戸を用ひ次の二間は火燈窓を開き殘り一間には板引違戸を立て後面は中央一間内陣厨子に相當する所だけは少々突出して居るで廻縁は前面と兩側面の三面許りにしかないが昔は本堂を取卷いて居つた事は背面を詳細に觀察すると明瞭に知る事が出來る。

内部は前面の二間通を外陣とし外陣は總拭板敷で次の二間を内陣とし中央に家形の厨子を置き中に本尊藥師如來を安置し左右兩脇間に又小厨子を安置して居る

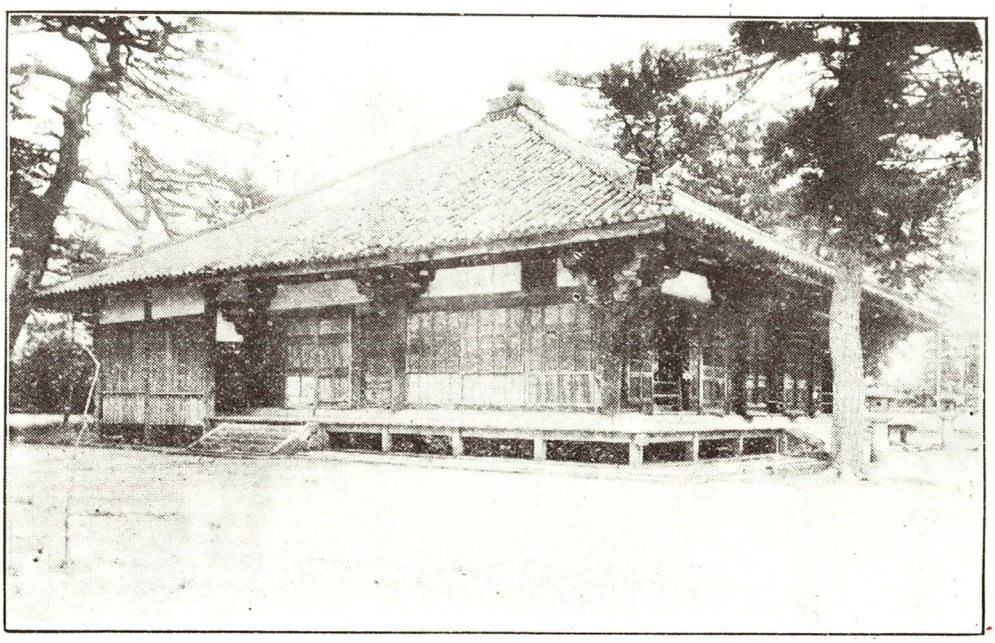
天井の外陣前面一間通り及周圍入側は化粧屋根裏とし、それから内陣に連いて小組格天井になつて居る。

内部の規模の壯大、化粧屋根裏、隅の扇垂等天竺樣の特長を發揮して遺憾が無い、内陣柱から側柱に向つて架した大虹梁、其の大虹梁の兩端を受ける肘木、大虹梁の上には更に大瓶束を立て更に虹梁

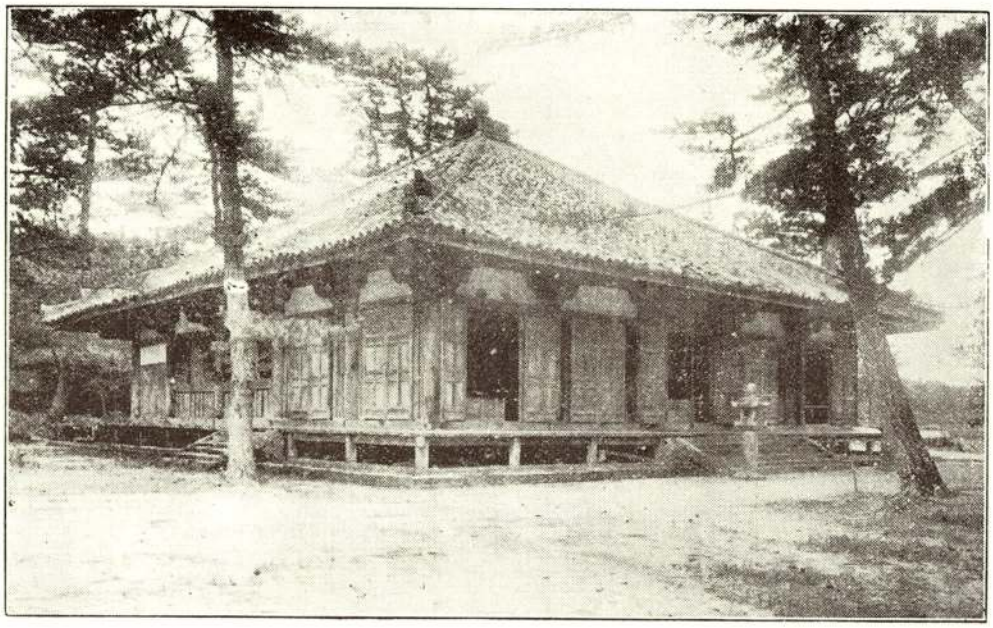
A 本堂
B 淨土堂
C 鎭守八幡
　神社本殿
D 同　拜殿
E 鐘樓
F 開山堂
G 經庫
H 鐘樓
I 茶所
J 手洗場
K 寶庫
L 八幡神社
　々務所
M ゴマ堂



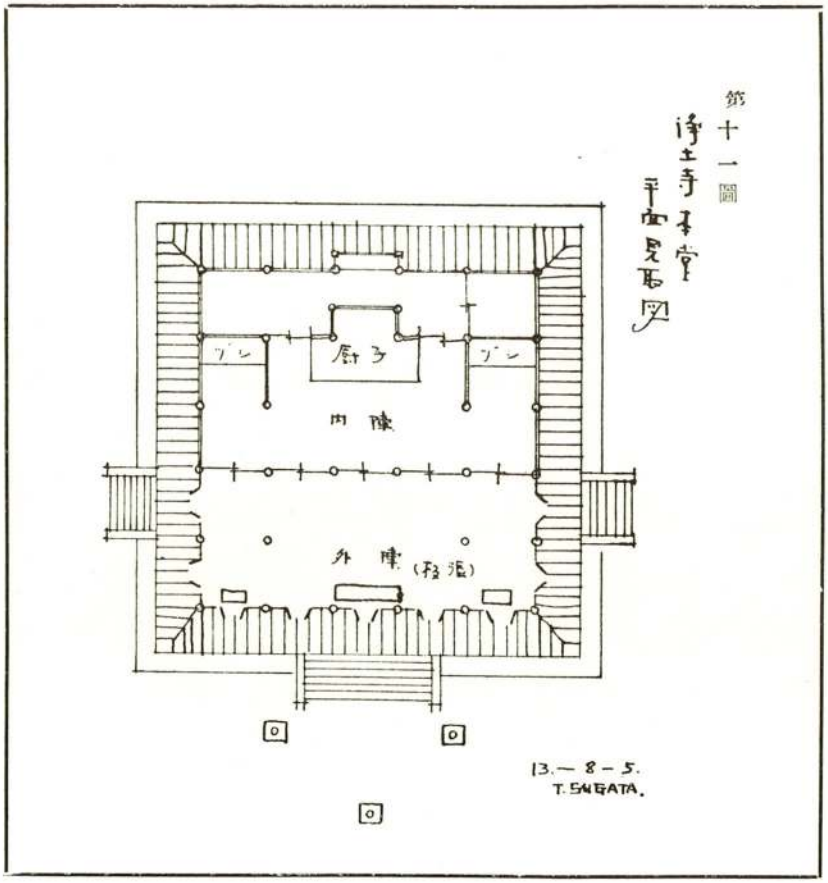
第八圖　淨土寺境內大體配置圖



第九圖　淨土寺淨土堂



第十圖　淨土寺本堂



を受けて居る等手法の雄健規模の大なる事には誰でも一驚を喫するに違い無いと思ふ

其柱は壯大な圓柱で挿肘木を三重に使用して軒を支承して居る。

即本堂の建築は挿肘木を用ひて居る事外觀――で其の堂の外觀、屋根の勾配甚だ緩で軒端、反轉無く軒一重鼻隱板を張り×

×扇椎を用ひて居る事等到る所に天竺樣の特長を發揮して居る。

第三　淨土寺淨土堂

（阿彌陀堂とも云ふ）

構造形式　三間三面單層屋根寶形造本瓦葺

建立年代　鎌倉時代

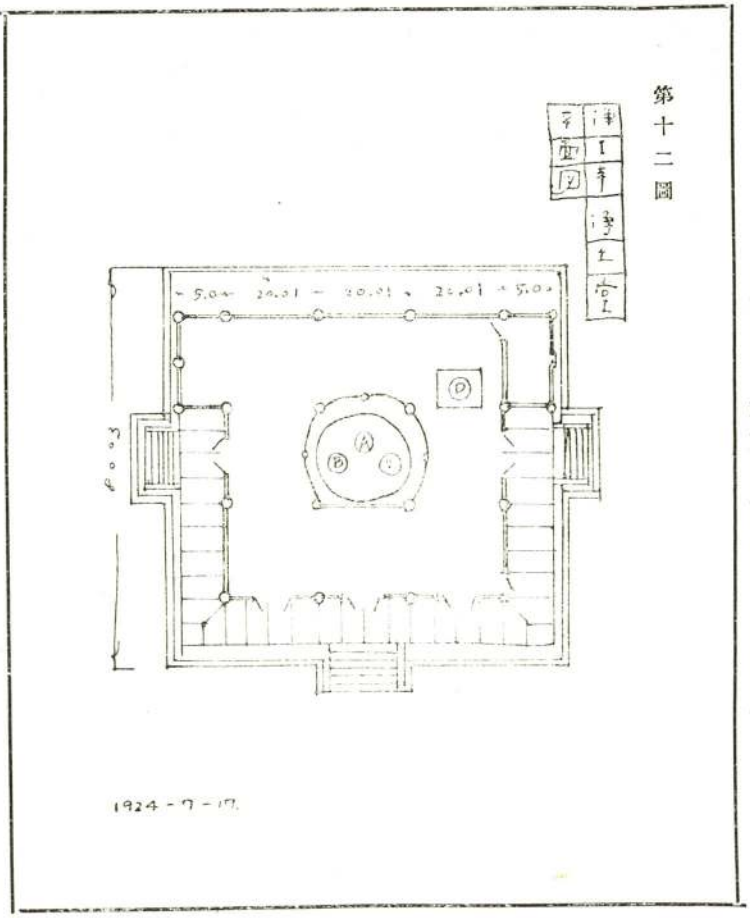
指定年月　明治三十四年三月二十七日、

淨土堂は鎭守の御社を中央として本堂の相對立して東面して居る先づ數段の石階を上と右に本堂左に淨土堂の大建築が兩立して居るのは如何にも莊嚴だ現今淨土寺に藏して居る古地圖に依ると昔しの大伽藍の後はさながら眼前に浮び出て來る樣な氣持になり、彼の重源の創建當時を追懷して感慨無量といふ有樣だ。

で本堂宇も本堂（藥師堂）と同じく到る所天竺樣の手法を發揮して居り自分は建築上本堂よりも面白いと思ふ、これは昨夏、親しく實測した爲にも幾分負ふ所があるだろう、で此の理由の爲に淨土堂の方は少々詳細に述べたいと思ふ。

前述の如く本堂即藥師堂の方は應永十四年の再建と寺傳にあるが、此の淨土堂に到ると少しも書いて無い點を考へると此の淨土堂の方はより古いと考へて善いのではなかろうか、坂谷先生も淨土堂を以て古しと云はれたが如何にも尤な事であると考へる、何はともあれ、鎌倉時代の天竺樣の建築物である事は何人も否定することの出來ない事實である。

第十二圖

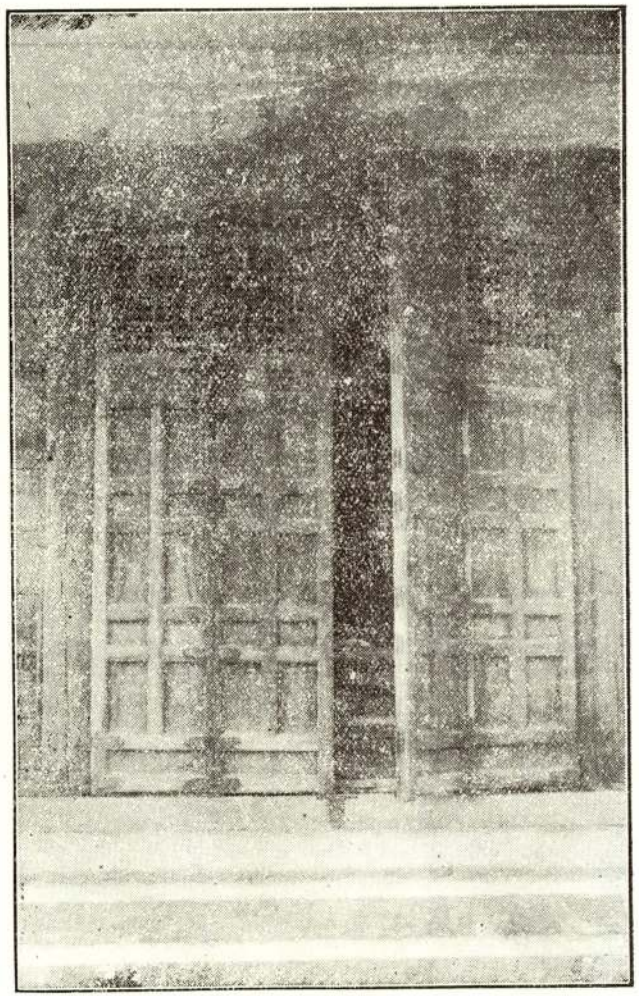


プラン——三間三面單層屋根寶形造本瓦葺の本建築は前面各間には廣い小脇羽目を設け棧唐戶を立て左右兩側面は中央間のみ棧唐戶其の他は板壁とし三の間は廂を作り出し羽目板を張り後面中央間は上げ板戶、其の他は板壁とし前面及兩側面中央間には各石階を築いて居る。

エレベーション——屋根寶形造で其の流れ緩くて軒端には反轉なく、其の他の手法等も本堂藥師堂とは甚だ好く似て居る、即、軒は疎大な扇垂で受け鼻隱板を用ひて居る。

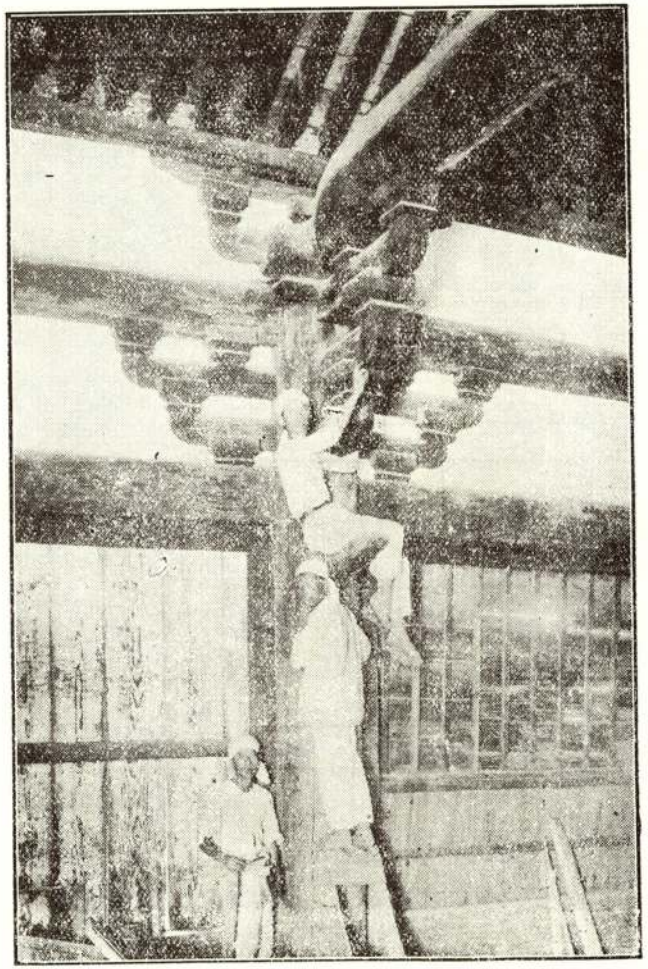
斗拱三手先で尾垂は丸桁と軒桁とを受け大圓柱の挿肘木は其の尾垂の端と軒桁とを受けて居る。

Fig. 13　淨土寺淨土堂正面中央間淺唐戶詳細



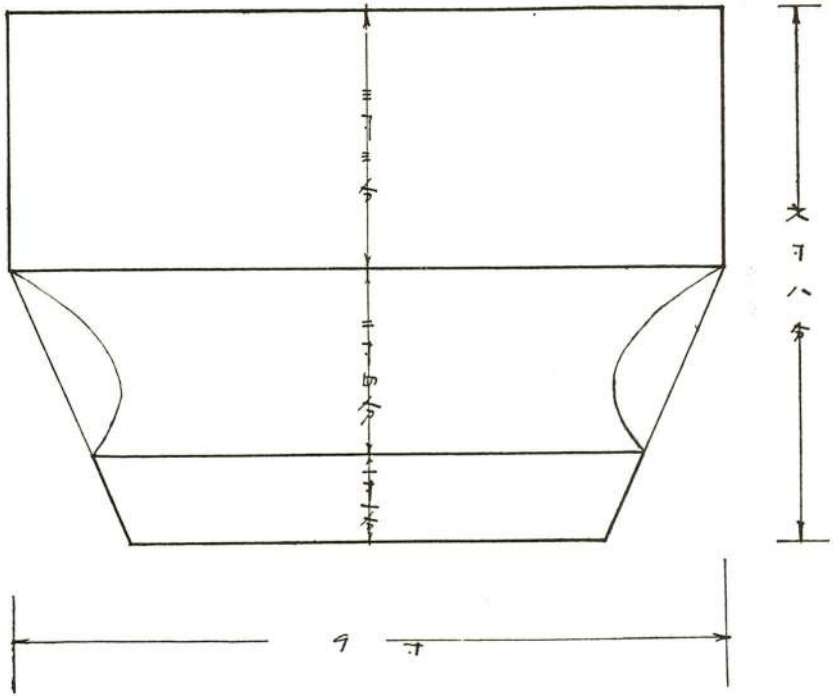
(13. 8. 1. 實測中撮影)

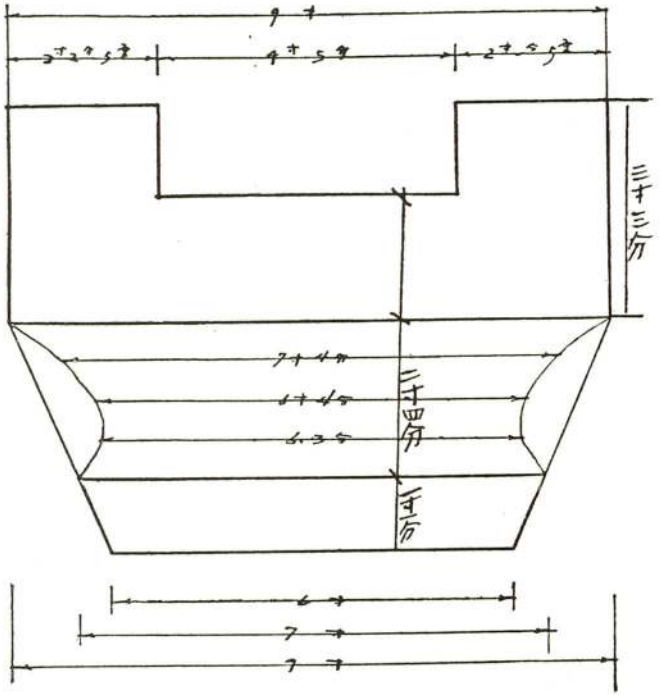
Fig. 14　淨土寺淨土堂內部
虹梁下斗拱詳細



13. 8. 1.——

淨土寺
淨土堂上
斗栱側面
總長二尺一





内陣は圓形である、其の圓形の内陣を圍んで内陣柱を建て周圍を開放して居るその中に圓狀の須彌壇がある。

床は總拭板張で天井は化粧屋根裏を表はして居るで内部架構は藥師堂より又一段の面白味がある。

内部架構――本堂よりも一層賑である、即内部では寶形造で側柱と内陣柱との差が大なる爲に繋ぎ虹梁を三重に架構して居る、三手先で支へられた初重の虹梁の上は圓束（大瓶束）を立てゝ、二手先で支へられた二重目の虹梁を支へ、更に其の虹梁の上に圓束（大瓶束）を立てゝ其三重目の虹梁を支へ其つ上に束を立てゝ斗拱を組み桁を支へて居る而してその虹梁の下端には錫杖彫がほどこされて居るで淨土堂が天竺樣なる理由は

1　斗拱に挿肘木を應用して居ること

2　故に斗拱は柱の上に來る事は無く何時でも肘挿木の上にある事

3　椎は隅で扇椎になつて居る事

4　柱は丸柱で最上層まで一本で通つて居る事

5　鬼斗は使用せず隅では普通の斗を四十五度に用ひて居る事

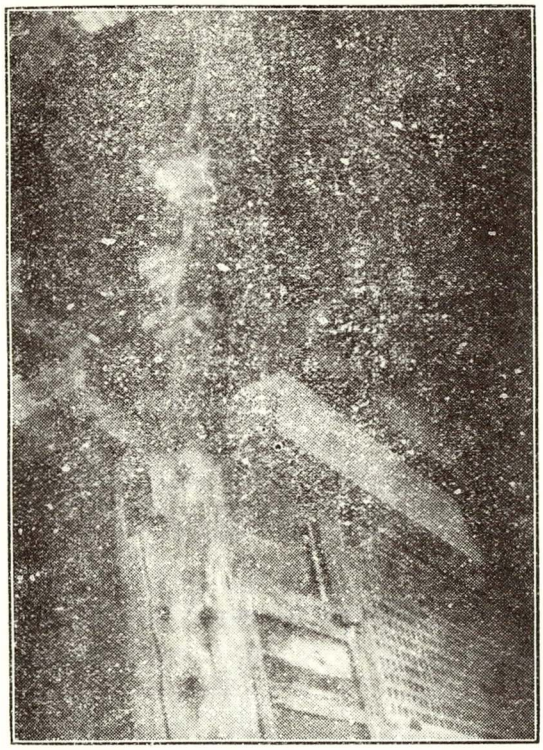
6　軒一重で軒先には鼻隱板を用ひて居る事

7　化粧屋根裏を表はして居る事

8　其の他尾椎鼻、木鼻等の曲線の强い事

等から考へても立派な天竺樣の建築である事は何人も肯定する所だろうと思ふ。

Fig. 16　淨土寺淨土堂外部斗拱



自分が去夏、淨土堂實測滯在中、暑い〳〵太陽の光を避けて木の間に憩ふ時何とも形容し難い感に打たれたのは思ふに本堂なり、又は淨土堂なりが其の手法甚だ巧妙な、綿密なと云ふにはあらず、之と全然反對のごつ〳〵した、何處ともなく大きな感を與へられた爲に依るのでは無かろうか、自分は其の一本で下から上までつき通つた、あの内陣柱二段、三段の挿肘木を見ても奈良東大寺南大門を見る樣な何だか嫌な感じもせず、むしろ手法があつさりして居ると考へる位であつた。

で一度其の内部に入り、化粧屋根裏の壯大な天井を見上げる時、慈悲圓滿な阿彌陀如來の前に跪坐する時莊嚴の感に思はず襟を正し首べをたれるのを常としたのである。

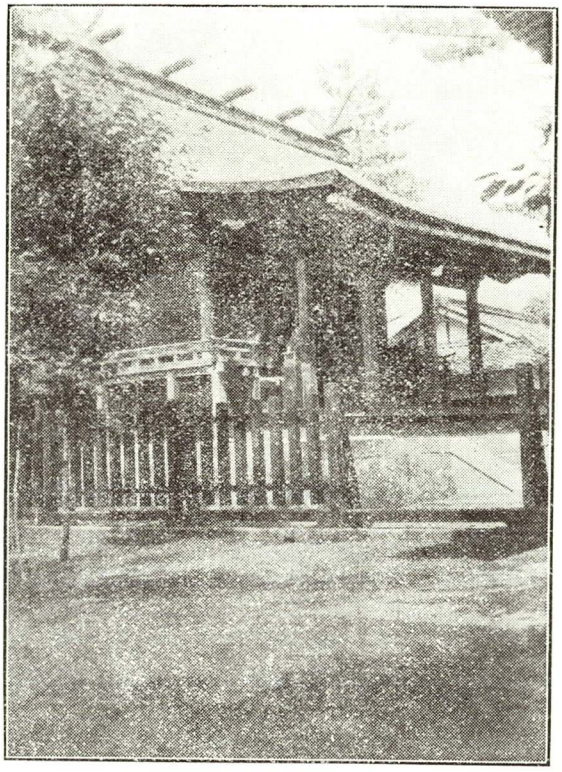
第四　淨土寺鎭守八幡神社本殿

現今では神佛各分離の結果、或は別に新に一節を述べて此の八幡神社に附て述べるのが至當かもわからない。が當八幡神社は淨土寺の鎭守の御社として淨土寺境内の中央にあり、本堂と淨土堂とを左右に控へた有様は如何にも壯大なものである。

で此處では自分は單に淨土寺の鎭守の社として淨土寺とは密接な間接があるから八幡神社として新たに述べずに往古の考へ方により此淨土寺の一部と考へて述べて見る心算である。

で以上の様な理由からして概説で述べるべき位置とか、歴史的の研究は淨土寺の最初のものを其のまゝ適用して差支へないと考へる。

八幡神社本殿



第十八圖　鎭守八幡神社本殿

構造形式　三間社流造屋根檜皮葺

建立年代　室町時代

指定月日　大正二年四月十四日

プラン——三間社流造でプラン前面各間には木連格子を建て左右兩側面及び後面の三方は羽目板張で繞らすに、前面左右の兩側面とには高欄ある廻縁を以てして居る。

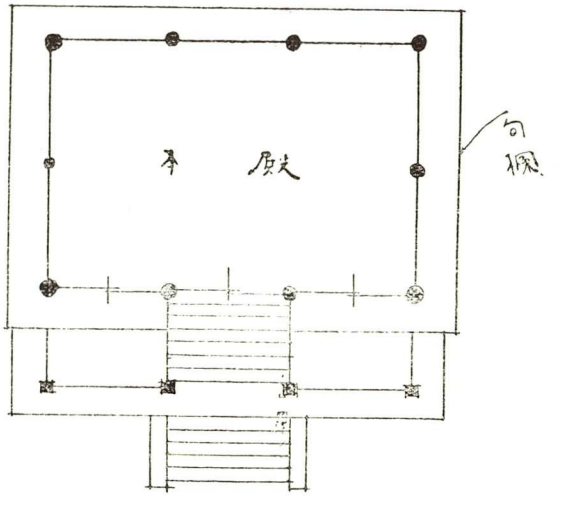


FIG 19.　全上　見取平面圖

屋根——檜皮葺で棟上には例の千木と勝男木とを戴せて居り、勾配甚だ緩である。

軒廻り——軒には繁棰を分布し、軒端には反轉がある。

斗拱——三ツ斗拱で中備へには第二十圖に示す様な室町時代の特長を發揮して居る本蟇股を備へて居る。

細部——向拜柱の繋ぎ虹梁の鼻と頭貫の鼻には繪様彫刻を施して居る。

前に云つた斗拱間中備の蟇股見るべきものではなからうか。

妻部——第二十二圖に大體其の下部の方が表はれて居るが、虹梁は側梁を連絡

第二十圖　淨土寺八幡神社本殿の蟇股

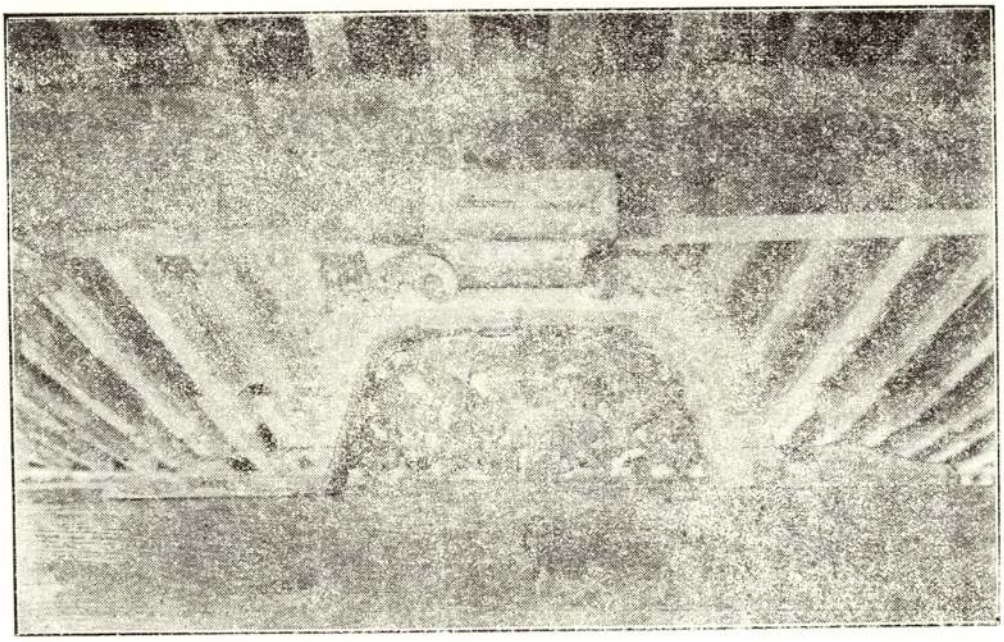
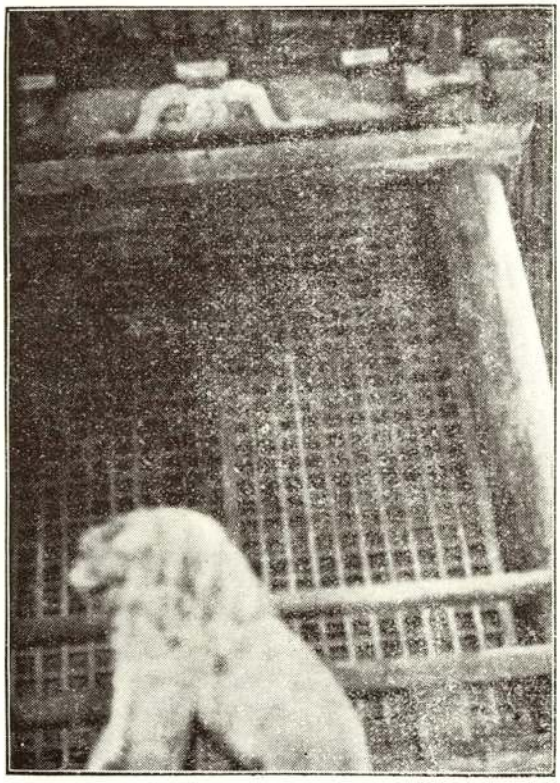
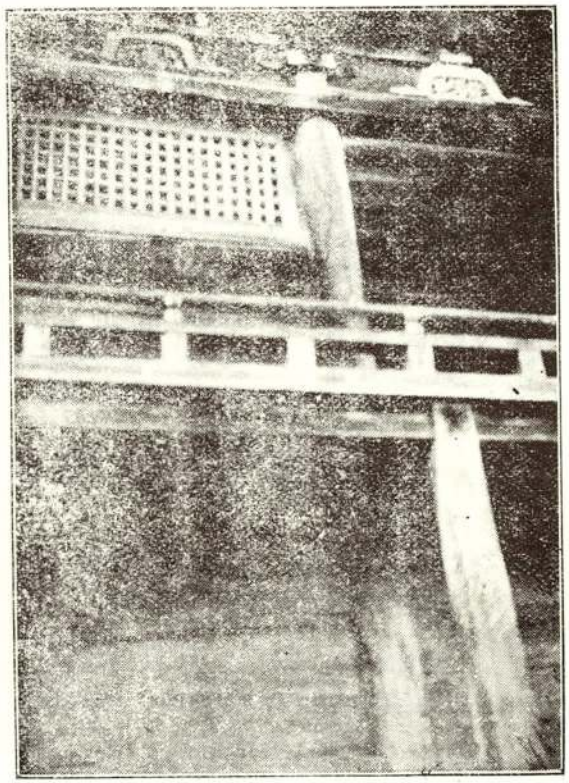


Fig. 21　淨土寺八幡神社の一部

Fig. 22　同　右







第二十三圖　淨土寺八幡神社拜殿

し其の上に大瓶束を立て其の上に斗拱を組んで棟木を受けて居る。

外觀、プロポーション――其の檜皮葺である屋根及び其の軒端に有る反轉、中備の蟇股に表はれた其の手法の精巧な事と形の整つて居る事等神社研究上の好標本であると思ふのである。

第五　淨土寺鎭守八幡神社拜殿

構造形式　七間三面單層屋根四注造本瓦葺

建立年代　鎌倉時代？

指定年月　明治三十四年三月二十七日

プラン――第二十五圖に示すが様に七間三面で總圓柱を建てゝ居る。で丁度プランは三間三面の二建築を同一な四注造の屋根で連結したものと考へて差支へないと思ふ。即割拜殿？の形式で中央の間は土間で前後に通り扠であつて腰には唯腰羽目板を張つて居るに過ぎない。で四方は悉く開放で何物をも他に備へて居らない。

軒――軒は一重棰？で其の分布疎である。

斗拱――出三斗で中備へには稀に見る双斗を置き魚形をした肘木を使つて居る

内部――は床は總拭板張で天井は化粧屋根裏で小屋組を表はして居る、で小屋組の架構法は丁度當寺の淨土堂の遺方によく似て居る、即、柱頭には斷面殆んど圓に近い繋ぎ虹梁を架け其の兩端は挿肘木がこれを受けて居る。

で其の双斗には繪様彫刻が施されて居る事等、卽

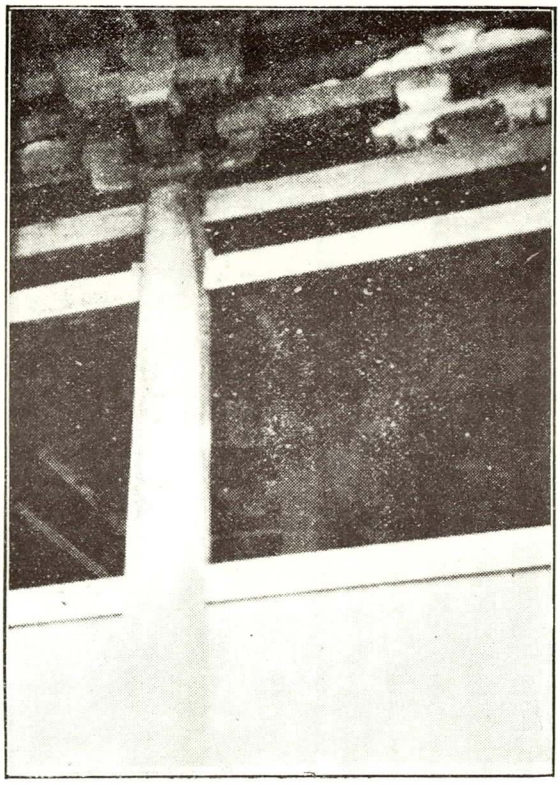
1、虹梁を受ける爲に挿肘木を用ひて居ること（天竺様）

2、繪様、彫刻、其の他の曲線（唐様）

3、双斗を使用して居ること（觀心寺様？）

等の諸點から考へて當建築は河心觀心寺様に更に唐様とか又は天竺様とかを混和したもので其の鎌倉の建立と傳へて居るが細部の手法も善く之を表はして居るものと考へる。

備考――現在ある堂宇は大正十年、其



第二十四圖　淨土寺鎭守八幡神社拜殿の一部

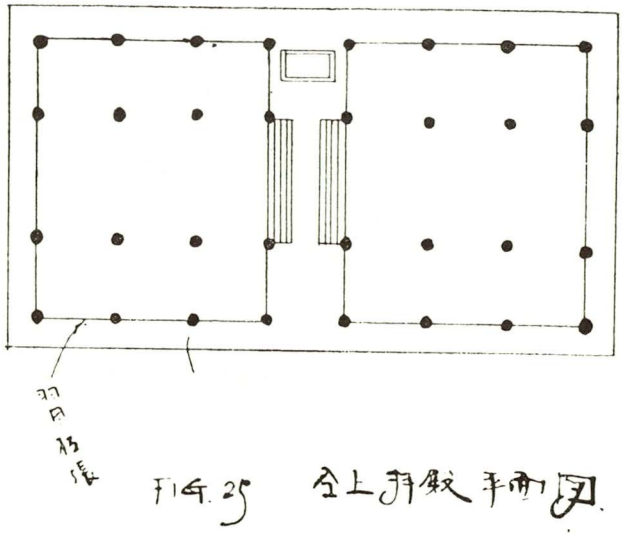


FIG. 25　全上拜殿平面圖

の破損の度の甚だしかつた爲　大修理を
やつたものである。

第六　淨土寺に藏する國寶に就て

部の其の國寶を見る機會が無かつた事を甚だ殘念と思ふが記錄に依つて其の國寶の主なものを擧げる事とする。

淨土寺に藏する國寶

一、槃涅圖　（繪畫）
二、眞言八祖像の一　（繪畫）
三、阿彌陀如來　（彫刻）
四、俊乘房重源上人　（同）
五、善無畏三藏影像　（繪畫）
六、般若十六善神　（繪畫）
七、來迎佛　（彫刻）
八、印圖五輪舍利塔

自分は昨夏、淨土寺に實測滯在中、全



病院建築は斯うありたい

小幡龜壽

氏は醫博にして、現大阪市民病院長である。治療の實際に當られてゐる氏の病院建築觀は、蓋し建築家の最もよい資料であらればならぬ＝編輯者

特殊な建築――苦心の割りに効果の見へない建築――ホテル式とビルデイング式――鐵筋混凝土建築と病院の本質――室内の配管及び配線又は煖房裝置の掩蔽――洋風建築に庇の設備――中廊下式と片廊下式――治療機關の聯絡設備――事務機關の聯絡配置――

○醫者は建築と云ふものに全くの素人だから、病院建築に當りて、隨分と無理な註文もある譯である。けれども、建築家其ものも、或特殊の人でない限り、病院建築と云ふやうな特殊な建築に就いてはどちらかと云へば、餘り研究が無いやうであるから、矢張り實際に内部の局に當られるお方から、教を蒙つた方が可い。

○建築としては、病院建築位複雑なものはない。殊に、眼に見にぬ所に、割合煩い手の掛かる所が多いものであるから、建築家としては、病院建築と云ふものは餘り好ましくはなからうと想ふ。建築家として見れば、勞して、其割合に直接効果の見え難い種類の建築であるから、矢張り病院建築に力を入れやうと云ふやうな篤志家が少い譯であらう。

○病院建築として、醫者の立場から見て第一に考へなければならぬのは、病院と云ふ建物の大體の形式――「プラン」を、所謂「ホテル」式にするか、或は事務的の「ビルデイング」式のものにするか、と云ふ事である。病院は、謂はゞ病人を容れる一つの「ホテル」であるから、健康者か住むで居て心持の好い以上に、心持の好い部屋を造ると云ふ事が第一條件である。其上に、治療機關の設備、乃至、事務上の聯絡に便利なこと、其他衛生上のことは、どの建物に於てでもあるが、殊に病院の建築に於ては、普通一般のもの以上に注意しなければならぬ。

○彼樣に種々と注文は多い譯であるが、就中、近來流行して居る鐵筋コンクリート造は、病院建築として理想的なものかと云はゞ、必ずしも然うではない。無論耐震耐火と云ふことに於ては可いけれども、住んで心持の可い、と云ふ註文に對しては當らぬやうである。所謂「ビルデイング」式の事務的建物としては相當すべき構造なるも、住むべき建物としてはまだ餘程の研究を要すべき過程にあらうと想はれる。その一端としては、西洋の「ホテル」などの如き、殆むど鐵筋コンクリートに見えぬ程に木材その他の材料を

用ひてゐる。斯の點に於て、「住む」氣分の好いやうにするには、木材を適當に用ひた方が可いであらう。併し、木材を使ふと、火災の危險があると云ふとなら壁の色などに就いても、もツと工夫しなければならぬ。假に、白い壁などは、採光だけから云へば、光線が反射して明くて可いかも知れないが、其處で事務を執る者は、始終壁を見て居る譯でもないから格別として、病人が仰けに寢て居て、始終白壁ばかりが視界の對象となつて居ては、實際堪らないであらう。殊に、夜分など電燈の光が反射した工合は、最も心持の好くないことゝ思ふ。斯う云ふことは、建築家として餘程考へて貰ひたい一つである。從つて、夜の照明と云ふやうなものも、餘程考へる必要がある。

○次に、濕氣の關係であるが、地下室などの特段な所は別として、普通の一階以上は通風さへ良くして置けば、大概のことは防ぎ得ると思ふ。それで、部屋の中を心持好くする爲には色合のことに注意し、又煖房其他の配管に就いても、室内に於ては成べく露出しないやうにすることが必要である。外國の「ホテル」などでもそれをやつて居る。即ち壁の中へ溝を掘え、其中へ配管のやうなものは全部入れてしまひ、修繕の必要がある時は扉を開ければ、皆出せるやうになつて居る。煖房裝置なども矢張り壁の中へ入れて、金網でも張り、外から見れば、何處に煖房があるか分らぬ位にしてある。

○又、是も矢張り住む氣分の方から、並に衛生上の見地からであるが、日本では夏の僅の間であるけれども、隨分暑い時期があるから、在來の日本の建物にあるやうに、庇を拵へて日射を避けるようにしたい。從つて日を避ける側の方には、矢張り片側廊下を拵えて置くことが必要であらうと思ふ。歐羅巴のやうな、あゝ云ふ比較的暑い時期の少い、光線の弱い所の眞似をして、夏でも部屋の中まで陽(殊に朝陽や夕陽)が這入るやうな構造にした病室を隨分と見受ける。それは、浴衣の上に帷巾を着るような形式に捉はれた遣り方である。夏は直射光線が這入らぬでも、日本のやうな光線であれば、衛生上から云つても、消毒の効力は相當ある譯であるから、夏の直射光線は病室には餘り感心しない。故に、今回建築した大阪市民病院でも、冬は終日多少とも陽光が隨分と中まで這入り、夏は、絶對にとは云へないが、殆んど直射光線が這入らないように、設計上餘程苦心を拂つた。

○尚ほ是も氣分の問題であるが、在來の中廊下式は、恰も長屋住ゐを爲して居るやうな氣分がする。中庭を隔てゝ向ふの病室と此方の病室とが互に差向ひになつて居て、「カーテン」を除けると、互に病人の寢て居る所が見え通すといふ譯で、餘り好い感じがしない。是は經濟問題もあるから、一概には云へないが、多少さう云ふことを考へて、少くとも病室の或部分は、中廊下にしても、或部分は片廊下にする、と云ふ風に、何とか出來るだけの工夫をする必要がある。徹頭徹尾中廊下式にすると云ふことは、餘り考への無い病院建築ではないかと思ふ。

○次に、治療機關の連絡に就いては、現在の大學病院などは各科分立で、隨分其聯絡上不便な建物になつて居るが、日本では、病院として各科の聯絡の能く取れた處の、統一された設備が便利である。本來、病院と云へば、外來患者が無い譯で、入院患者だけであれば、現在のやうでも可いが、日本では事實まだ其處まで行つて居らぬから、矢張り外來患者に對

する關係をも多少考へなければならぬ。故に病院建築は、外來患者の診察場、其他の治療機關の聯絡に就いても注意しなければならぬ。尚ほ、外來患者を取扱ふ所では、病室は棟が分れて居つても可いが、本館は成べく集中主義で、各科の聯絡の取れるやうに「プラン」を立てることが必要ぢやないか知らぬと考へて居る。

○それに續いては、事務上の聯絡であるが、是が又なか〳〵難かしい。病院も矢張り一つの事務が伴ふ譯であり、外來の者と院内の者との聯絡を簡單にして、而も間違ひの無いやうにすることが餘程必要であつて、それが又非常に難しいのであるが、建築をする時には、其邊に就いても十分に考へなければならぬ。仍で、出來得れば、一個所で病院全體のことが直ちに判り得るやうな組織若くは機關が欲しいのである。其意味から云つて、大阪市民病院などは、庶務が病院の最端に持て行つてある。普通ならば、先づ受附と云ふ所を庶務で兼ね扱ふて、院内へ入れぬでも可い。事務は、どん〳〵其處で裁いて行く。恰度ホテルの受附である。其處に「マネーヂャー」が立つて居れば、立話で大體の用事は濟むやうになつて居る。從來の病院では大體役所風に出來て下には唯守衛か何かゞ受附けを承り、詰らない用事でも一々上まで持て行くと云ふやうになつて居たが、斯う云ふ點に就いて、もつと考慮を拂ふべきでないかと思ふ。

○そんな關係で、大阪市民病院の病室の方でも、輕症患者の病室に於ける看護婦の詰所などは、一目して病院の大部分が見えるやうに考へてはあるのである。是は外から見舞に來た人、或は病室の方へ對する連絡上さうして置くことが必要である。併し重症患者になると、其處に居る看護婦は專心看護に從事しなければならぬから、是は患者を本位として病室に便利なやうに、其中央に置いてある譯である。

患者收容設備の區別——長期患者の慰安設備——入院學齡兒童の教育施設——院内交通聯絡機關——患者輸送設備——「エレヴェーター」の配置——患者の食堂設備——浴室の設備——出入口の統一殊に治療室への聯絡——

○病院は、病人を收容する所には違ひないが、其病人には慢性病で比較的輕いのと、長く要かる者と、所謂急性病で重くても比較的早く治る者と二種ある。此二種類はどうしても別にしなければならぬ性質のものである。故に、病院と云へば本來は急性病を取扱ふ所で、慢性病は所謂療養所とか保養所に收容すべきであるが、日本ではまだ此區別がハッキリして居ない。是は、まだ病院が發達せぬ爲であらう。若し急性病だけを扱ふ病院とすれば、前に述べたやうに、室内の氣持を好くすれば、強ひて特別な慰安方法を他に設ける必要はない。所が、慢性病を取扱ふ保養院になると、患者は比較的輕くて、長くかゝるものであるから、之を室外に集めて、所謂集團的娯樂機關を設ける必要がある。けれども、日本では、此二つが混同し居るので、一面に於ては多少慢性病患者に對する娯樂機關も考へなければならぬ。實はラヂィオなどの施設もしては什うかと云ふ意見もあるが、今云ふ通り現在の日本の病院は急性病患者も一緒に居るから、多數の者が共に樂めるやうな娯樂機關を設け、例へば音樂のやうなものをやつたとしても、一方に於ては非常に喜ぶ者もあるが、他方に於てウン〳〵唸つて居るやうな急性病患者は甚だ迷惑をすると云ふやうな關係で、さう云ふ音の外に漏れるやうなものや、騷

々しいやうな娯樂機關は餘り面白くないと思ふ。仍で、あの大阪市民病院にしても、病室に附屬した、所謂日光浴室を設け、日のよく這入るやうにして、治療の便宜にも供し、又一面には患者の慰安の場所にも使ひたいと思つて居る。尙ほ其處に一箇所だけ可成り廣い部室を取つて之を患者作業室として居る。是は患者が個人々々に其々其嗜好に應じて、例へば籠でも編んで樂むとか、或は粘土細工や彫刻でもして樂むとか、勝手な事を爲して、他人に迷惑を掛けずに愉快に其日を暮させやうと云ふのであるが、現代の日本の病院内に於ける慰安法としては斯う云ふ設備の方が可いのではあるまいか。

○又、現在の日本の病院として考へなければならぬのは、是も今云ふ通り急性病患者と慢性病患者と一緒になつて居る關係や、學齡期にある小供にして比較的長期に亘る入院患者があるが、是などは、病症の容す限り相當な教育をしてやる必要がある。是も個人々々にやることは可なり面倒であるから、一定の部屋を設け一定の時間に看護婦長にでもやらせるか或は特別に教員でも雇ふてやらせるか、何れにしても、さう云ふ部屋を設けることも必要である。

○其他、經濟が容せば、交通聯絡の機關を設ける事であるが、是は可成り金が要かつて面倒なものである。併し病院としては他の事は多少粗末にしても、斯の事は餘程必要なことでないかと思ふ。市民病院に於ても之をやらうと考へて、大分研究はしたけれども、金が無いので、思ふやうに行かなかつた。例へば、假に他處から來て急に院長に會ひたいとか、或は急に病人が誰某の醫者に診て貰ひたいとか云ふ場合に、直ちに其人の所在が判ると云ふ事が、非常に必要である。之には、現在亞米利加で使つて居る所謂高聲電話を以てすれば、何處か一箇所で呼ぶと、それの架かつて居る場所だけには一時に通じるから、何處か其最寄の人が、あなたを何處其處で搜して居りますと云つて、直ぐ本人に知らせることが能る。是も、要するに、金の問題であるが、是が能きれば、大層便利だ。大阪の大丸などでは、時計の周圍に電燈が點くやうになつて居て、それが各幹部の人に依つて色が異つて居る。それで、青なら青の人を搜す場合には、青の電燈を點すと云ふことにすれば、各室の時計のある所に皆青の電燈が點く。そこで、何處かの部屋に居れば、あなたを搜して居ると云ふことを直ぐ其人に通じ得る。何れにしてもさう云ふ設備をすることが、必ずしも病院のみには限らないけれども、殊に病院としては必要であらう。

○患者の輸送に就いては、現在多數は「エレヴエーター」になつて居るが、あれも出來得れば、横にあゝ云ふものを使へば可いだらう。大阪市民病院でも、矢張り「エレヴエーター」でやつて、各階は今の所輸送車を用ひ、擔架は成べく使はぬ積りであるが、是なども、經濟が容せば建築上何とか工夫をする餘地があらう。外國でも、私が見た所では、横には何も特殊なものは使つて居らぬやうであつた。或は其後亞米利加邊りで何か變つたことをやつて居るかも知れないが、私の行つて居る時分にはさう云ふものは見なかつた。唯各階に通ずるのに「エレヴエーター」を用ひず、又階段なしに、傾斜を付けて、輸送車で患者を各階に運ぶと云ふことはやつて居る。

○尙ほ「エレベーター」の配置も澤山あれば、成べく分散して置いた方が便利であるが、若し數が少ければ、あるだけのも

のを中央へ集めて置く方が可くはないかと思ふ。何故ならば、あれは、使ひ様も悪いのか知らぬが、現在の所よく損ひ易いから、假に南の端にある「エレヴエーター」に乘る積りのものが、それが一時動かぬとなると、患者を又北の端に持つて行かなければならぬと云ふやうなことになる。之を中央に配置しあれば、北からでも南からでも、何處からでも、比較的距離も近いし、其處にさへ行けば、一つは損んで居つても、必ずどれかが使へると云ふ譯である。それで一寸考へると二つ置くにしても 三つ置くにしても、それを分けて置く方が便利なやうに思はれるが、實際上それは不便な事が多い。

○其他病院としては食事の關係であるが重症者は已むを得ず病床で攝らせるより仕方がない。輕症者は、事情の容す限り食堂で攝らせるやうにしたい。それも、特殊な病院は別として、一般の病院は、知らぬ者同士さう澤山一つの食堂へ集つて來ると云ふことも困る譯であるから、小さな食堂を幾つか設けて、所謂配膳の聯絡を良くすること、患者の食事は一般の健康者と異つて、一律に行かぬもので、矢張り特別な食事を拵える必要があるから、各病棟にはどうしても自炊室と云ふ樣なものを設けて置く必要がある。

○或は又浴室にしても、日本人は隨分風呂が好きであるから、西洋式に全然一人づゝ入れると云ふことも、日本人には困る場合がある。患者用の浴室でも、輕症者は何人か一緒に這入れるやうにし、比較的衰弱などをして居る患者は、特に一人づゝ入れてやるために、西洋式の風呂にするとか、其他職員等の健康者を入れる風呂を設けるとか、浴室などに就いても、他の病院以外の建物と比べて、餘程考を要する所である。

○又、病院の入口などは、外來患者の入口とか、病室の入口、或は職員の入口と云ふやうなものを成べく別に分ける事が必要である。結局それを監督上一箇所の出入に纏めると云ふことも必要である。而も、病院の建物としては、餘り一箇所へ澤山かたまると云ふことは可くないかと思ふ。從つてなか〳〵難しい註文もある。或は外來の怪我人の措置の如き、是は外國では相當發達して居るけれども、日本では、今の所、何處の病院でもさう云ふものに對する考慮は餘り拂はれて居らぬやうである。從つて往來などで怪我した者を病院へ連れて來て處置する場合假に玄關まで自動車で送つて來て、外科なら外科の處置室まで移すのに、場合に依つては、自動車に乘つて玄關まで來る時間よりも、玄關から外科の處置室まで運ばれる時間の方が長く要かり、或はそれが爲に患者の苦痛を增すと云ふことになるから、さう云ふ場合成べく自動車で來て、直ぐ入り得るやうな應急處置室を設けて置くことが必要でないかと思ふ。今度の大阪市民病院は敷地の關係上思ふ通りには出來なかつたけれども、兎に角さう云ふ考で、自動車が部屋の側まで行けることにはなつて居る。

困難な問題は手術室の構造殊に天窓のそれ——
治療所設置と病院本來の職能——一都市又は一國生產能力の消長と治療機關の能力——病院建築の當局者と建築家の步調

○又病院の建物として難しいのは手術室である。是は何處の病院でも困つて居るが、殊に採光の問題が一等難かしい。下光線は勿論必要であるが、併し横光線だけでは可かぬ、矢張り上からの光線も必要である。そこで、天窓を取るか取らぬかと云ふ問題になる。此天窓が日本の天候から云つて、餘程難かしい。何故かと

云はゝ、あの一時にどッと降る雨は其雨量が非常に多いものであるから、是が漏らぬやうな完全な天窓を拵えると云ふことは、技術家の餘程苦心を要する所で、我々も是まで色々やつて見たけれども、其經驗上から云つて、どうも雨の絶對に漏らぬ天窓は殆ど出來得ない。從つて、西洋でも、近來此天窓の事が非常な問題になつて居て、或は二重天窓にして、夜は其處に燈を點し直射光線でなしにやると云ふ方法にすれば、同時にそれが煖房の溫度にも幾分關係する譯で、さう云ふものを拵えた方が可いと云ふ人もある。或は全然天窓を廢め、横窓を高くして、上の光線を採らうと云ふやうに工夫して居る人もあるやうだが、日本でも矢張り少しく横窓を高くすると云ふ風にした方が可くはないか。どうも天窓は雨が漏り埃りが入る虞がある。それで、鐵筋コンクリートの建物にあつては、亞米利加式に三階とか四階とか一番上の階に手術場を集める方が便利か、或は主として獨逸式のやうに、別な部屋にして矢張り一階に持つて行く方が便利か、是は將來餘程研究すべき問題であらうと思ふが、採光の方から云ふと、上へ持て行つた方が便利であるし、又土地の關係上、市街、或は市街に近い塵埃の多いやうな所ならば、矢張り上へ持て行つた方が多少とも塵埃が少くて可からうと思ふ。尤も、郊外地の空氣の良い、敷地も廣い所へ行けば、理想的に云つて、斯う云ふ建物は別にした方が、採光の點から云つても、其使用上から云つても、可いには違ひないが、さう云ふことが能きなければ、先づ一番上の方へ持て行つた方が可からうと思ふ。大阪市民病院も矢張り三階に集めて居る。是は經濟上から云つても、手術場は一箇所に纏めた方が利益であるし蒸氣や滅菌水の關係から云つても、さうした方が便利である。何れにしても病院と云ふものは、病院其ものゝ本來の性質に依つて色々と決めなければならぬので其處が難しい譯である。從つて、どの病院は都合好く出來て居るからとて、其病院の使用上から云つて可いのであつて、どの病院もそれを眞似ると云ふ譯には行かない。假に大學病院が都合が好いとか、市民病院が工合が好いと云つても、何處でもそれを眞似して可いと云ふことにはならない。

○一體日本の病院と云ふものゝ發達の歷史から云つて、外來と入院とを同時に取扱つて居るし、又大學病院にしても、私立病院にしても、色々事情は異ふけれども、例へば大學病院でも成べく多數の外來患者から學問上興味のあるものを選定しなければならぬと云ふので、成べく外來患者を餘計取らうと云ふ主義でやつて居る譯であるが、本來病院と云ふものは先に述べた通り病人のホテルであるから泊り客だけを扱へば可い譯である。又、さうすれば、職員も殆んど全力を入院患者に集中することが出來るのであるが、外來患者を扱ふ必要がありとすれば、寧ろそれは各所へ分けて、通ふ患者の便利なやうにした方が双方の得策である。所が現在の病院は一箇所でやつて居るのであるから、是は將來多少變つて行くべきものであらうと思ふ。假に今の大阪市民病院にしても、あの近邊に居る者の通ふのに便利であらうが、少し離れた所の者は毎日通ふことは甚だ不便である。從つて、あれも外來患者を主にすべきものではないと思ふ。外來を扱ふと云ふことになると、午前なら午前の或一定の短い時間に、澤山の患者が集つて來る、其混雜を避ける爲には又それ相當に建物の上に

於ても考へなければならぬ。併し是も考へて見ると、一晝夜の間に僅か二三時間の混雜を避ける爲に、後は开う使ひもしない建物を拵えなければならぬ譯であるから、病院として非常に不經濟なことになる。

○又、應急處置をする所なども、獨逸邊りで、公立のものもあつたが、寧ろ民間に於てさう云ふものが隨分出來て居たやうである。それを今段々公立に統一するやうになつて來て居るやうであるが、伯林などには何十箇所もある。さう云ふ所では、患者○治療もすれば、應急處置もやるし、同時に、患者を病院へ輸送することもやり、又病室の、明き塞ぎ等に就いて、各病院との聯絡も取つて居る。併し日本では一般の人がまだ病院と云ふものに對する理解が十分でなく、動もすると、病院は死ぬか活きるかと云ふ重病人でなければ入いる所でないやうに心得て居る者が多いから困る譯である。大體、家に一人でも病人があると、それが爲に隨分仕事の邪魔になるし、殊に其家の當主でも病氣になつたときは、尚更一日も早く癒らなければならぬ譯だから、兎に角外來でやつて居るより、病院へ入つた方が癒るのも早いに決つて居る、經濟上から云つても、結局其方が利益である。斯う云ふ理解のある人が段々多くなれば病院も治療上、又經濟上有利に使用が能る。そこで、市民病院などに就いても、私共は始終言ふて居る事であるが、たゞ安價治療と云ふことだけでは可けない、成べく早く入院させ、成べく早く治療して、一日でも休業日數を少くしてやらなければならぬ。さうすれば、本人の働きの能率が上る譯であるから、從て大阪市としてもそれだけ生產能率が高まることになり、即ち其處に市營と云ふ意義も現はれて來るのである。故に、安價治療を主にしてやることも、治療費の負擔を輕くすると云ふことには可いかも知れないが、一口に云へば、治療能率の不完全なとか、或は治療能率に對して過重の負擔をした安價治療法は市營としては餘り感心しない。仍ち、設備も出來るだけ完全にし、其設備を運轉する職員の治療能率を十分に發揮させるやうにして、患者の休業日數を一日でも少くし、其結果市の生產能率を向上せしめることが所謂市營の本義でないかと思ふ。從つて、入院患者なら、一般開業醫とも聯絡を取つて、成べく早く治してやるやうにし、又患者自身も成べく早へ治らうと云ふ考で、此病院をうまく利用して貰ふことにしたいと考へて居る。

○要するに、病院の建築と云ふものは、其中に働く醫者と、建てる方の所謂建築家とが、互に能く了解し、本當に其同一致してやることが非常に必要である。然るに、從來は、動もすると、双方殆ど殺交涉でやつて居ることが多いものであるから、出來上つて見て、是では困ると云ふやうなことで、醫者の方が無理な註文を爲て建築家を困らせる事が隨分ある。何と云つたつて、そんな所へ柱を出しては可かぬと云ふやうなことを云つて頑張る人があるやうだけれども、さう云ふことは、双方が理解が無いからである。それは、色々細かいことを云へば、隨分あるが、電燈一つにしても、我々は部屋の照明は此位にしたら可からう、成べく氣持の可いやうにして貰ひたいと云ふと、それぢや斯う云ふものを使ひませうと云つて名前を聽かされるけれども、此方には解らぬ。實物が來て見ると、是では一寸工合が悪いと云ふやうなことがある。或は廊下の電燈にしても　その他の部屋

の電燈にしても、大阪あたりは隨分埃りが多いから、笠に埃りが溜る、隨つて、あれも丸いやつでなしに、天井に取付けて下だけ笠になつて居るやうなものにすれば、埃りの溜る事は少からうと思ふ。其他細かいことを云へば、窓なども餘程考へものである。今の所では、まだ洋館に住んだ事のない人が多い譯だから、窓の開閉にしても、或は便所の使用法にしても、洋館の取扱ひにはなか〳〵困る。是等もそれは向ふが悪いのだと云つて棄てゝ置く譯にも行かないから、建築家の方で相當考慮する必要があらうと思ふ。又、日本では、能く急に吹降りがやつて來るので、急に雨が來た時に慌てゝ窓を閉めやうと思ふても、なか〳〵閉らないで隨分と困る。故に、横でなく、上に開くやつにすれば、少々風が吹いても大丈夫だし、小さな雨なら庇みたやうになるから、さう云ふものを注文したことがあるが、實現しなかつた。兎に角、鐵筋コンクリートの建物は木造と異つて、一遍建てると、模様替へと云ふことは餘程困るやうであるから、之を建てる時には前以て餘程考へなければならぬ。又、將來之を日本人或は日本の風土氣候に適合するやうに、どう改良したら可いかと云ふことは大に研究されなければならぬことだらうと思ふ。

——（文責在記者）——

碓氷川川原をひろみかたよりて

流るゝ瀬々に河鹿なくなり



創作

食卓を超えた人生

雜草舍主人

1

『やめとくなはれえ。朝つぱらからぐづぐづ言ふためにやつたら、わざ〳〵來てもうよろしおまあ』

『まあ、ようもそんなことを！　そらわたしに言うてるの。』

『あたりまいだんがなあ。よう表札を見なほしてからはいつて來とくなはれや』

叔母が吃驚してしまつたのに無理はなさゝうであつた。久子は伯母の一言々々を素つ氣なく突つかへして、その場へ長い足を投げ出して、ごろりと横になつてみせたのださうである。そこから二尺と離れないところに、呼吸を引きとつてまだ十時間も經つてゐない彼女の父の痩せた頰が、あぶらぎつた氣味の悪い蒼さで、襟あかに光つた薄つぺらな蒲團から、被もでもかけられないで冷たく覗いてゐたのである。

あられもない、あられもない、どうしてまあこんなに氣が立つてゐるのか、全く淺ましい姿になつてくれたもんだと、叔母が涙も出ないやうな喚きと驚きとで、蒼ざめて眉をよせて、久子にはもう目もくれないで、そつと新しい西洋手拭で死人の顔を蔽うたのださうである。

『やめとくなはれ、あたしが付いてゐまつさかいな。お父

うはんの邪魔はもうしとくなはんな』

久子は父の顔にかけられた白い布を横目でちらと覗ふと、早速とびかゝるやうにその布をひつ摑んで、その場へ一寸くとつてのけた。またとない底意地のわるい嫌な目付きだつたさうである。その瞬間の叔母の目には、叔母自身よりも死人の方がまともに腹を立てゝ、少し仲び出すやうに動いたやうに見えたさうである。その臘細工のやうに冷たく固まつて瞼しく隅ぐられた死人の顔が、薄暗らい部室のどこにともなく淀んでゐるあるかないかの光りで、不氣味な艶のないうす黄色い灰濁色にその時から變つてしまつたさうである。叔母は腹が立つてしやうがなかつたのと少し氣味惡くなつて來たので、早速席を外して、默つて一間を跨いだ玄關の間へ逃げ出した。そして、それつきり、自分乍ら少し薄情だなと思ひ乍らも、さつさと一先づは引きあげて來たのださうである。

困つたことだなあ、こいつはどうしたことだらうと、やつぱり、清三も一應は極く常識的に叔母と同じやうな吐息をついてみたのではあるが、さて、さうとばかり簡單に言つてのけるにしては、自分には少々交涉のありすぎる事件ではあるとも思はれるので、彼の頭は雜草を詰め込まれた兎の箱のやうに、今はうるさくごた〳〵に亂れて、一向に氣分が冴えてくれなかつたのである。

どうもこれぢやあたまらない、なんとか素直な解決がつかないものだらうか。憶ひ出すこと思ひやることの全てがかう不愉快ではしやうがない、どうとかしてさり氣ない明るい氣分になりたいものだ。こいつはめんどうなことを聞いてしまつたものだ。自分にどうするちからもないのではあるが。……

……

ふと、なんらの特別な意識もなしに、ぼんやりしたまゝ、素麵のやうに伸ばしてゐた膝をつと立てゝ身體の自由を少しとり戻した時、彼はそのまゝ一氣に寢返へりをうたうと身動きして、はつと目の醒めた時のやうに我れにかへつた。氣持がいくらかしつかりして來てくれた。

こゝはどこだつたかと氣がついて、そつとうす目をあけて見ると、白く光つたものものしい金具は相變らず首のま近かにぴつたりと釘づけた程な確かさでくつゝいてゐる。頭の方からだけしか光線のはいつて來ない、風通しもあまりよくないレントゲン療養所の一室、うす暗い天井には極く適確な間隔を置いて、針のやうに眞つすぐな四本の電流線が冷たく並んでゐる。その一本にとつゝけられた細いコオドが彼の首の上の金具にしつかり繫ぎ合はされてゐるのである。耳の周圍では、壓しつけるやうなものものしい重たい唸りが、せんぷうきの廻る時よりもしつかりした幅廣い張りをもつて、部室中を震はせるやうに鳴り續けてゐるのである。

なんだかゝうして柔らかい寢臺の上で、じいつと靜まり返つて、この單調な音を聞いてゐるのには、少々蒸し暑いやうな七月の午後一時である。まだ五分もかけてゐないらしいのに、なんだか日をつぶつてとりとめもないことを考へるのにいゝ都合なので、ついうと〳〵と眠り込んでしまひさうな氣分である。

全く困つたもんだなあと、彼は輕く目を閉ぢて、再び久子の顔を眼蓋の向ふに捕へやうとした。叔母があられもない姿になつてしまつたといふ久子の姿が、彼にはどの程度の狂亂

なのか一寸見當がつかなかつた。極くおとなしい、それでゐて勝氣でさつくりした、話相手には氣のをけない女だつたのにと、彼は先刻からしきりに頭の中を往來するずつと以前の未だ女學生だつた時の、邪氣のなかつた久子のなで肩を、またもぼんやりした氣分で憶ひ出してみた。どうしてだか、彼は彼女の白い顏よりも、黑い髮よりも、その身體全體のつきをはつきりおぼえてゐるのであるが、そのやゝ細長かつた顏が、十人並以上であると言はれてゐた彼女の顏貌が、さて、どんな風のつきであつたかは、今となつてはゝつきりと畫いてみられない位あいまいになつてしまつてゐた。なんだか、ほつそりした、どことなく纖弱な線が彼女の肩をいかにも女らしくすべつてゐた。後姿のいかにもかあいゝ女だつたと憶ひ出せるだけなのである。女學生時代には未だ絣の筒つぽを着て、公園の鞦韆に乘つてはしやいだりした女だつたがと、おもひ出せるだけなのである。どんな風に彼女が妙なことを言つたりしたりするのか、すでにあはなくなつてから五年も經つてしまつた今となつては　彼には彼女の氣のふれた格好が、どう努力はしても、目先きへちらついてはくれないのである。彼はいつまでたつてもいつもおとなしい久子のこどもらしい樣子を見るだけなのである。

父が死んだのを死んだんぢやないと言ひつゝばること、死體のそばにごろりと足を投げ出して橫になること、父の病中にもちつとも娘らしい看病もしないで、父の寢床にもぐり込んで父と同じやうに全る一日を眠つて暮らすことなど、考へてみれば、或はもうずつと以前から彼女はほんものゝきちがひだつたのかも知れなかつたが、新聞や雜誌の小說なんかを讀んでは、は、は、はつ、と面白さうに笑つたり、指先きで涙をふいたりすることがあつたりすることを考へ合はせて見ると、滿更らものがわからなくなつたのでもないらしいし、人一倍のしつかりした口調で叔母に盾つくところなどをみると、なか〳〵どうしてしつかりしたものだとも思はれるのである。

自分にもその責があるのだと考へることは、つらいことではあつたが、一方、氣樂な氣休めにもなつてくれさうであつた。所詮はいろ〳〵引き續いた不幸が彼女をこんなにしてしまつたのには違ひなかつたが、自分とのあの一寸した事件がその不幸のきつかけになつたらしいのは事實であるとみなければならなかつた。

二人が未だ未だ世の中といふものをほんとうの意味で知らなかつた頃、愛しあつてゐるといふはつきりした意識の現はれもなくて、お互に何とかの氣持をもち合つてゐたことは、當の二人だけではなく、少くとも、今は久子に大した好意をよせてはゐないらしい叔母は、よく〳〵知つてくれてゐたのであつた。も少時早く機會が二人に近づいて來てゐたなら、二人はきつとあのまゝすなほに、親しい幼友達から惠まれた許婚者同志になり、平凡ではあつたらうが平和なさり氣ない家庭を二人で作つたに違ひないのであつた。が、彼女の父の放逸な事業界への發展に禍されて、事業の失敗から彼女が女學校を三年きりでよさなければならなかつたのと、清三が學校の都合で東京へ去らねばならなかつたのとは殆んど同時であつた。

平常から心をきなく親しくしてゐたので、彼がこちらを去

る日も特別な言葉を二人がやりとりしたと言ふのではなかつたが、その前の日の夜は、つい近くの新道に夜店が出たので氣樂な氣分で二人がその夜店の街を歩いたことがおもひ出されて來るのである。さう〳〵、あの歸り路に、××橋の方までぶら〳〵散歩したのであつたが、あの暗い柳の植つた川端の片側街を(勿論柳には未だ青葉がなかつたが)歩き乍ら、ふいに彼女が、幾分はませた口吻で、

『あたしもできたら一緒に東京へ出てゆきたいわ。あたしこのまゝ學校を止すのはどう思つても殘念だわ』と、いかにも思ひ入つたやうに言ひ、少時默つてから、『だけど、あなたさへ勉强して下さつたら、まあま、滿足だわ。一生懸命でお歸りを待つてゐますわ』

と、言つたのが憶ひ出されるのである。その言葉にはいかにも女學生らしい安價な響きがあるとは思つたが、相當に深い意味が含ませてあつたのもほんとうであつた。そこで、彼もそれ相當な意味を持たせてあるつもりで、

『なあに、僕だつて今更ら東京ゆきを喜ぶ程の年だとも思つてはゐないが、まあま、向ふで勉强して來なければならないやうになつたから行つて來るまでだ。なるだけ早くきりあげて歸つて來るよ。休暇毎にだつて、きつと急いて歸つて來るとも』

と、言つたのであつた。

日は經つていつた。あれからの五年間は二人には相當に長かつたのである。二人は、兎も角も、お互の豫期以上に變つてしまつたのであつた。

あの久子がきちがひになつたとは、……と、今更らのやうに長かつたあれからの日を彼は憶ひ出さねばならぬことになつたのであつた。

ぢり、ぢり、ぢりぢりりりり……と、耳もとで、不意に電鈴が鳴り初めた。ぱた〳〵と、急いで來るスリッパの音が聞えた。はつと目をひらいて、同時にやれやれと思つた瞬間彼の目の先きには、口髭の濃い若い醫者と、その助手をしてゐる女の顏とが、重なりあふやうに急ぎ乍ら、コオドや金具を外してくれてゐたのであつた。

『やあ、どうでした』と、醫者はにつこりした。『今日は少し長くかけてみましたが、じつとしてゐるのには少々蒸し暑かつたでせう』

『いや、どうも』と、清三は額の汗を無雜作に拭いた。『いゝ氣持で、ついうと〳〵とね入つてしまつてゐました。

ほつほ、と、助手の女が愛相笑ひをした。清三は寢臺を下りた。

『初めはどうも膿んでしまふかと思ひましたが、この具合ぢや、だん〳〵うまく吸收してゆくやうです。だん〳〵小さくなつてゆくやうですな』

『いや、どうも、いろ〳〵ありがたうございました』と、清三は再び額の汗を拭いた。

2

アスファルトがそは〳〵した雜音をたてた。街路樹が蒼く伸びて、絹洋傘や麥稈帽子が派手にひら〳〵してゐた。日向が白々しく冴えて街路は充分暑かつた。洋傘とすれちがひざま、白くはいた襟脚ににじんだ慘めな汗をみたりするのは助

からなかつた。タクシイもこの季節には嫌味で暑苦しかつた。頭は先刻から重かつたのである。

あれからの後の話を、兎も角も、訊いてみなければならない氣がしたので、清三はレントゲン療養所を出た足で、そのまゝ電車にも乘らないで、十二間道路の塵りつぽいざはつきの中を、急がない氣持で叔母の家へと歩いた。

あんなに言つて別れてをき乍ら、あれから五年間も全るであはうとしなかつたのが、第一にわるい、何や彼やにとり紛らはされたとは言へ、自分が第一に彼女程の熱を有つてゐなかつたからだと、彼には今更らゝしい反省が促される氣持がしてゐた。その底の深いところを割つてみると、實言へば、或る意味で少々ではない後悔もされるのであつたが、二人の間は今までのなり來たりからかなりざつくばらんだつたとは言へ、當時はあんなにまで言葉のはしにまでそれとなく娘らしい注意をしてゐた彼女が、今はわざとらしい大阪辯まる出しで、全るで不貞腐れて、父の永眠の日に叔母と喧嘩をしたなんかと聞くと、どうも、今更ら彼女にあつてみたいといふ氣が起らぬどころか、ようもまあ、そんな女と眞面目に結婚してゐなくてよかつたと、長びいた借金をごく親しい友人が氣前よく拂つてくれた時のやうな氣持にもなるのであつた。叔母の口吻では、彼と久子とが夜店の翌日別れたその年の夏、彼が友人達に誘はれたりなんかして信州の方へ夏の長い休暇中を遊びに出かけて歸鄉の約束を果さなかつた時、彼女は彼から彼女にやつた手紙の數通を叔母に見せて、彼の冷淡と違約とを酷く嘆いたさうである。そして、冬や春の休暇は短いのと學校の方に少々驗べたいものがあつたりしてそのまゝ東京に停まり、その二度目の夏にも、學校の講習會等であちこち歩き、二三日は實家へ歸つたのではあつたが、つい行き違つてまたも彼女にあへなかつた時、彼女は清三さんは自分を瞞したのだと、やつぱり叔母を捕まへて嘆いて、果てはヒステリカルに聲をあげて泣いたのださうである。その年の秋には彼女の母が長病ひもせずに死んで、彼女は仕事もなくてぶら〳〵してゐた父と二人きりになつてしまつた。叔母の話では、その母の死ぬ少し前頃から、久子はすでに少々變なことを言つたりしたりするやうになつてゐたんださうである。失戀なんだと、滿更ら冗談からばかりではないらしく叔母から言はれた時、少々胸にこたへるところがある感じがしたのを、彼は今もまざ〳〵と憶ひ出すのである。自分がわるかつたんだと、彼女の肩をでも優しくたゝいて、彼女の激昂を自分が兎も角も沈めてやるのが、極く常識的な人情だと、彼は思つた。が、彼は不幸にして自分をそこまでの善人にすることが能きないので、せめて、彼女の樣子を話し好きの伯母から委しく訊いて、同情能きるところまで同情させてもらつて、それきり、永久に彼女の記憶からは自由になりたいと希つてゐたのである。男とは普通がかうしたものなんだといふやけな自嘲で、彼はさすがに人一倍の冷たい汗をかいてゐた。夏は彼には暑かつたのである。

が、全るで一人ぼつちの女だといふ點で、さすがに彼は彼女を可哀さうに思はないではゐられなかつた。誰か叮嚀にその面倒を見てやる者はないかなあと、氣持は嘘ではなしに苛々しくなつて來るのであつた。

久子はもと〳〵貰はれた子であつた。清三とは血の繋つて

ゐる叔母が縁づいた内村家の三人兄弟は、三人ともすでに一家をたてゝゐて、その二男が叔母の夫である某製薬會社の課長級の男、三男はつい二三年前に結婚して相當手廣く酒醬油米等を商つてゐた。久子はその長男である伯父夫婦に乳母車のうちから貰はれて、彼女が女學校の三年級位になるまでの間は、贅澤に一人娘の愛撫をうけて來たのであつた。それが事業の失敗、母の死、それから今度は父の死、それにつけ加へて言ふなら彼女自身の夢のやうな失戀、かうしたものが、この數年間に彼女をきちがひにしたと言へばしてしまつたのであつた。

清三が極く最近に聞いた久子の噂といふのは、一週間ばかり前に、丁度折もをり、彼が久しぶりに訪ねて行つた日の叔母が、今丁度久子にあきれて一寸逃げて來たといふ、あの久子の父の死んだ日のそれであつた。彼は勿論叔母の豫期以上に吃驚してしまつた。少々變だといふ噂はどこからともなく耳にしてはゐたが、まさかそんなにまでとは思はなかつたので、叔母の不用意な一句一句が冷たい針となつて、鋭く胸に突つさゝつてしまつたのであつた。

叔母は今年生れた四人目の子供に乳をふくませ乍ら、風通しもない縁側で婦人雜誌を繰つてゐた。

『どうしてたの。あれからいろ〳〵の話があつたのに』と、彼女は雜誌を棄てた。

清三はその前へあぐらをかいて紙包みを解いた。

『これは甘納豆、鶉豆の甘納豆、珍らしいと思つたから買つて來た』と、少々氣まりの惡い思ひをし乍ら、彼は叔母をみないで言つた。

『のんきな人ね、あなたは』と、叔母は笑つた目付きでじつと彼を正面から瞶めた『それよか、久ちやんは昨日とう〳〵癲狂院へ入つたぢやないの』

『へえゝ、やつぱりそんなことだつたか』と、彼は赤ん坊に顏で相手になり乍ら、輕くない驚きを平氣らしくかくした。

『もつと早う來て、せめて一目位はあつてあげりやよかつたのに。なんと言つても可哀さうよ』

『いやあ、もう、それだけ聞けば僕には充分。僕も少々自分の用で急がしくつてね』

冷淡にひゞくなら、勝手にひゞけといふ腹であつた。

『久ちやんよりは、癩癘の方があなたには大事なのね』

『まあ、今のところではね』

どんなもんだいといふ腹だつた。

『二つや三つの癩癘にびく〳〵もんで、言はれた通りきつちり五日目毎にレントゲンをかける人が、……』

『いやあ、さう癩癘々々と言つてもらつては困るな。レントゲンできちがひがなほるならね』

『ふゝ。惡い酒落だ。これでまあこの人は平氣なんか知らあなたがそんなこと言つてるひまに、あの人はマッチの箱を貼つてるかも知れないのに』

『へえゝ、氣のふれたものにそんなことまでさせるのかなあ』と、彼は大きな釘を胸にどきりと受けた。

『わたしも聞いて吃驚したけれど、そんなことを事實させるのだつてさ。そして、ね、いゝものを食べさせたり滿腹させたりすると、一さう昂奮するので、なるだけ粗末なものをちつとばかりしか食べさせないんだつて』

『いやあ、そいつは下品な趣味だな』と、彼は第二の釘を受けて思はずたぢ〳〵となつた。

『さういへばあの葬式のすんだ晩ね、人が近所から來てくれたので少々御馳走をしたのよ。その夜中、久ちやんはまともに目も當てられない程昂奮して亂暴したわ』

『なさけないな』と、彼は言つてしまつた。

『やつぱり可哀さうだわ』と、叔母はさすがにしんみりした口調だつた。

『ちやあ、叔母さん、面倒を見てくれたらどう?』と、彼は叔母の顏をみた。

『いゝえ、それは能きないわ』と、叔母はむきになつた。『わたしもあんまり好きぢやないし、第一良人がそりや久ちやんが嫌ひだし、小さい子供がこの通りよ』

廿納豆はすでに子供達に占領されて跡かたもなかつた。

『それで、あの人は滿足してはいつたのかなあ』と、とぼけて當つてみた。

『えゝ、そりや、まあま、滿足なんでせうよ。それが隨分面白いのよ』と、叔母は話さない前から笑つた。『初め、良人と下田さんとの二人で久ちやんを連れてく時、いゝ病院で診てもらはうと言つたら、大變はしやいで、うんとおめかしゝ、わりに溫なしくして行つてくれたのでやれ〳〵と思つたんですつて。ところが向ふへ着いて、院長に面會した時、こゝはどこか知つてゐますかと問はれた時、はつきり××癲狂院ですつて答へたのですつて。それで、こりや似而非狂人だと言つて突き返されはしないかと二人が冷汗をかいたんですつて。ところが、誰と一緒にこゝへ來ましたかと聞かれた時お父うさんと來ましたと平氣で答へたんですつて。それからいゝ指輪を指してゐますな、一寸見せて下さいと言はれて、あなたは奇麗な人や、これをあなたにあげますと言つて、自分で指輪を拔いて渡したんですつて、癲狂院ぢや、どこでも一切合切のものは患者の手からとりあげとくんですつてね。で、おかしい話だけれど、久ちやんはその院長が大變氣に入つたので、にこ〳〵もので入院したんですつて。ところが、幸か不幸かその院長が大變な美男子なんですつて。……』

これこそは、清三には鋭い剃刀であつた。彼女の狂氣の第一の素因は失戀であつた!

『氣がふれると、ことがいろいろ面倒になるんだなあ』と、彼は今は異樣な心の昂りにかたくなり乍ら、團扇をばた〳〵と空に動かした。

3

ざあつと一思ひの夕立でも來てくれゝばいゝがと思はれる蒸し暑さだつた。今郊外電車から下りた人々の流れをやうやう橫切つて、格好だけは急いで、彼は輕るがると足早やに階段を登つていつた。きりつめた石疊みの狹い階段で、上から下りて來る人々とは危うく途中でぶつかりさうになるのだつた。食堂は三階のとつかゝりにあつた。

未だもう一軒是非夕暮までに廻り道しなければならないんだと、能きるだけ早く切りあげて叔母の家をやう〳〵逃げ出して來た清三ではあつたが、このまゝ直ぐ二十五分を搖れの激しい滿員電車で郊外の家へ歸らうといふには氣分が妙にそぐはなく、さて、さうかといつて、白い食卓で他人の顏をま

前に置いて、フォオクで米飯を食べるにしては未だ時間が少々早やかつた。が、結局、どこかで氣樂な氣分で少時涼しいめをしたいと思つたので、つい、驅けあがつてしまつたのであつた。

よくある郊外電車の會社のやつてゐる安直な食堂の一つでその食卓の簡單な花物を投げ込んだグラスのそばには、屹度郊外電車のマアクを印刷した幅廣い妻楊子がさしてあるといふ類の食卓であつた。

彼は早速近づいて來た白いエプロンの娘に、さあ、と考へる風をし乍ら、さて、別になにを考へたともなく、口から出まかせにビイフを三枚注文した。そして、それらが早速運ばれて來ると、失敗つた、こんなものを今は食べたくはなかつたのにと、クリイムソオダをあらためてとつた。

卓布はまつ白で、未だアイロンのかたのありさうなのも氣持わるくはなかつた。グラスには白い百合が一輪丁度向ふを向いて挿さつてゐたが、そのそばには、案の定ひらたい妻楊子が奇麗にさゝつてゐて、早くて乘心地のよい××電車と、六號の大きさで、手際のよい廣告がしてあつた。彼はそれで先づ甘納豆を叩んだ入歯のそばから突つゝき出してから、ソオダを吸うた。そして、あまり食べたくもないものを丁度いゝ幸ひにぼつ〳〵口にし乍ら、少時の時間をこゝで消してゆかうといふ心算なのであつた。窓は全部街の方へ開かれてゐたし、ついそばではせんぷうきがくる〳〵してゐたのである。

彼はすでに聞きたくない以上のことを今日は叔母から聞いて來た。不幸な伯父の葬式もまあまあ濟み、久子も兎も角も落ち着くところへ落ち着いたのだといふことを知つた以上は、一通りの安心はしてもいゝのであつた。まあまあと、無事に丸木橋を渡り終つた氣持だつた。が、久子がその父の葬式の日に、その式場で、その邊の太い柱にすがりついて來葬者に向いてきよと〳〵してみせたことや、母が死んでから父が病床に倒れるまでの二三年間、炊事はもとより彼女の肌着の洗濯までを父にさせてゐたといふこと、父が男子の無奇用さで數日かゝつて縫つてやつた蒲團を、彼女が父の一寸した外出中にばら〳〵に解いてしまつたこと、その他の色んな狂態はまあま兎も角もとして、彼がすつかり平氣になつてしまへないのは、彼女がこの二三年天候さへ惡くなければ殆んどの日を夜になると、あまり奇麗でもない着物をだらりと着て、帶も充分結ばないとり亂した姿で、例の新道の明るい街路を、行つたり來たり來たり行つたりしてゐたといふことゝ、彼女が一度××橋から自殺を計つて果さなかつたといふことゝであつた。

そこがやつぱり違ふところよと、叔母が笑つて話すところでは、久子はその日は不意に朝から居なくなつて、彼女の父が心配してさがしくたびれたところへ、夕食時分にひよつこり戻つて來て、今日は××橋まで死にゝ行つたんだと言つたのださうである。で、驚いてよく訊いてみると、この藥を今朝藥屋で買うて、このお茶碗で××橋の上で飮んで來たといふのである。見ると、手には彼女のいつも使つてゐる茶碗と何やら透明な液の一寸殘つてゐる小さい藥瓶とを持つてゐるのださうである。で、驚いて、藥に委しい叔母の夫である弟のところへ驅けつけ、その殘つた液を驗べてもらつたら、なんの、ありふれた目藥だつたといふのである。

『お茶碗をわざ〳〵下げてゆくところや、人通りの多い××橋の上で飲むところなどはねえ』と、叔母は笑つたのである『それに、目藥で死なうなんて、可愛らしいことね』

だが、清三はこればかりは叔母と一緒に笑つてしまふことは能きない氣がしたのである。どうも、いよ〳〵彼女の狂氣の素因は自分が作つたのであるとしか思へなくなつて來たのである。その父や母の死は、彼女には單につけたりの不幸であつたに過ぎなくて、ほんとうの斷定的な不幸は、その夢のやうな失戀だつたのだと、今は嫌やでもさう考へなければならないのであつた。

當りがわるかつたとみえて、このビイフは少々かたいやうだと彼は思つた。奇麗な青碗豆だけを、單念に一個々々フオオクですくつて口へ運んだ。

さて、フオオクを置いて、彼はぼんやりと向ふをみた。一通り見わたしたところでは、誰も彼もが滿足して銘々の食卓に就いてゐるらしかつた。ゆつくり落ち着いて、このひとゝきを充分樂しんでゐる樣子であつた。

文字通り皿までぱくつきさうな格好で、うらやましい程おいしさうに、懸命にフオオクを口へ運んでゐる健啖家が彼のついそばの食卓にゐた。その一つ隣りでは、高等學校の學生らしいのが三人、わざとらしく浴衣の肘をついたりして、二三枚をすでに片づけてゐた。向ふに奇用な手付きで林檎をむいてゐる若い女の前に掛けてゐるのは、どうも中學時代の同級生だつたやうに清三には思はれた。が、どこかさうでないらしいところも見えるとも思へるのであつた。二人が夫婦だとすれば、人ごと乍らも似合ひの夫婦だとも安心された氣分になるのだつた。二人の洋服男は黄色いソオダ水を一口吸つたゞけで、八分目位までを殘して、いかにも涼しい顏で出て行つた。あれも一つの趣味かなと、清三は輕い氣持になつた

突然、彼の直ぐ前の食卓へ二冊の本を置いて掛けた男があつた。その二冊の本は一冊が周圍が朱色、一冊が金色だつたので、聖書と讃美歌だとすぐ清三にもわかつた。ひよつとしたら氣障な男かも知れないと、彼はこの男にそれとなく目をつけた。帽子をぬいだ頭は相當長い髮だつた。彼の前にをかれたのはアイスクリイムの小皿が一枚だつた。用をすませると、この基督者はそのまゝ直ぐ出て行つてしまつた。袴をはいた脊の高い男だつた。呆氣ない氣がした。

人々が入り變り立ち變つた。

かうしてこゝから見てゐれば、皆が樂しさうで平和だがと清三は考へるともなくふと考へた。だが、これらの銘々がお互の生活の內側を覗ひ合ふよしもなく、結局、みんなの生活は一人々々のものなのだと考へることはかなり淋しかつた。食卓を一つ超えた向ふの人生ということが、ふと考へられた銘々は食卓を一つ超えたところに向い合つてゐるばかりに、相手の運命が明朝はどうならうということもわからないのだとも考へられるのであつた。

自分だつて、久子を積極的に嫌つてゐたのでは決してなかつた。むしろ、愛してゐたのだ、確に愛してゐたのだ、それに、唯彼女とは食卓を間にをいてゐたばかりに、彼女の明日がわからないで、あゝしたことにもなつてしまつたのだ、人間はみんなが皆まで、食卓を一つ隔てたこちらから、相手をぼんやり見てゐるに過ぎないのだ、とも思へて來るのであつ

た。が、結局、縁とでも言ふべきものがなかつたばかりに、今は、昔の愛人も、自分の瘭癒一つよりも氣にかゝらないものになつてしまつたかたちだつた。彼はだん〳〵小さくなつてゆくやうな氣がする腫れ物を、輕るくなつて來た氣持で指先でなでた。

うしろ姿の可愛いゝ女だつたがと、ふと思つた。お下げにいつた無邪氣な久子がぼんやりと彼の目に見えた氣がした。よく見ると、癲狂院のうす暗い一室で、院長の顏かなにかをおもひ出し乍ら、せつせとマツチ箱を貼つてゐる彼女だつた氣がつくと、清三は不覺にも目頭に涙をためてゐたのである。

黃楊の木のはなの眞白さうとうとと

坂を登れば植木屋の籬に



興洞寺

清水

草にあふれ崖おちてゆく清水哉　琊玕
石古く松の根に湧く清水哉　雲桂
あるは風に落る毛虫や苔清水　星國
石の上のしやく新しき清水哉　榮辻
庭清水葉櫻の下掃きゐたり　信三
松風の笠あほち吹く清水かな　樂鳥
岨おりて熊笹繁き清水かな　月雨
洞ろ木を木鼠走る清水かな　六衣
岩さけてある清水かな草苺　操秋
ハンカチを石に乾かす清水哉　朧月
草にゐる蟹や清水の湧く處　九十九

俳壇

溪舟選

夏楓明るき庭の清水かな　卓爾
一瓢に且つ滿したる清水哉　宗斤
洞を出でゝ夏雲うつる清水哉　萬花主
磴おりて松の香深し苔清水　半仙
峰の雪の溶けしと思ふ清水かな　景川
蕗の葉におつる日影や苔清水　穗々火
石走る蟹もゐて岩の窪清水　露草
百合の花の清水にうつる岩間哉　雲桂
先登の草分けしあとや清水澄む　月雨
生えさがる松の根にわく清水哉　榮辻

鮓

鮓皿や笹のぬれ葉も潔よく　卓爾
一夜鮓ふとさめて月夜烏きく　風虎
鮓おし終りて曝書收めけり　勇雄
鮓の石にあける簾越の日影哉　樂鳥
洗ひあげて鮓桶きよし石の上　半仙
鮓なれかしと思ふ晝ねの寢覺哉　景川
厨吹きぬく青田風鮓つける　穗々火
鮓桶を洗ふ小川や合歡花　宗斤
鮓桶を水に沈むる重石哉　萬花主
鮓つけて早や午下り葉櫻の風　蓑綠
宿の鮓一と村雨の竹に來る　露草
鮓なるゝ間を廻廊の彫りを見る　雲桂
鮓の鮓滿見ゐる妓に分ちけり　月雨
草の戸の松風の音や鮓の味　榮辻
鮓なるゝ頃や碧桐の上の雲　信三
鮓つけてまた筆耕にかゝりけり　樂鳥
鮓の主蓮池の蚊をにくみけり　月雨
鮓の味秘事ある如く云ひにけり　六衣
筏師の宿の鮎鮓なれにけり　操秋
鮓桶に書く初秋の一句哉　朧月
藤の棚に暗き厨や鮓なるゝ　萬花主
川戻り鮓つけて一と睡り哉　蓑綠
鮓つけてはやも暮れたり草の月　露草
鮓の石とれば鳴るなり三井の鐘　雲桂
ひる寢吹くこの風親し鮎のすし　月雨
鮎すしや簾へだてゝ座敷客　榮辻

次號課題

『蓮』『暑』各五句迄

締切　八月十八日

屆先　北區堂ビル三階日本建築協會

『蓮』と『夏』

溪舟

◎次號の募集句の課題は『蓮』と『暑』とである。

◎私は今日(七月二十三日)凡々子と伴れ立つて京都へ繪を見に出かけた。

◎天滿橋から急行にのつて、三條へ向ふ。牧方をすぎてやゝ暫くすると、今まで居睡つてゐた筈の凡々子が、私の肩をたゝいて、おいおいといふ何んだといふと、窓の外を見て。佳い香がするね蓮だ、蓮だ、一ぱい蓮が咲いてゐるよといふ。

◎見ると、もう淀をすぎて、巨椋の池にきてゐる——風折々、葉裏をひるがへしてゐる蓮、降るやうな日の光の下に、紅い掌をひらいてゐる蓮。

◎風の蓮、日の蓮——蓮の葉 絕え間には、菱が一ぱい蔓つてゐる。

◎蓮の頃になると、私はよく清方のあの繪のことを憶ひ出す。曾て十年ほど前、文展に出て推奬されたあの繪のことである『村雨』?不忍池畔の雨に、人妻であるところの中年の美人が、ひるがへる袋を氣にしながら、蛇の目を半分ひらいて、こごみがちに風に逆つてゆく。池の蓮の葉は、みな白絲の葉裏を見せてゐる。

◎清方の製作心境が、一轉機をもたらしたのは全くあの頃からのことである。彼は、あの時分から、明らかに同門の輩方を壓して、妖艶無比の畵名を擅まゝにしたものである。

◎あの繪を見ると、德川の初葉に發して中葉に興り、末葉にいたつて終に亡んでしまつたところの浮世繪のもついろ〳〵の作家の魂をつかんできて、渾成したものゝやうに思へるやうだ。

◎あの畵を見ると、一たいの趣致は、何うしても奉信であり、そして耽靡も、清長もとり入れてある。廣重、北齋の氣持さへももつてきてゐることを否むことはできない。

◎ある人が、ある時、清方に向つて問うた『あなたは、女としては何んなカタの女を一とう憧憬します』清方直ちに答へていふ『私はお妾ケ』——と

◎清方が『お妾ケ』型の女が好きだといふ。なる程、なる程、さう云へばあの人の繪をみると、そこに驕然たるものがある。清方の繪の女は、どんな女であつても唯の女ではない。奥樣でも、娘でも、たとへば天女でも——

◎清方があゝいふ繪をかくことは、江戸浮世繪の傳統たる大蘇芳年の後を闊いだ水野年方を享けた彼として、決して不思議はないのである。また條野採菊と、その愛妾との仲に生れた彼として『お妾ケ』型を好むのも因緣あることかも知れない

◎けれども、清方は今の畵壇人が多く放縱にして、操行の如何しい中にあつて、稀にみる謹直孤清の君子人であることは、頗る奇趣あるものと見なければならぬ。

◎三條についてから、暑い中を富の小路の墨光堂にゆく。日本座敷の幾室かに、翠簾をかけ、扇風機をおき、階廊繞廻、泉石に水打ち、竹樹に清趣あらしめて、各室に鐵齋、獨山、栖鳳、關雪、印象。春擧、五雲ら京洛大家の書畵を展觀す。

◎一時間ばかりにして、墨光堂を辭す。

◎また炎陽の街を歩して、寺町三條の菓子舖かぎ屋にゆき、クリムソヲダをのんで、ホツト息をついた。もうそろ〳〵正午、今度はかぎやの前の停留場から電車にのつて、木屋町(?)でのりかへて蹴上げにおりる。

◎疏水の橋をわたつて、青松一路、水の音をきゝながら南禪寺に向ふ。門を入らうとすると、侍士烏帽子に獨衣の輕裝、素足に草履、腰に太刀を佩いた鎌倉武士が一團になりてぞろ〳〵出てくるオヤと思ふと、活動役者のロケエション。

◎凡々子にすゝめられて、境内をぬけて駒ケ瀧にいつてみることにする。私は羽織をいぬで尻端折、帽子と下駄を手にもつて跣足になる。跣足あるきは、私の得意の一つ。

◎煉瓦で塀のやうな堰をこしらへて、その堰の中を矢のやうに水が奔つてゆく、それを左にし、右に小溪に沿ひながら爪先上りになつてゆく。日影ろいて杉雜木の下涼しく、ちよつとの間、汗かはく心地する。

◎登るわづかに二丁ばかり、路きはまる處に茶店があつて、更に石段を登つた所に、山の腹に洞窟あり、洞窟に近く瀧がある。

◎樹木鬱々、水聲潺湲、よく今頃は老鶯が鳴いたものだがなアと凡々子が云ふ。

◎下向——また日の中を、てく〳〵と歩きも歩いて三條大橋東詰南に入つた美濃吉に入る。普請中でやゝ殺風景。

◎ひかい、鮎、ふなの洗ひ、鯉こく、鰻、川魚料理で空腹をみたす。時に驟雨颯然として殺到、焦熱やや一掃、裸ツ子がざんぶざんぶと疏水に飛こんで泳ぐのを眺める。

◎この日、暮前歸阪、句を見て後、一日の清遊を回想『蓮』と『暑』を課題しておく。

主要建築材料値段

◎**耐火リノリウム**　市内施工
大阪耐火リノリーウム會社
チョコレート色　四分仕上坪　円　八、五〇〇
褐　色同　同　八、五〇〇
赤　色同　同　九、〇〇〇
青　色同　同　三、〇〇〇
マグネシアセメント市内倉庫渡し　九五、〇〇〇
ドロマイトプラスター　同　八、〇〇〇
一號品　一タル四切半　七、〇〇〇
三號品　同　一、二一〇
ストロプロック（模造天然石）市中工事　八五
寒水石大理石類　尺坪　一、二一〇
花崗石類　同　一、二一〇
防水煉ポースイ　一、五〇
三封度入　三、三五〇
五封度入　三、七〇
四〇封度入

◎**リノリユーム**　英國チーアン製
奥村重兵衛商店
巾六呎　長九〇呎（十五坪巻）　四、二〇〇
X　一、九ミリ　一坪ニ付　七、八〇〇
E　二、二同　同　八、六五〇
B　三、〇同　同　三、四〇〇

◎**ウオールボード**　英國ゼームス純製
一坪　四、二〇〇
寸法　巾三呎　巾四呎
長六呎　長九呎　長八呎

◎**メタルラス**（和製）
市内施工
廿六番　巾二呎長六呎　一枚　〇、四八〇
廿四番　巾六呎長六呎　同　〇、五五〇
廿　番　巾三呎六六呎　同　三、〇〇〇
十八番　巾三呎長六呎　同　三、八〇〇
十三番　巾五呎長六呎　同　四、八〇〇

◎**壁　紙**
英國製　巾一尺七寸　長三十六尺（張上約一坪五合）
一　巻　一、〇〇〇以上各種
米國製　巾一尺五寸　長五十三尺（張上約二坪）
一　巻　一、二〇〇以上各種
張手間　一坪　一圓四十錢以上

◎**金屬天井**
材料　蛇腹　逃板付　一坪　二、〇〇以上
同　同　逃板ナシ　同　一、〇〇同
張工賃　同　二、〇〇同

◎**日の出印便利瓦**
日本建築紙工　大阪出張所
半號　巾三尺二寸　附屬品及　長七十二尺　ペイント添　四、二〇〇
一號　一巻　同　同　七、五〇〇
二號　一巻　同　同　三、五〇〇
三號　一巻　同　同　三、五〇〇

◎**鶴印便利瓦**
半號　一巻　巾三尺二寸　附屬品及　長七十二尺　ペイント添　三、五〇〇
一號　同　同　同　五、五〇〇
二號　同　同　同　八、五〇〇
三號　同　同　同　三、四〇〇

◎**日の出印便利瓦**
半號　一巻　巾三尺二寸　附屬品及　長七十二尺　ペイント添　三、四〇〇
一號　一巻　同　同　七、五〇〇
二號　一巻　同　同　三、五〇〇
三號　一巻　同　同　三、五〇〇

◎**日の出印砂付便利瓦**
半號　一巻　巾三尺二寸　附屬品及　長七十二尺　ペイント添　二、六〇〇
一號　同　同　同　九、〇〇〇
二號　同　同　同　三、〇〇〇
三號　同　同　同　三、〇〇〇

◎**日の出印建築用紙**　ピルヂング　ペーパー
一號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　三、〇〇〇
二號　同　同　同　四、二〇〇
三號　同　同　同　五、三〇〇

◎**日の出印パーマネントルーフ井ング**
一號　巾三尺長三十六尺　三十六坪平方尺　一七、〇〇〇
二號以下一巻トス

◎**日の出印衛生疊下用紙**
一號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　三、〇〇〇
二號　同　同　同　四、四〇〇

◎**日の出印瀝靑**（モスパービール）
一號　一枚　巾二尺八寸　長三尺二寸　一、二五〇
二號　一枚　同　同　一、〇〇〇
三號　同　同　同　五五〇

◎**スレート**
淺野スレート販賣株式會社
一號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　三、一〇〇
二號　同　同　同　四、二〇〇
三號　同　同　同　五、五〇〇

◎**淺野波形板**
長六尺　巾二尺二寸　一枚　三、三〇〇
長七尺　巾二尺二寸　同　三、八〇〇
附屬亞鉛木捻釘一本　一、〇五五
長六尺　巾三尺厚一分五ノ一枚　二、八〇〇
長六尺　巾三尺厚二分一枚　三、三〇〇
附屬銅鋲　一本ニ付　〇、〇六
同亞鉛寸釘　同　六毛
同　銅釘　同　一、〇〇

◎**石綿スレート**
石綿スレート株式會社大阪支店
淺野スレート販賣株式會社
金剛商會
野澤幸三郎商店

天白色	十六吋	角	一枚	〇、二一〇
淡黒色	十二吋	同	同	〇、一七〇
	八吋	同	同	〇、〇九五
灰黒色	十六吋	同	同	〇、二一〇
	十二吋	同	同	〇、一七〇
	八吋	同	同	〇、〇九五
菫　色	十六吋	同	同	〇、二二五
	十二吋	同	同	〇、一八五
	八吋	同	同	〇、〇九九
赤　色	十六吋	同	同	〇、二三〇
	十二吋	同	同	〇、一八二
	八吋	同	同	〇、〇九三
綠　色	十六吋	同	同	〇、二三〇
	十二吋	同	同	〇、一八二
	八吋	同	同	〇、〇九三

◎**葺上標準値段**
（一號アスファルトフエルト下葺）
（銅鋲、亞鉛鍍鐵釘使用手間賃共）
◎菱形葺（網目葺）　十六吋角使用

重ね	灰白	淡黒	黒	菫	赤	綠
二吋半	七、〇〇	七、五八	七、七三	八、一六	九、六一	

◉同　上　十二吋角使用

二吋半　八、五五　八、九〇　九、〇五　九、五七　一二、二四

◎一文字葺（十六吋角二ッ切使用）

色　合　葺足五寸五分葺足五寸

灰白、淡黒色　一〇、六〇　一一、七〇

灰　黒　色　一一、五八　一二、八〇

薫　色　一二、八三　一三、〇八

赤　色　一三、五七　一三、九〇

綠　色　一四、五五　一六、五五

◎石綿盤葺上標準値段

（一面坪單價）

野澤幸三郎商店

網目葺（菱形）ノエルト一號品敷込材料問債共

色合　十六吋　十二吋　八吋

寸法　角重三　角重二　角重二

吋半二吋　吋　吋半二吋

灰白色　六、九〇　七、四〇　八、六〇　九、三〇　九、八〇

淡黒色　七、三〇　八、〇〇　九、三〇　一〇、〇〇　一〇、五〇

黒　色　七、五〇　八、一一　九、五〇　一〇、三〇　一〇、七〇

薫　色　八、一〇　八、八〇　一〇、〇〇　一〇、八〇　一一、三〇

赤　色　八、七〇　九、四〇　一〇、八〇　一一、六〇　一二、一〇

綠　色　九、二〇　一〇、三〇　一一、五〇　一二、七〇　一四、一〇

◎ロッコー瓦葺上標準値段

（阪神間ニテ）

平瓦各號共一尺一寸角葺足九寸

一坪約四十三枚葺、軒先及螺羽棟伏等道具瓦完備

灰白色、黒色、薫色、赤色共フエルト敷込

一面坪ニツキ　八、五〇

棟　熨斗二段半圓形伏　一間　三、七〇

同　同　箱歷振伏　同　同　五、八〇

熨斗一段積　同　七、五〇

綠色ハ三割高

◎亞鉛引平鐵板

月　星　印30（米一）　一、二四　圓

タヒ　印30（米一）　一、二四　品切

犬　印30（米一）　一、二二

三　星　印30（米一）　一、二三

太陽　印30（米一）　一、二三　品切

エビ　印30（米二）　一、二九　品切

船　印30（米二）　一、二九

月星錨　印30（米二）　一、二三

山　星　印30（米二）　一、二〇

五寸切レ（米板）　一、二四

蝶　印30（英一）　一、二四　品切

ラクダ　印30（英一）　一、二九

地　球　印30（英一）　一、二九　品切

赤丸一　印30（英一）　一、二九　品切

桃　印30（英二）　一、二七

首　印30（英二）　一、二七

◎同浪板

同　店

#28　一級品　一、九八

#26　一級品　一、二五

#24　一級品　百斤ニ付　一、三〇

#22　一級品　一、四〇

#30　六尺　各番錢上リ　一、二二

#30　七尺　一、一七

#30　八尺　一、一二

#28　六尺　一、一〇

#28　七尺　一、一七

#28　八尺　一、二五

#24　各尺　一、七〇

#26　百斤ニ付　一、六五

◎鋼瓦板

巾一尺　長一尺二寸

井筒政藏商店（大阪）

名　稱　一枚目付　薄增値　單價　百斤ニ付

自拾二代　一二〇匁　建値　壹、〇〇

至八代　八〇匁

七代　七〇匁　二、〇〇

六代　六〇匁　四、〇〇

五代　五〇匁　八、一〇

四代　四〇匁　六、〇〇

三代　三〇匁　三、七〇

二代　二〇匁　四、〇〇

◎銅瓦板

吉田定七商店

定尺巾一尺長一尺二寸（一枚目付）

和百斤ニ付）

一二〇代增値　一二〇匁建　壹、〇〇

八代增値　八〇匁値

七代　二、〇〇　七〇匁　壹、〇〇

六代　四、〇〇　六〇匁　七、〇〇

五代　八、〇〇　五〇匁　八、〇〇

三代　三〇、〇〇　三〇匁　一〇、〇〇

◎パイプ

金剛商會大阪支店

内　經　厚　長　價格

二吋　四分ノ一吋　六呎　一、〇〇〇

二時半　同　同　一、一七〇

三吋　同　十六分ノ五吋　同　二、〇〇〇

三吋半　同　八分ノ三吋　同　二、五〇〇

四吋　同　同　三、五〇〇

五吋　同　同　四、五〇〇

六吋　同　二分ノ一吋　同　七、〇〇〇

◎金剛板　巾三尺　長六尺　一枚ニ付

呼サ　重　量　圓

二分　五貫ニ九　三、六〇〇

三分　七貫五〇〇　五、四〇〇

四分　一〇貫五〇〇　七、五〇〇

五分　一二貫七五〇　九、七五〇

六分　一五貫〇〇　一二、二五〇

◎塗　料

大東塗料株式會社

大阪營業所

品　名　容　量　定　價

グラフアイト　五〇ポンド入　二四、〇〇〇

ペイント各色

セクロン　五〇ポンド入　七、〇〇〇

乙種黒色　同　一四、〇〇〇

特製黒色　同　二二、〇〇〇

ネヅミ色　同　三二、〇〇〇

銅及赤色　同　三五、〇〇〇

木管用黒色　同　五〇、〇〇〇

不二水性ペイント　五〇ポンド入　二一、〇〇〇

各色共

大阪及東京渡値段

田中源太郎商店

性　質　品　名　種　類　容　器　單　價

水性、壁、塗料　アラバスチン　白　五封度入　三、三〇

同　同　同　各色　三、八〇

同　同（櫈入）　白　三ヵ〇封度入　格安

同　同（櫈入）　白　一〇〇封度入　格安

シミ止　アラバスチンコーター　一、二〇

パテ材料　アラバスチンパテ　小瓶入　一、二〇

型紙　小袋入　一、〇六

アラバスチンステンシル　四ヨリ　一五迄

性　質　品　名　種　類　容　器　單　價

艶消ペンキ　赤三角又ハ紅葉印サテン艶消ペンキ　各色　一ガロン入　一五、〇〇

同　同　八分ノ一ガロン入　二、四〇

ジンクペンワンダー用ホワイト　外部用白

同	一ガロン入	紅葉印コーパルバニシ	一〇、八〇
同	一ガロン入	艶消白	六、三〇
同	一ガロン入	ワンダーホワイト	一〇、八〇
同	同	同	二分ノ一ガロン入 五、七五
同	一ガロン入	エナメル代用 ワンダーホワイト	エナメル白 二、一〇
同	同	同	二分ノ一ガロン入 五、八五
自動車塗料	八分ノ一ガロン入	オートフィニシュ	各色 三、三〇
コンクリート塗料	五ガロン入	コンクレライト	各色 四九、八〇
性質	品名	ルーカスルーフセメント	黒色 単価 四、五〇
汽車屋根塗料	容器	一ガロン入	

シエツドウオーターブロダクト

會社製品			
性質	品名	種類	
リノリユーム	ホワイトリノリ		
防水塗料	ユームパニシュ		
容器	單價		
四分ノ一ガロン入	三、八五		

日本ペイント製造株式會社

白亞ペイント	A印	一二瓩半	九、九〇〇
白鉛ペイント	同	同	一〇、一五〇
錆色ペイント	同	同	四、一〇〇
赤色ペイント	同	同	三、二〇〇
塗料ボイルド油	同	同	一六瓩 一五、三〇〇

光明丹	同	一二瓩半	七、六〇〇
繪具粉末水性ペイント(メロニア)			一磅 三五
スパーロニス			六、〇五〇
コンクリートペイント	五瓩		三、八五〇
暖房塗料	一立		三、五〇〇
パテ	白幷印七〇磅罐		四、九五〇

◎防水劑

日本セメント防水劑製造所

ウオータイト	一〇ポンド入		五、三〇〇
同	七〇ポンド入		三五、〇〇〇
クヰツクウオータイト	一〇ポンド入		六、〇〇〇
同	六〇ポンド入		三〇、〇〇〇

油脂化工社

マノール	一〇ポンド入		五、一〇〇
同	四〇ポンド入		二〇、〇〇〇
急結マノール	一〇ポンド入		三、六〇〇
同	五〇ポンド入		一七、三〇〇
エキストラ	一ガロン入		四、一〇〇
エキストラ	四ガロン入		一六、〇〇〇

◎木材其他

田村商會(神戸)

平板	一坪ニ付		九、〇〇以上
蛇腹	長サ六尺物		一、〇〇以上
鈕飾	同		六〇以上
中眞飾	同		三、五〇以上

◎建築用壁紙

パブコボード	一尺平方		一、五〇
アイボリボード	同		一、五〇

◎メタルサイデング

平 飯 角 石 一坪ニ付 八、五〇〇

◎メタルラス(引伸金網)

船來品	井26		一坪 二、八五〇
船來品	井24		一坪 三、二〇〇
和製品	井26	同	一、五〇〇
同	井24	同	一、二〇〇

◎米松角材(木場渡し)

大角材	一八吋角上	長	二四呎以上 一、〇〇以上
中角材	一二吋角上	長	二四呎以上 九、五〇以上
小角材	取合	四吋角	一〇呎 八、五〇以上
		四吋四分ノ一長	一三呎 九、〇〇以上
		四吋四分ノ三	二〇呎 一四、五〇
平材 No 8	厚六吋巾一二吋上	長	二〇呎 一四、五〇

◎米檜角材

大角材	一〇吋角上	長	二四呎上
小角材	取合	四吋角	一〇呎 八、五〇以上
		四吋四分ノ一角長	一三呎 九、〇〇以上
		四吋四分ノ三角	二〇呎 一四、五〇〇以上

◎米・杉(尺ベ一本ニ付)

丸太	一等級	末口一八吋上	長一三呎 一五、五〇〇

◎米 檜(尺ベ一本ニ付)

丸太ノ四クリヤ級	末口二四吋上	長一三呎	二七、〇〇〇以上
同	末口一八吋上	長一三呎上	一五、〇〇〇以上
米松床板(神戸同店渡し一延呎ニ付)			
巾六吋マーチヤンタブル級			〇、四五以上
巾六吋板目無節			〇、六〇以上
巾六吋柾目無節			〇、八〇以上
上巾四吋板目無節			〇、四五以上
巾四吋柾目無節			〇、五〇以上
同 二等級	同		三、〇〇〇
同 三等級	同		七、五〇〇

◎襖、桟、赤樺、白樺、櫻、栓、

(建築家具用)

新田ベニヤ製造所

三枚合、片面、巾二尺以上ハ厚サ一分五ノ(十六分三)巾二尺一寸以上ハ厚サ二分(四分一)何れも一平方尺ニ付キ

巾	長 尺	青二ッ星	青一ッ星	
一尺	六四寸	一、三〇	一、三〇	
同	同	一、三〇	一、三〇	
同	同	一、三〇	一、三〇	
同	同	一、六五	一、六五	
同	同	二、〇〇	二、〇〇	
同	同	二、〇〇	二、〇〇	
同	同	二、〇〇	二、〇〇	
同	同	二、二五	二、二五	
同	同	二、五〇	二、五〇	
同	同	三、〇〇	三、〇〇	
同	同	三、三〇	三、三〇	
同	同	四、〇〇	四、〇〇	

◎二 等 品(家具用)

厚一分五ノ(十六分ノ三)又ハ二分(四分ノ一)

三枚合	片面	代價(一平方尺)		
巾	長 尺	青二ッ星	青一ッ星	
二尺	六尺	表三枚又四枚剝混合		
		二、一〇	二、一〇	
		二、五	同	
		三、〇	同	

◎天 井 用(一坪ニ付)

巾	長 尺	青二ッ星	青一ッ星	
一尺	六四	九、一〇〇	三、七〇〇	
同	同	一〇、四〇〇	三、八〇〇	
同	同	一一、一〇〇	四、三〇〇	
以上一分五——厚			三、一〇〇	一五、六〇〇
六尺四寸			三、二〇	一四、八〇〇
同				一九、八〇〇

◎日本間用杉天井板

杉柾、杉杢　一坪　一〇、〇〇〇以上
神代杉　同　二〇、〇〇〇以上
屋久杉　同　三五、〇〇〇以上
以上二分厚

◎格天井用（厚一分五厘）

檜 欅 榉 櫻しな 栓 黄檗

寸法　樹種　代價

二尺角　青二ッ星　一〇、四〇〇
同　青一ッ星　一三、六〇〇
楓　二尺角　青二ッ星　一三、三一〇
同　同　青一ッ星　一六、九一〇

◎同　厚　二分

檜 欅 榉 櫻 しな 栓 黄檗

二尺五寸角　青二ッ星　一五、〇〇〇
青一ッ星　一八、七〇〇
楓　二尺五寸角　青二ッ星　一四、二一〇
檜 欅 榉 櫻 しな 栃 黄檗
三尺角　青二ッ星　一五、四八〇
青一ッ星　一九、四四〇

栓　三尺角　一五、一一〇
檜 欅 櫻 栓 しな 黄檗
三尺五寸角　青二ッ星　一五、三一〇
青一ッ星　一九、七七〇
楓　三尺五寸角　一九、〇〇〇
二四、七八〇

◎腰羽目用（一枚ニ付一分五厘）

厚　檜 欅 榉 櫻　なし　黄檗
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
一尺三寸五分　三尺二寸　一、〇四〇　一、三三〇
楓　一尺三寸五分　三尺二寸　一、二六〇　一、七一〇
檜 欅 榉 櫻 栓 黄檗
一尺六寸　五分　三尺二寸　一、九五〇　一、八〇〇
楓　一尺六寸五分　三尺二寸七、二〇　二、一三〇
檜 欅 榉 栓　しな　黄檗
二尺　三尺　二尺　一、七一〇　二、二八〇
楓　三尺　二尺　二、二三〇　二、八二〇

◎同　二分厚

檜 欅 榉 櫻 栓　しな　黄檗
二尺五寸　三尺　二、三三〇　三、〇〇〇
楓　二尺五寸　三尺　二、八五〇　三、七五〇

◎障子腰板用（一分五厘厚）

三枚合　兩面　一枚ニ付
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
一尺五　二尺五　一、三〇　九四〇
一尺二五　二尺三　九〇〇　一、一八〇
一尺〇五　三尺一　八七〇　一、一一〇
一尺二五　三尺一　一、三三〇　一、五二〇

◎床地板用（五分厚五枚合片面）

檜 欅 榉 櫻

巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺　六尺四寸　八、九〇〇　九、七〇〇
同　樹種
二尺五寸　六尺四寸　九、九〇〇　一三、八〇〇
三尺二寸　六尺四寸　一五、一〇〇　一九、五二〇

◎舞良戸及帶戸用（二分厚）

三枚合　片面及兩面

檜 欅 榉 櫻 しな 栓 黄檗

巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺三　六尺　片　三、九〇〇　五、一〇〇
兩　五、三五〇　七、〇一〇
楓　二尺三　六尺　片　四、九〇〇　六、八〇〇
兩　六、三五〇　八、七〇〇
檜 欅 榉 櫻 しな 栓 黄檗
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
三尺五分　六尺　片　五、九四〇　七、七四〇
兩　八、〇三〇　一〇、四五〇
楓　三尺五分　六尺　片　七、五六〇　九、七六〇
兩　一〇、三一〇　一三、三三〇

◎楓　一分五厘厚三枚合

片面　一平方尺ニ付
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺　四尺　円三七〇　四七〇
五尺　六尺　三二〇　三九〇
二尺　六尺　三二〇　四七〇
同品　二分厚三枚合片面
巾　長　青二ッ星　青一ッ星
二尺五　五尺　三八〇　五〇〇
二尺五　六尺　四一〇　五四〇
三尺　六尺　四三〇　五六〇
三尺五　七尺　四六〇　六〇〇
三尺五　八尺　五〇〇　六五〇
八尺　一〇〇　一三〇
九尺　一一〇　一四〇

◎杢物楓栓（一分五厘厚）

三枚合片面（一平方尺）

寸法　赤四星　赤三星　赤二星　赤一星

一尺五角　円一四〇　一、〇一〇　一、五〇〇
二尺角　一八〇　一、一〇〇　一、六五〇
同品　二分厚　三枚合片面
二尺五角　一、一〇　一、三五　一、三三〇
三尺角　一、三〇　一、五〇　一、八八〇
三尺五角　一、五〇　一、七〇　二、一九〇
四尺角　一、七〇　一、九〇　二、四九〇

◎杢物、楓、椹（一分五厘厚）

巾　長　赤四星　赤三星　赤二星　赤一星
二尺　四尺　一八〇　一、一〇〇　一、六五〇
二尺　五尺　一、一〇　一、三〇〇　一、九三〇
二尺　六尺　一、一〇　一、三〇〇　一、九三〇
同品　二分厚
二尺五　五尺　一、一〇　一、三〇〇　一、九三〇
二尺五　六尺　一、一〇　一、三〇〇　一、九三〇
三尺　六尺　一、一〇　一、三〇〇　一、九三〇
三尺五　七尺　一、二〇　一、四〇〇　二、〇四〇
五尺五　八尺　一、三〇　一、五四〇　二、二四〇
四尺　八尺　一、三〇　一、五四〇　二、二四〇

◎檜柾目（一分五厘又ハ二分）

三枚合　片面　一平方尺ニ付
巾　長
二尺　六尺　三二〇　三九〇
二尺五　同　三二〇　四〇〇
三尺　同　三三〇　四二〇
五尺　三五〇　四四〇
六尺　三七〇　四六〇
七尺　四〇〇　五〇〇
八尺　四二〇　五二〇
九尺　四四〇　五四〇
十尺　四六〇　五七〇
十一尺　四八〇　六〇〇
十二尺　五〇〇　六二〇
十三尺　五二〇　六五〇
十四尺　五四〇　六七〇
十五尺　五六〇　七〇〇
十六尺　五八〇　七二〇
十七尺　六〇〇　七五〇
十八尺　六二〇　七七〇
十九尺　六四〇　八〇〇
二十尺　六六〇　八二〇
二十尺以上五十尺位迄　六八〇　八五〇

◎丸鐵

山本東作商店

長サ　徑
二分　十二尺　五、〇〇
十八尺　五、五〇
二十尺　五、五〇
二分五厘　十二尺　四、九〇
十八尺　五、四〇
三分　十二尺　四、八〇
十五尺　四、八〇
十六尺　四、八〇
十八尺　四、八〇
二十尺　四、八〇
三分五厘　十二尺　四、七五
十五尺　四、七〇
十六尺　四、七〇
十八尺　四、七〇
二十尺　四、七〇
四分　十二尺　四、六〇
十五尺　四、六〇
十六尺　四、六〇
十八尺　四、六〇
二十尺　四、六〇
五分　十二尺　四、五五
十五尺　四、五五
十六尺　四、五五
十八尺　四、五五
二十尺　四、五五
六分　十二尺　四、五〇
十五尺　四、五〇
十六尺　四、五〇
十八尺　四、五〇
二十尺　四、五〇
七分　十二尺　四、四五
二十尺以上五十尺位迄　四、四〇

| | | |

一寸二分 同 一寸四分 同 一寸六分 同 二寸 同 二寸五分 同 三寸 同 三寸半 同 四寸 同 四寸五分 同 五寸 同

◎平鐵

一分厚 十二尺位 三分 同 四分 同 五分 同 六分 同 七分 同 八分 同 一寸 同 一寸二分 十五尺以上十八尺位 一寸四分 同 一寸六分 同 一寸八分 同 二寸 同

四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 五一〇 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五

三寸半 同 三寸 同 二寸半 同 二寸 同 一寸六分 同 一寸四分 同 一寸二分 同 一寸 同 八分 同 七分 同 六分 同 五分 同 四分 同 三分 厚十二尺位 二寸半 同 二寸 同 一寸八分 同 一寸六分 同 一寸四分 同 一寸二分 同 一寸 同 八分 同 七分 同 六分 厚十二尺位 五寸 同 四寸 同 三寸半 同 三寸 同 二寸六分 同 二寸四分 同 二寸二分 同 二寸 同 一寸八分 同 一寸六分 同 一寸四分 同 一寸二分 同 一寸 同 八分 同 七分 同 六分 同 五分 厚十二尺位 四寸 同 三寸半 同 三寸 同 二寸六分 同 二寸四分 同 二寸二分 同 二寸 同 一寸八分 同 一寸六分 同 一寸四分 同 一寸二分 同 一寸 同 八分 厚十二尺位

四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五 四一五

本誌定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	七拾五錢	貳錢
	十二冊	九圓	貳拾四錢

（毎月壹回）
（一日發行）

大正十四年七月三十日印刷
大正十四年八月一日發行

大阪市東淀川區中津町一九八番地
發行兼編輯人　江村恒一

大阪市東區內淡路町一丁目卅一番地
兼印刷人　大阪活版所

大阪市北區堂島濱通一丁目一番地堂島ビルヂング
印刷所　日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
發行所　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

特約販賣店

日本建築協會々報

第八輯

第八號

日本建築協會々則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス會員タラムト希望スル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ決議ス

第五條　本會ハ其ノ目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附金額又ハ物ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ決議ス

特別贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ決議ス

普通贊助員タラムト欲スル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其ノ言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任セサルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其ノ他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其ノ旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規約ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其ノ權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

第十條　脫會其ノ他ノ事由ニ依リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其ノ債務ヲ免カルヽコトヲ得ス

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名
二　副會頭　一名
三　理事長　一名
四　理事　十名（理事長タル理事ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其ノ職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但シ會頭副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但シ引續キ重任スルコトヲ得ス

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　二名
二　主計　二名
三　編輯　五名
四　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ命務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給ト爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ置ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ニ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員ノ職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但シ理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其ノ他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但シ緊急事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究
二　調査研究報告ノ發表
三　建築ニ關スル重量事項ノ議決
四　決議事項ノ實行促進
五　會誌ノ發刊
六　建築ニ關スル圖書ノ刊行
七　建築ニ關スル講演會ノ開催
八　建築ニ關スル展覽會ノ公開
九　建築ニ關スル視察
十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會
十一　理想的建築ノ計畫
十二　其ノ他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス但シ例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ルル會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ特別贊助員ハ特別贊助費年額金拾貳圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助費年額金六圓本會ニ前納スヘシ但シ六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助費其ノ他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產借權債務及每月ノ收支ハ主計其ノ計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其ノ決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

會告

左記會員、贊助員の現住所並勤務先不明の爲整理上差支を生じて居ります就ては止むを得ず例會に附議して除名致さねばならぬかと存じますから右御所在御承知のお方は本協會事務所へ御通報下さる樣願ひます

大正十四年八月

日本建築協會

會員　高堂德治

地方會員　安田繁

普通賛助員

伊藤武夫　戸山音二郎　太田四郎　若林俊一

吉本新之助　政安熊市　權藤洗二　小枝實

江藤猛夫　渡邊三郎　地福勇吉　田代正熊

矢田部喜平　野々山政金　青木立三　小林久之助

清原佐市　坂根秋光　田中儀一　桑田誠一郎

八木幸助　板垣要　平田茂樹　檜山一男

好岡享　杉本久吉　大下守造　池永恒男

關西工學專修學校 生徒募集

大阪市北區樋之口町
電話 局一五二八番

本校顧問 直木復興局長官、武田京大建築科長、青柳京大電氣科長、內山內務技師

校長 片岡工學博士

講師 京大近藤、加藤、井上、重松各教授初メ內務省、大阪府大阪市、遞信局並ニ大阪市內外各電力會社、軌道會社、在勤工學士數十名

學科及修業年限
土木科建築科及電工科 各本科一ケ年半 研究科半年 豫科一ケ年
土木科建築科各本科及研究科卒業者ハ各官署及府縣廳技手（判任）ニ採用セラル
電工科卒業者ハ遞信省電氣主任技術者第二種試驗ヲ受ケル學力ヲ具備セシム

卒業後ノ資格

今回募集人員
土木建築電工各科本科一期（中學卒業者ハ無試驗編入）三百名
豫科一期（中學三學年修了者ハ無試驗編入）三百名
豫科一期（高等小學卒業及中學二學年修了者ハ無試驗編入）五百名

入學申込期限 大正十四年九月二十日

新學期開始 大正十四年十月一日

（學則郵券要二錢）

尙卒業者ハ本校ヨリ各方面ヘ就職斡旋ノ勞ヲ執ル

會報

一、構造計算調査委員會委員の件
同委員矢崎高儀氏は今回東京へ轉住の爲委員辭退せられましたから補缺として永澤毅一氏に願ふことに決定致しました

一、職工賃金に關する件
今般建築業協會長より職工賃金に關し改正實行の旨左の通り通知に接しました參考の爲登載します

拜啓陳者近來一般職工賃金下落の模樣に付去る二十四日當協會に於て開會せる右協議會に於て別紙の通り改正決定仕候
就ては來る七月一日より實行可致候に付此の段御通知申上候　敬具
大正十四年六月二十五日
建築業協會
會長　橫河民輔
日本建築協會殿

七月一日ヨリ實行

名稱	單位	勞銀	指數
大工	一人	3.50	350
木挽	同	4.00	400
鑄土	同	2.30	354
人工	同	2.30	384
女人夫	同	1.90	346
	同	1.10	286
石工	同	4.10	283
同手傳	職	2.60	346
同瓦葺	職	3.60	327
同屋根	職	2.40	370
瓦スレート葺	職	4.00	364
錺工	同	3.90	555
建具	職	3.60	288
同指物	同	3.70	336
左官	中等	3.80	345
建具	職	3.80	380
同表具	職	3.40	283
硝子	職	2.90	290
ペンキ	職	3.20	320
鍛冶	職	3.10	344
運送	手	一噸 3.30	275
同馬力二輪	同	6.20	248
同馬力四輪	同	7.80	236
指數平均			225
貨物自動車運轉手共(一噸)	同	22.00	
同　同　(二噸)	同	35.00	
鐵筋工	一人	2.70	

一、賛助員逝去の件
特別賛助員沖向介氏は五月十四日逝去の趣通知に接しました淘に痛悼の至りであります本協會は弔狀を呈し哀悼の意を表しました

會合

○定例理事會

△日時　七月八日午後五時三十分——九時
△會場　本協會會議室
△出席者　園部理事、和田理事、吉井理事、伊藤理事、光安理事、松本儀理事
△報告　六月分會計報告
△議事　松本理事長病氣の爲欠席に付決議により園部理事理事長代理となり議事に入る

一、七月例會に關する件
七月例會開催に付左の通決定
一、時　七月十七日（金）午後正六時開會
一、所　府立實業會館中會堂
（市電內本町停留場下車　松屋町北へ入西側）

一、順序
1、報告　會務報告
2、講演
地震の豫知と震災の豫防に就いて
海洋氣象臺技師　須田皖次氏

二、法人組織委員會報告の定款並細則審議に關し日取決定の件
七月二十二、三日の兩日中に臨時理事會開催のことに決定

三、其他左の諸件に付協議せり
1、構造計算調査委員會報告の構造強度に付質疑答に關する會告の件
2、鐵筋混凝土工講習會講義錄出版に關する件
3、基本金預入に關する件
4、白蟻發生に關する回答の件

四、會員銓衡

○構造計算調査委員會

△日時　七月九日午後五時三十分——九時
△會場　本協會會議室
△出席者　委員長　增田　清
主査　大野直平
委員　今林彦太郎、池田宮彦、渡邊圭吾、田邊平學、谷田實、黑田茂、靑柳貞世、鹽路惣吉
理事　光安禮之助
△記事

一、增田委員長より調査事項提案者池田委員に問題說明を乞ひ同委員より大體に付說明ありて意見の交換となる

一、風力其他に關し討議研究

一、構造計算に關し希望事項、問題等を募集するの件に付理事會に提出することを可決

一、八月の定例日は休會とすることに決定

○例會

△日時　七月十七日午後六時―十時二十分
△會場　大阪府立實業會館中會堂
△出席者
生野彌三郎　池田豐三　伊藤正文
大河原達海　小川安一郎　奥野時三
小田島兵吉　神尾秀雄　吉井長七
武田五一　高橋榮治　田中寛造
波江悌夫　中川彌八　中西六郎
村上徹一　村野藤吉　浦英之助
楠瀨激　八木幸次郎　前田清二
松本儀八　船本晋　藤村武
小寺彌一　安部万助　早貝俊夫
左谷米三郎　光安梶之助　三宅万太郎
篠原太郎　白川雄一　森本藤吉
森篤次郎　末澤周次
（賛助員）
中川辰藏　多田學　石井久雄
鹽田武一　安藤伊右衛門　篠崎衆二
加藤一俊

△記事

一、伊藤理事理事長代理として開會を宣し講演者須田悦次氏を紹介し同氏拍手を以て迎へられつゝ演壇に立ち左の講演を開始す

地震の豫知と震災の豫防に就いて

一、講演一時間を過ぐる五十分の長きに渉り一段落を告げしを以て暫時休憩をなす

一、此休憩時を利用して伊藤理事より會務報告あり

一、十分間休憩の後再び須田氏講演を續け是亦時餘にして拍手の裡に終る

一、夫より伊藤理事は一同を代表して講演者に謝辭を述べ一同拍手を以て之れに和し次で伊藤理事は閉會を告げ解散せり

○臨時理事會

△日時　七月二十二日午後五時三十分―八時半
△會場　本協會會議室
△出席者　松本理事長、園部理事、古塚理事、光安理事、松本儀理事、横濱法人組織委員
△議事　松本理事長より開會を告げ直に議事に入る

一、法人組織委員會報告の定款並細則審議の件

横濱委員より本夕委員長出席の上報告すべき筈なるも起草したる關係上自分の出席する方便宜とし委員長代理として出席し報告を兼ねて質問に應する旨を述べ定款細則を作成したる主旨等より説明あり

定款及細則審議に付て協議の上逐條的に審議を行ふことに決し理事長期讀をなし各條に付審査し全部を終り尚今一回調査研究をなすことに決す

二、構造計算調査委員會委員一名辭退申出に付承認並補缺の件

委員矢崎高儀氏今回東京へ轉住の爲委員辭退申出られしに付承認のことに決し補缺として永澤毅一氏に依囑することに決定

○新入會員及賛助員

會員の部

菅田登美雄君　京都府伏見京町二丁目
中出丑三君　大阪市北區此花町二ノ三九
沼舘與惣吉君　大阪市東成區上ノ辻町八六

普通賛助員の部

堤越郎君　大阪市此花區今開町一ノ三三
中村喜七君　大阪天王寺區國分町一二一
伴仲信次君　東京市神田區錦町三ノ八山本組東京支店
別府尚逸君　大阪市港區市岡壽町二ノ二九三ノ五一

○退會賛助員

普通賛助員の部

天津英次君　篠原武君
勝田每次郎君　萩原衆利君
久保田進君　石井九二三君
小西武雄君

○逝去賛助員

特別賛助員　沖尚介君　大正十四年五月十四日逝去

○住所及勤務先移動

會員の部

田中寛造君　大阪府北河内郡樟葉村大字楠葉三二七五
高松吉三郎君　福岡縣朝倉郡夜須村中平田
木村樽次郎君　神戸市長田名倉町二ノ三七
高木與吉君　滋賀縣滋賀郡膳所大林組膳所出張所
北川正彌君　京都府綾部町裏町井内方
矢田鐵藏君　大阪府三島郡千里山住宅六六號
林正信君　大阪市天王寺區谷町九ノ一
大倉三郎君　千葉縣津田沼鐵道聯隊第二中隊見習士官
前田光之助君　大阪市北區新川崎町一ノ二八前田松本建築事務所
三浦儀市君　京都市上京區岡崎圓勝寺町藤井方
魚住儀一君　東京市役所建築局營繕課

地方會員の部

木田延衛君　東京市外澁野川町澁野町四川五五
山田信君　東京府下淀橋町柏木四六

小林　利助君　東京市日本橋區本町三ノ一竹中工務店

松江　秀季君　千葉縣市川町市川新田二九三

和田　喜藏君　大連市薩摩町六九　南滿洲鐵道株式會社鐵道部保線課

廣瀨　恭君　東京市麴町區有樂町三菱二一號館酒井工業店

東京府荏原郡蒲田町御園三三五

青田　忠時君　大津市中保町二八　特別賛助員の部

武安　笑吾君　東京市丸ノ內復興局建築部技術課　普通賛助員の部

田中　數雄君　岡山市六番町二五

大村　大藏君　東京府下淀橋町柏木二六八

三木　作二君　神戸市外六甲村八幡字山田六四

今村　博成君　大阪市港區四條通二ノ二三

村本文田郎君　金澤市鞍所町七番丁二

神戸　重吉君　大阪市心齋橋順慶町植村時計店

山田　芳雄君　大阪市天王寺區北日東町一五三

田原三平男君　大阪府豐能郡豐中村字新免八九一

鹽田　武一君　大阪市北區善源寺町九ノ五四

小泉　吉明君　大阪市港區八幡屋松ノ町二ノ二〇八西谷方

清永　倉八君　名古屋市中區下堀川町大林組日置橋出張所

若林　鍊三君　東京府下戶塚町上戶塚一〇三二

吉田榮次郎君　東京府下駒澤村上馬引千宇常槃一三五四

植松與右衞門君　京都市上京區下立賣澤本　西入清水組京都支店

西村　圓二君　神戶市熊內町竹中工務店神戶支店

廣田　好文君　大阪市港區八幡屋町賣町二一九中田方

○歐米出張

會員植賀宗三郎君は商工省囑托及高島屋吳服店の社命を奉れ約一ケ年の豫定で歐米各地の裝飾美術及圖案視察研究の爲七月九日神戶港を出帆渡航されました

寄贈圖書

工業ノ大日本　七號　工業ノ日本社

電氣評論　七月號　同　社

都會　人　第七光都　人　社

會　報　第二七號　名古屋工業會

學士會月報四四八號　學士會

建築世界　七號　建築世界社

工業之友　第一九號　工手學校同窓會

セメント界彙報　第二九號　日本ポートランドセメント同業會

建築畫報　七月號　同　會

住宅　七月號　住宅改良會

工政　七月號　工政會

土木建築　七月號　土木建築社

建築新潮　七月號　洪洋社

大阪工業俱樂部　六月號　大阪工業俱樂部

滿洲建築協會雜誌　六月號　同　會

帝國鐵道協會報　三六號　同　會

工業タイムス　六月號　同　社

滿洲技術協會誌　八號　同　會

電氣學會雜誌　七號　同　會

鐵道軌道經營資料　七月號　鐵道同志會

庭園　七月號　庭園協會

國際建築時論　第七號　國際建築協會

建築の普及　七月號　帝國工業教育社

東京工業會雜誌五號　同　會

工業評論　七號　同　社

朝鮮と建築　七號　同　會

建築雜誌　六月號　建築學會

通俗衛生　七月號　大阪府衛生會

工事畫報　四月號　同　社

大阪實業　十三號　大阪實業協會

外務省通商局長外三氏講演速記錄　日本工業俱樂部

趣味ノ園藝　七月號　關西園藝會

京都の實業　第三號　京都商業會議所

役員及職員

會頭　片岡安

副會頭　宗兵藏

理事長理事　松本禹象

主記理事　園部文雄

同　理事　和田貞治郎

主計理事　吉井長七

同　理事　澁谷五郎

同　理事　田中綱

同　理事　古塚正治

同　理事　光安梶之助

同　理事　松本儀八

編輯係　江村郊邨　薦田夏治郎

庶務係　西谷節　靏取陽

會計係　大和榮衛　山口スエ

會員	三九三	會員（地方）	一六二
名譽賛助員	七	終身賛助員	五五
特別賛助員	二八	普通賛助員	五一六
合計（現在七月二十日）			一二二六

●第八集　第八号　掲載広告一覧（掲載順）

井上幸三商店
飾磨化学工業
大野正営業所
日本エレベーター製造
浅野スレート販売
小原鉄工商事
宇部セメント製造
政正
玲光社
大正練革塗工業所
石綿スレート大阪支店
大阪ビトロライト工事
南満鉱業
浅野物産
ベニア商会
木下商店
丸三セメント工業所
田村商会
梅原組
メタルラス社
HANKEN SEISAKUSYO
東亜鉄工所

大平工業所
油脂化工社
日本ホロタイル
日米工務所
湯浅蓄電池製造
東洋コルク工業
KENSEISHOKAI
日本建築紙工大阪出張所
高木鉄工所
原田商会
日本セメント防水剤製造所
野沢幸三郎商店
日本洋瓦大阪出張所
金剛商会
大阪陶業
開運スレート商会
中村グラニット商会
桐田商会
米山製作所
阿部鉄工所
長田商店
日本工剤

東亜ペイント製造
建築金物商会
島田硝子製造所
森川組
田中昌司商店
大福海上火災保険
三井物産
城口研究所
出浦建築事務所
新海建築工務所
大阪建築相談所
小笠原建築事務所
岡部顯則建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
野村、橋本建築事務所
安井武雄建築事務所

柳下建築事務所
増田清建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯組
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木工務店
正木工務店

岡本工務店
鴻池組
有山組
駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
大阪耐火リノリウム工業
須賀商会
栄進社
松尾鉄骨橋梁
新田ベニヤ製造所
大阪青写真調製所
山本窯業商店
常盤貿易商会
高島屋呉服店
サカイブン建築鉄工所
浅海商店
ベニス工房
別府スティンド硝子製作所

星製薬
内外土木建築材料
日本耐火スレート
日米建築資料社
日米板硝子
日本木材工芸
カール・ツアイス
品川白煉瓦
熊谷組
河村青写真調製所
デウエット商会
三宅茂雄商店
田中源太郎商店
極東硝子工業